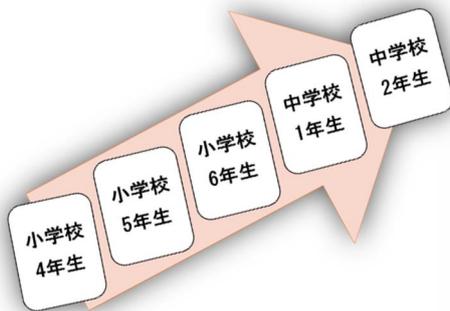


令和5年度

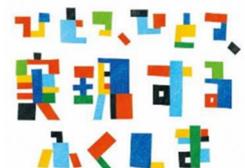
# ふくしま学力調査 分析報告書

子どもたちが  
どれだけ自分が伸びたかを実感し、  
自信を深め、意欲を高め、  
さらに学力を伸ばすために  
**「ふくしま学力調査」**を実施します



ふくしま応援！  
「ペコ太郎」

令和5年12月  
福島県教育委員会



# 目次

<b>1</b>	<b>ふくしま学力調査について</b>	<b>1</b>
<b>2</b>	<b>調査結果から見える県全体としての傾向</b>	<b>3</b>
<b>3</b>	<b>教科に関する調査の結果</b>	<b>6</b>
	(1) 県全体の平均正答率(%)と「学力のレベル」	6
	(2) 県全体のカテゴリ別平均正答率(%)	6
	(3) 県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化	7
	(4) 県全体の「学力のレベル」の分布	8
	① 国語	8
	② 算数・数学	10
	(5) 県全体の「学力の伸び」の状況	12
	① 国語	12
	② 算数・数学	14
<b>4</b>	<b>学習指導のポイント</b>	<b>16</b>
	(1) 教科別授業改善の視点	16
	(2) 国語	18
	(3) 算数・数学	23
<b>5</b>	<b>「非認知能力」・「学習方略」等の質問項目</b>	<b>28</b>
	(1) 非認知能力	28
	(2) 学習方略	31
	(3) 主体的・対話的で深い学び	33
	(4) 帳票40を活用した分析	34
<b>6</b>	<b>児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」</b>	<b>35</b>
	(1) 授業に関すること	35
	(2) 学習意欲や学習環境に関すること	43
	(3) 家庭での生活に関すること	61
<b>7</b>	<b>エビデンスに基づく授業改善に向けた支援</b>	<b>74</b>

特別寄稿 分析協力者・

宮城教育大学教職大学院 田端健人教授より . . . 76

# 令和5年度 ふくしま学力調査 分析報告書

令和5年12月20日  
福島県教育委員会

## 1 ふくしま学力調査について



### 1 調査の目的

児童生徒一人一人の学力の伸びや学習等に対する意識、生活の状況等を把握する調査を実施し、教育及び教育施策等の成果と課題を検証するとともに、その改善を図るための方策を構築し、一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

### 2 調査実施日

令和5年5月11日（木）～26日（金）

※ 各学校において期間の中から1日を選択し、全学年同日に実施。

### 3 参加学校数・参加人数

(1) 小学校 392校

※ 義務教育学校前期課程及び県立特別支援学校小学部を含む。以下同じ。

(2) 中学校 211校

※ 義務教育学校後期課程及び県立特別支援学校中学部を含む。以下同じ。

(3) 児童生徒数（人）（質問紙を含むいずれかの教科を1つ以上実施した児童生徒の人数）

小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生
13,986	13,025	13,465	13,540	13,212

### 4 調査事項

(1) 教科に関する調査

- ① 小学校第4学年～第6学年 国語、算数
- ② 中学校第1学年・第2学年 国語、数学

(2) 質問紙調査

- 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

### 5 結果の活用について

(1) 児童生徒の学習改善に活用する

各学校は、個人結果票をもとに児童生徒に学習改善に向けたアドバイスを行う。また、個人結果票を保護者と連携するための資料とし、家庭学習の充実につなげていく。

(2) 各学校の授業改善に活用する

各学校は、返却された結果から児童生徒の「学力のレベル」や「学力の伸び」の状況を分析し、学力を伸ばした可能性の高い取組を校内で共有するなど学力向上のプラン等を見直し、今後の授業改善につなげていく。

## 6 「学力のレベル」と「学力の伸び」について

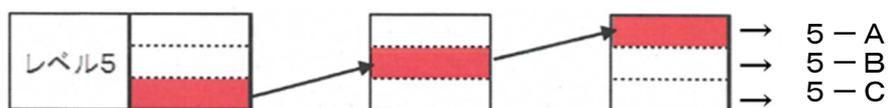
各学年ごとのレベルの範囲 (白が当該学年のレベルの範囲です)

レベル	小4	小5	小6	中1	中2	中3	レベル	レベル(3分割)	数値
	レベル12							レベル12	12-A
								12-B	35
								12-C	34
レベル11							レベル11	11-A	33
								11-B	32
								11-C	31
レベル10							レベル10	10-A	30
								10-B	29
								10-C	28
レベル9							レベル9	9-A	27
								9-B	26
								9-C	25
レベル8							レベル8	8-A	24
								8-B	23
								8-C	22
レベル7							レベル7	7-A	21
								7-B	20
								7-C	19
レベル6							レベル6	6-A	18
								6-B	17
								6-C	16
レベル5							レベル5	5-A	15
								5-B	14
								5-C	13
レベル4							レベル4	4-A	12
								4-B	11
								4-C	10
レベル3							レベル3	3-A	9
								3-B	8
								3-C	7
レベル2							レベル2	2-A	6
								2-B	5
								2-C	4
レベル1							レベル1	1-A	3
								1-B	2
								1-C	1

### (1) 学力のレベル

全ての問題に難易度を設定し、「どのくらい難しい問題を解く力があるか」を「学力のレベル」で表す。「学力のレベル」はレベル1からレベル12までであるが、測定は各学年7つのレベルで行う。なお、福島県で中学3年生は実施しないため、「学力のレベル」はレベル11までである。

さらに、1つの「学力のレベル」は3分割され、「学力の伸び」が詳細に分かる。例えば、同じレベル5でも、「学力のレベル」が高くなるとバーの位置が上がる。



### (2) 学力の伸び

集計対象となる児童生徒の「学力のレベル(3分割)」を数値化し、前回調査との差を計算する(例: 1-Cは“1”、11-Aは“33”)。

### (3) 「学力が伸びた児童生徒」の定義

「学力のレベル(3分割)」を数値化した数値が、前年度から1以上増加した児童生徒を「学力が伸びた児童生徒」と捉える。

## 2 調査結果から見える県全体としての傾向

### 1 教科に関する調査の結果から

#### 【国語】

#### (1) 県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化 (P7)

- 全ての学年において、令和4年度調査から数値が1～4上がっており、着実に学力が伸びている。
- どの学年も、約6割から8割の児童生徒が、令和4年度調査から学力を伸ばしている。
- 学年が上がるにつれて数値の伸び幅が小さくなっている。

#### (2) 県全体の「学力のレベル」の分布 (P8～9)

- 年度の異なる同じ学年集団の経年比較から、小学4年生、小学5年生は「学力のレベル」の平均の位置が、令和4年度から1つ上がり、他の学年は同じである。
- 同じ学年集団の経年比較から、小学校6年生、中学校1年生は、「学力のレベル」の平均の位置が、令和4年度から1つ上がり、小学校5年生は2つ上がっている。
- 同じ学年集団の経年比較から、中学校1年生、中学校2年生においては、最下位レベルの割合が多くなっている。

#### (3) 県全体の「学力の伸び」の状況 (P12～13)

- 全ての学年において、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルは、前年度調査と比べて数値が3上がっており、着実に学力が伸びている。
- 中学校1年生、中学校2年生においては、上位から25%～75%に位置する生徒が属するレベルが、最上位及び最下位の生徒が属するレベルほど上がっておらず、中位層の生徒の「学力の伸び」が少ない。

全ての学年において、年々着実に学力が伸びている。また、どの学年も、約6割から8割の児童生徒が、令和4年度調査から学力を伸ばしている。

一方、学年が上がるにつれて数値の伸び幅が小さくなっていることや、中位層の生徒の「学力の伸び」が少ないことから、国語科の学習を通して「何ができるようになるか」が児童生徒にとって不明確であり、主体的な学びが実現できていない可能性がある。改めて学習指導要領改訂の趣旨や各領域の指導事項の意図するところを確認し、「何ができるようになるか」を児童生徒と共有することが大切である。併せて、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を具体的に示し、児童生徒が見通しをもって主体的に学ぶことができるようにすることも求められる。

## 【算数・数学】

### (1) 県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化 (P7)

- 小学校5年生、小学校6年生において、令和4年度調査から数値が1～2上がっており、学力が伸びている。
- 中学校1年生、中学校2年生においては、昨年度と同じ数値であり、学力が伸びていない。
- どの学年も、6割前後の児童生徒が、令和4年度調査から学力を伸ばしている。

### (2) 県全体の「学力のレベル」の分布 (P10～11)

- 年度の異なる同じ学年集団の経年比較から、小学校6年生は「学力のレベル」の平均の位置が、令和4年度から1つ下がり、他の学年は同じである。
- 同じ学年集団の経年比較から、小学校5年生は「学力のレベル」の平均の位置が、令和4年度から1つ上がり、他の学年は同じである。
- 同じ学年集団の経年比較から、全ての学年において、上位レベルに属する児童生徒の割合が少なくなり、下位レベルに属する児童生徒の割合が多くなる傾向がある。

### (3) 県全体の「学力の伸び」の状況 (P14～15)

- 全ての学年において、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルは、前年度調査と比べて数値が3上がっており、着実に学力が伸びている。
- 全ての学年において、上位から25%～75%に位置する児童生徒が属するレベルが、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルほど上がっておらず、中位層の児童生徒の「学力の伸び」が少ない。

学年によって伸び幅の違いはあるものの、小学校においては、年々学力が伸びているが、中学校においては学力の伸びが見られない。また、どの学年も、6割前後の児童生徒が、令和4年度調査から学力を伸ばしている。

一方、学年が上がるにつれて、中央のレベルより下位の児童生徒の割合が多くなっていく。このことから、早い段階でつまづきを解消できるよう、児童生徒一人一人がどのようなつまづきをしているのかを分析し、具体的な支援を行うなど、個別最適化された学びを実現することが求められる。

## 2 児童生徒質問紙調査と学力の関係から (P35～73)

### 【「学力のレベル」の高さと関係が見られた回答】

#### (1) 授業に関すること

- 授業で学習の見通しを持つことや、話し合い活動で自分の考えを持つこと、学習内容のつながりを明確にすることがあったとする回答。

#### (2) 学習意欲や学習環境に関すること

- 学習の準備を整え、授業に臨むことができているとする回答。
- 教師及び他の児童生徒から認められたことがよくあるとする回答。
- 教師の話や友達の発表をしっかりと聞き、発表することができるとする回答。

#### (3) 家庭での生活に関すること

- 中学生において、土曜日や日曜日など学校が休みの日に勉強する時間が長いとする回答。
- 読書の冊数が多いとする回答。
- 家庭にある本の冊数が多いとする回答。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、学習意欲や自己肯定感の醸成などにつながる学級経営、家庭学習の充実等は学力向上に与える影響がある。引き続き、「ふくしまの『授業スタンダード』」を活用した授業改善、一人一人の児童生徒を大切にされた学級経営、「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」を基にした自己マネジメント能力の育成を通して、児童生徒の資質・能力の育成を図っていくことが重要である。

上記の結果は、県全体としての傾向であり、そのまま各自治体や各学校・各学級においても同じであるとは限らない。県全体としての傾向を参考にしつつ、各自治体や各学校に送付されている結果帳票を活用し、詳細に分析することが重要である。その分析結果から実態を捉え、授業の質の向上や望ましい学級集団づくり等に生かしていくことで、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばしていくことが期待できる。

### 3 教科に関する調査の結果

#### (1) 県全体の平均正答率(%)と「学力のレベル」

	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生
国語	63.8	62.3	61.3	64.3	60.8
	6-C(16)	7-C(19)	7-A(21)	8-C(22)	8-B(23)
算数 数学	63.2	62.2	56.8	56.8	56.3
	5-C(13)	6-C(16)	6-B(17)	7-C(19)	7-A(21)

上段：平均正答率(%) 下段：平均の学力のレベル(数値)

#### (2) 県全体のカテゴリー別平均正答率(%)

##### 【国語】

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別 平均正答率		問題形式別 平均正答率	
	言葉の 使い方 の特徴や	我が国の 言語文化 の扱い方、	書くこと、 話すこと、 読むこと	読むこと	知識・ 技能	思考・ 表現・ 判断・	選択 式	短答 式
小学校4年	68.2	63.1	51.4	60.3	66.9	54.7	65.4	59.8
小学校5年	68.1	62.3	62.8	48.6	66.2	54.3	63.5	57.4
小学校6年	72.0	45.8	51.8	55.2	67.4	54.0	61.8	59.8
中学校1年	70.3	42.7	58.5	71.6	62.6	66.6	65.2	59.4
中学校2年	54.3	66.5	71.7	61.9	58.9	64.8	60.2	66.8

##### 【算数・数学】

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別 平均正答率		平均正答率 問題形式別	
	数と計算	図形	測定(小4) 変化と関係 (小5・中1)	データの活用	知識・ 技能	思考・ 表現・ 判断・	選択 式	短答 式
小学校4年	71.1	55.6	55.6	61.3	66.5	49.4	64.0	62.5
小学校5年	60.9	61.3	63.9	65.9	63.5	59.4	62.9	61.2
小学校6年	60.2	60.9	54.1	44.7	59.2	47.7	58.6	53.5
中学校1年	60.2	50.1	57.5	62.7	56.2	58.5	62.2	50.3
	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別 平均正答率		平均正答率 問題形式別	
	数と式	図形	関数	データの活用	知識・ 技能	思考・ 表現・ 判断・	選択 式	短答 式
中学校2年	58.1	46.6	62.2	62.2	59.3	47.2	58.7	53.1

### (3) 県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化

#### ○ 国語

学年	小4	小5	小6	中1	中2
現中2	H31 1 6	R2 中止	R3 2 0	R4 2 2	R5 2 3
現中1	R2 中止	R3 1 8	R4 2 0	R5 2 2	
現小6	R3 1 8	R4 1 8	R5 2 1		
現小5	R4 1 5	R5 1 9			
現小4	R5 1 6				

#### ○ 算数・数学

学年	小4	小5	小6	中1	中2
現中2	H31 1 5	R2 中止	R3 1 8	R4 2 1	R5 2 1
現中1	R2 中止	R3 1 6	R4 1 9	R5 1 9	
現小6	R3 1 4	R4 1 6	R5 1 7		
現小5	R4 1 4	R5 1 6			
現小4	R5 1 3				

※ 表の中の数値は、児童生徒の「学力のレベル（3分割）」を数値化したものである。

※ 横に見ると「同じ学年集団」を、縦に見ると「年度の異なる同じ学年」を比較することができる。

#### ○ 令和4年度調査から学力が伸びた児童生徒の割合（％）（県全体）

	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生
国語	85.9	81.3	62.4	64.9
算数・数学	69.3	63.9	54.9	53.9

※ 小学校4年生の学力の伸びが見られるのは、令和6年度調査実施後となる。

#### 【国語】

##### （同じ学年集団の経年比較）

- 全ての学年において、令和4年度調査から数値が1～4上がっており、着実に学力が伸びている。
- どの学年も、約6割から8割の児童生徒が、令和4年度調査から学力を伸ばしている。
- 学年が上がるにつれて数値の伸び幅が小さくなっている。

##### （年度の異なる同じ学年の比較）

- 中学校1年生は前年度と同じ数値である。小学校4年生、小学校5年生、小学校6年生は前年度より数値が1高くなっている。

#### 【算数・数学】

##### （同じ学年集団の経年比較）

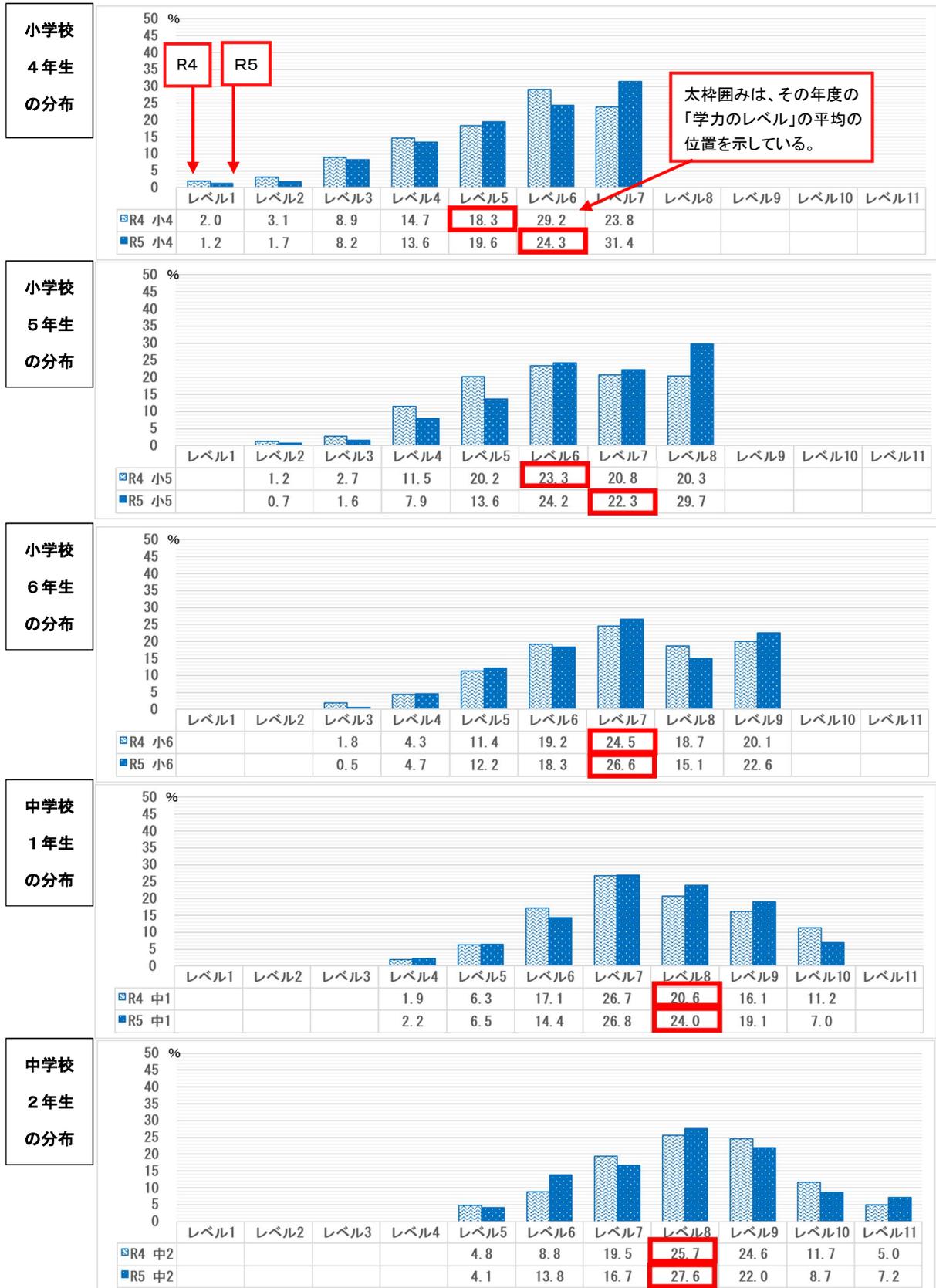
- 小学校5年生、小学校6年生において、令和4年度調査から数値が1～2上がっており、学力が伸びている。
- 中学校1年生、中学校2年生においては、昨年度と同じ数値であり、学力が伸びていない。
- どの学年も、6割前後の児童生徒が、令和4年度調査から学力を伸ばしている。

##### （年度の異なる同じ学年の比較）

- 小学校5年生は前年度と同じ数値である。小学校4年生、小学校6年生、中学校1年生は前年度より数値が1～2低くなっている。

## (4) 県全体の「学力のレベル」の分布 ① 国語

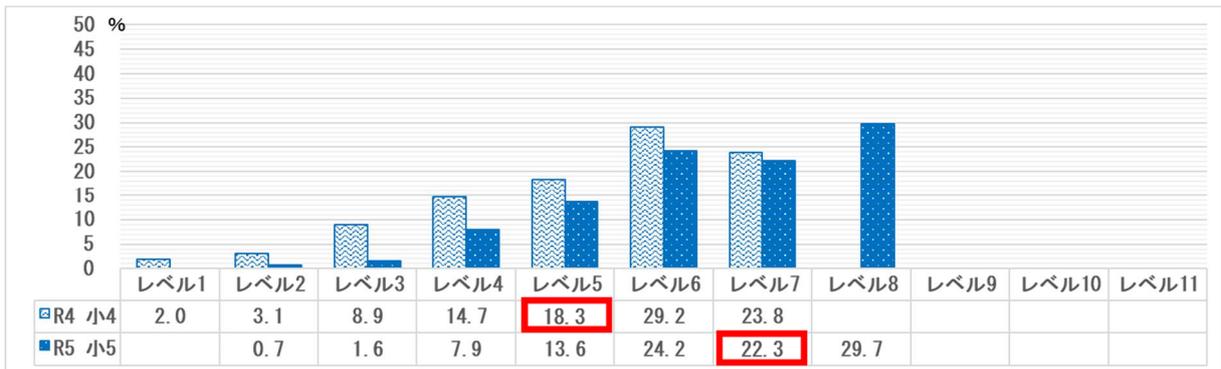
### 【年度の異なる同じ学年の比較（国語）】



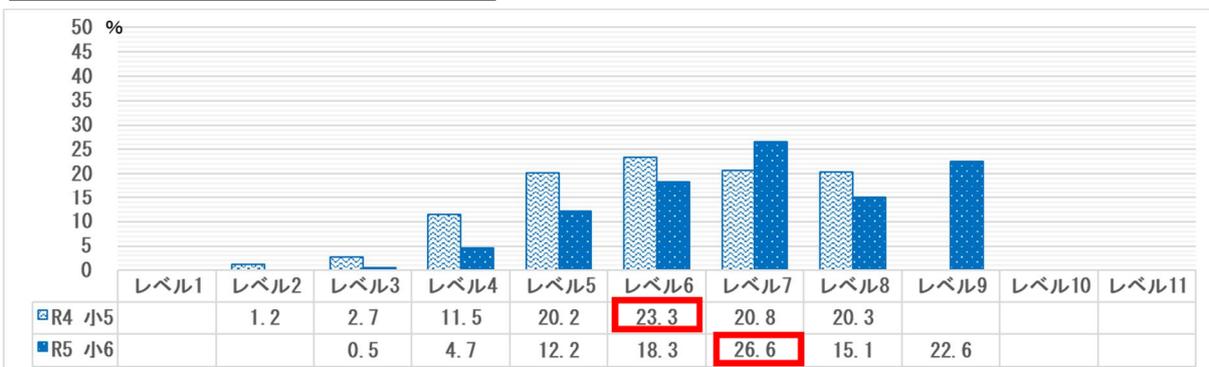
※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

## 【同じ学年集団の経年比較（国語）】

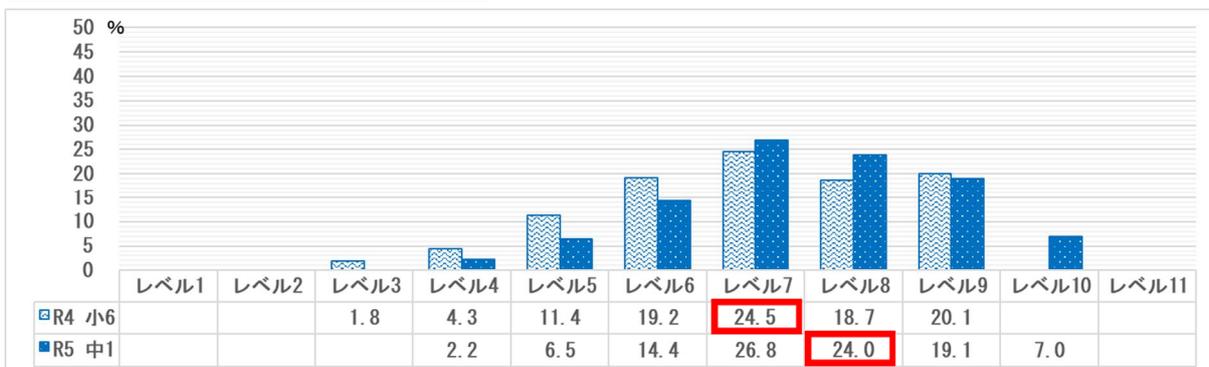
R4小学校4年生 → R5小学校5年生



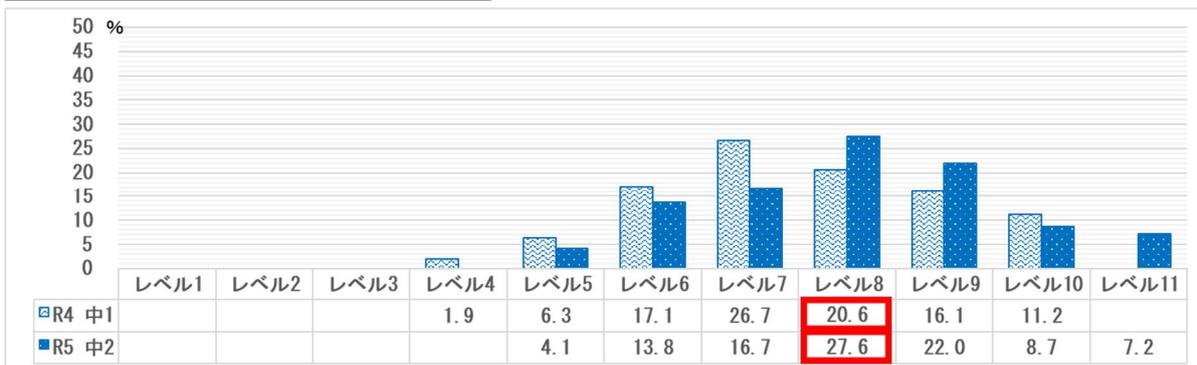
R4小学校5年生 → R5小学校6年生



R4小学校6年生 → R5中学校1年生

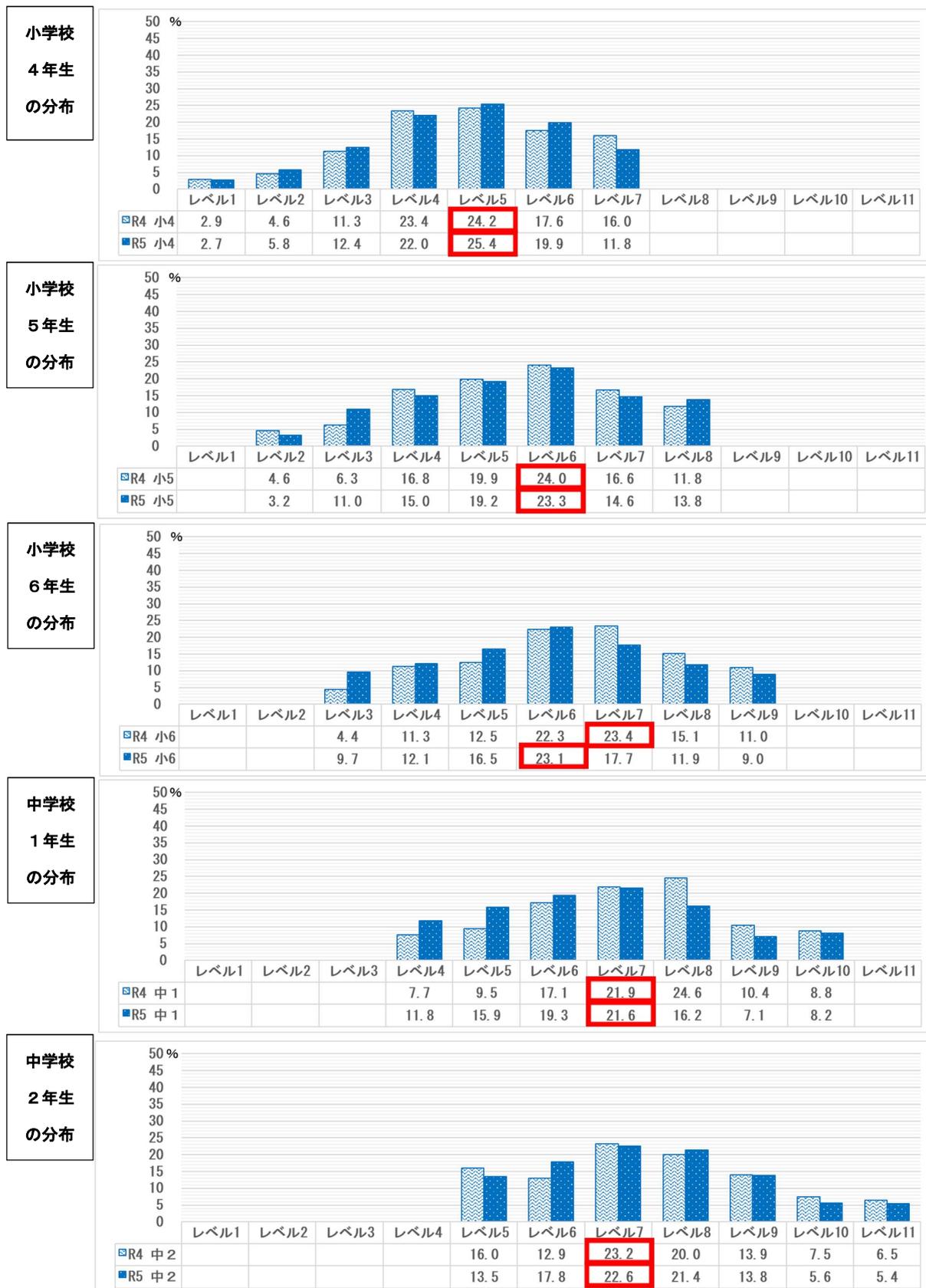


R4中学校1年生 → R5中学校2年生



## (4) 県全体の「学力のレベル」の分布 ② 算数・数学

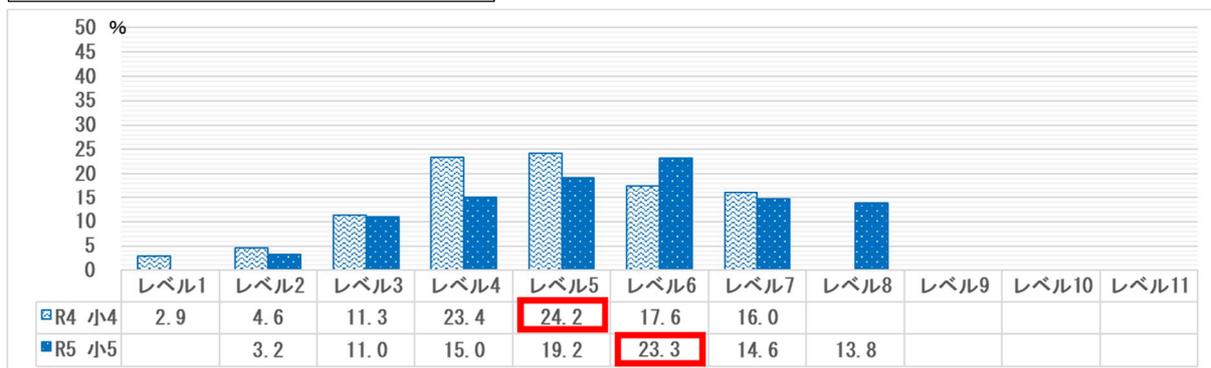
### 【年度の異なる同じ学年の比較（算数・数学）】



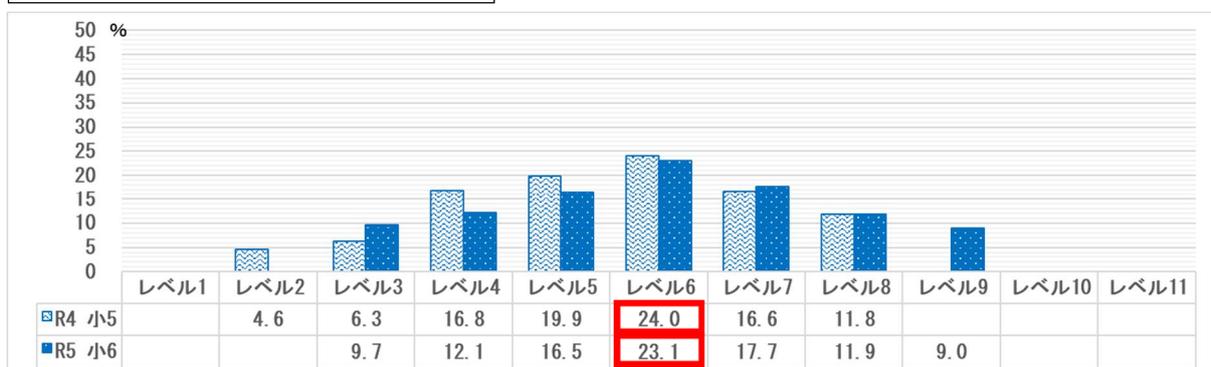
※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

## 【同じ学年集団の経年比較（算数・数学）】

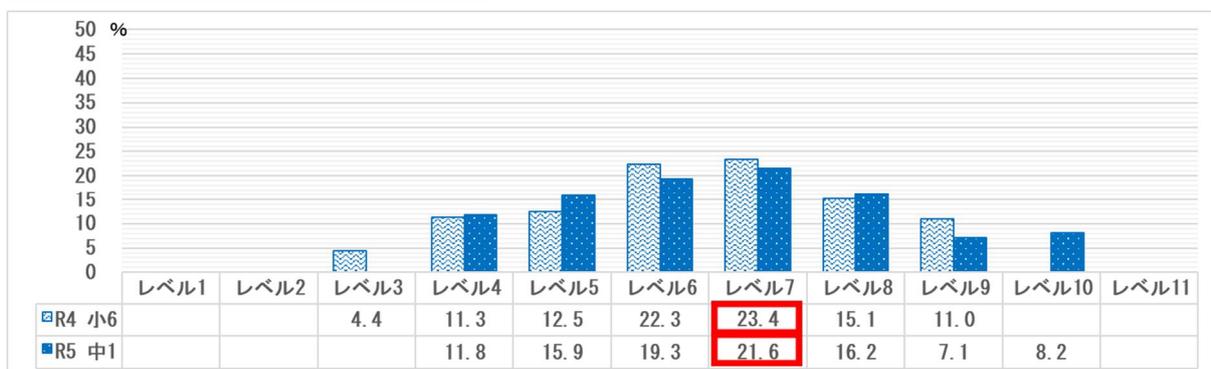
R4小学校4年生 → R5小学校5年生



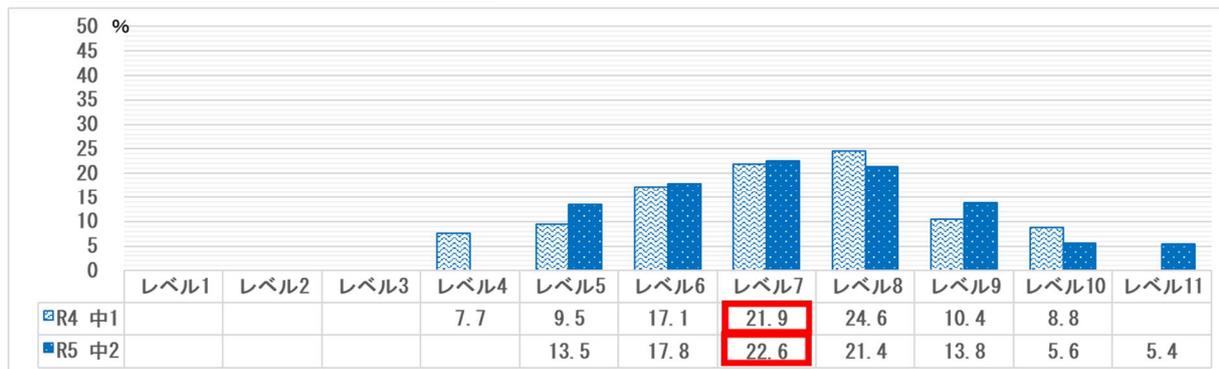
R4小学校5年生 → R5小学校6年生



R4小学校6年生 → R5中学校1年生



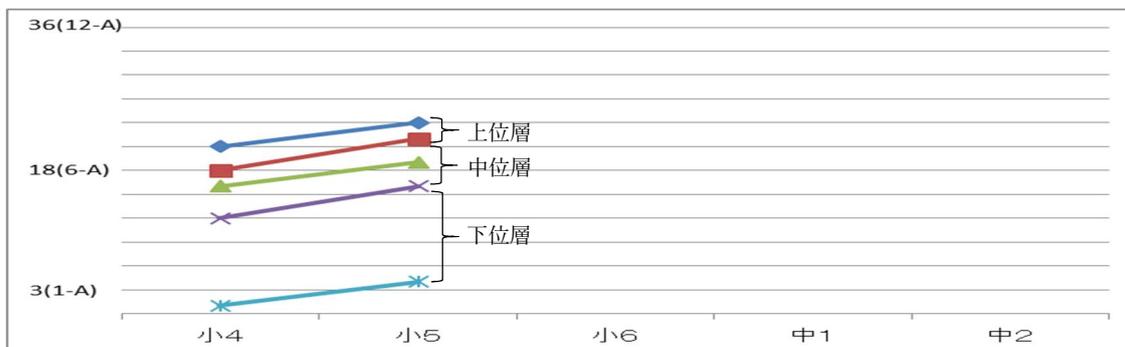
R4中学校1年生 → R5中学校2年生



## (5) 県全体の「学力の伸び」の状況 ① 国語

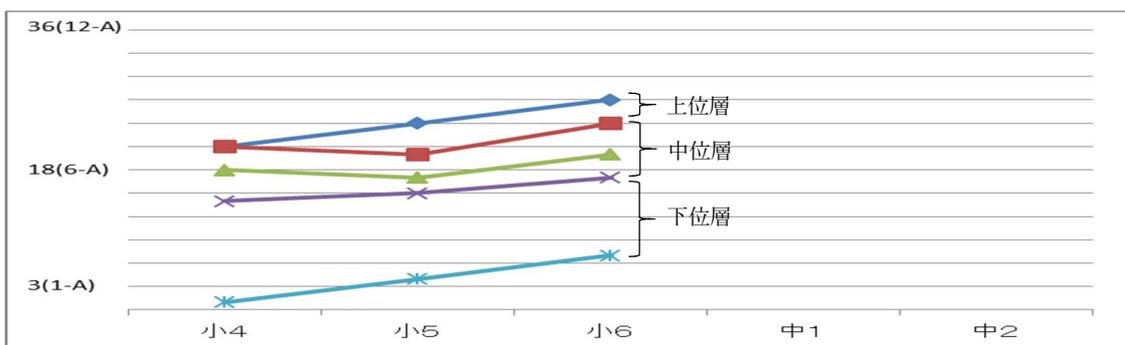
### 【現小学校5年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の児童が属するレベル	21	24	—	—	—
上位から25%に位置する児童が属するレベル	18	22	—	—	—
中央に位置する児童が属するレベル	16	19	—	—	—
上位から75%に位置する児童が属するレベル	12	16	—	—	—
最下位の児童が属するレベル	1	4	—	—	—



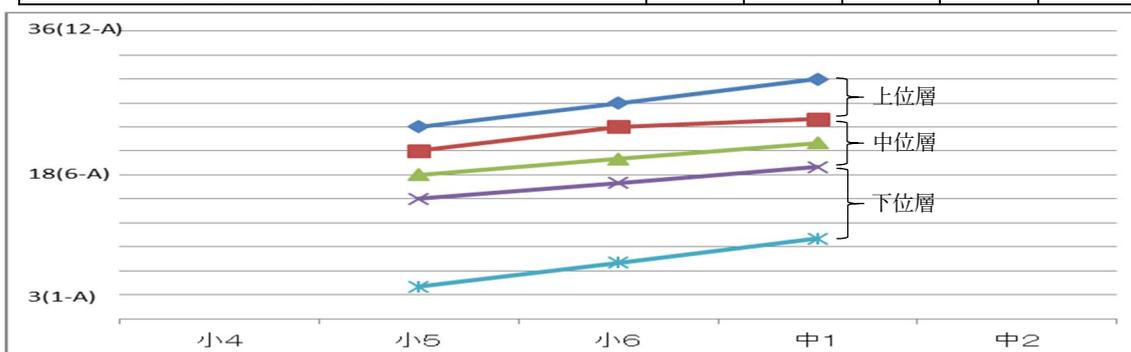
### 【現小学校6年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の児童が属するレベル	21	24	27	—	—
上位から25%に位置する児童が属するレベル	21	20	24	—	—
中央に位置する児童が属するレベル	18	17	20	—	—
上位から75%に位置する児童が属するレベル	14	15	17	—	—
最下位の児童が属するレベル	1	4	7	—	—



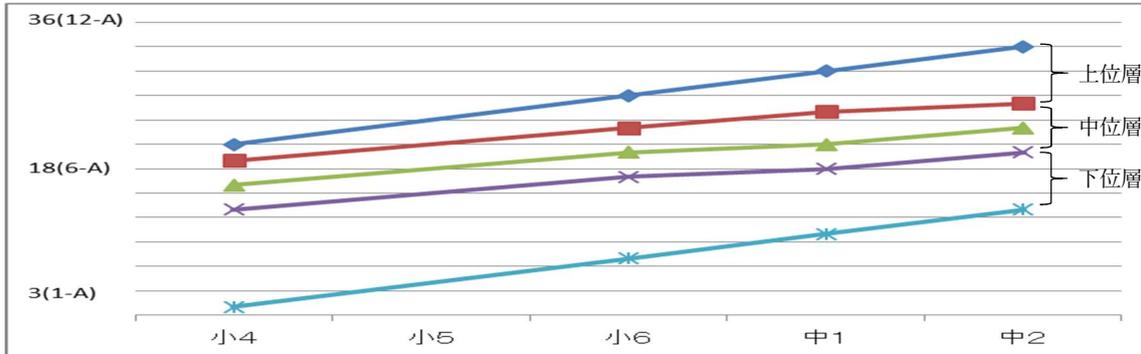
### 【現中学校1年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の生徒が属するレベル	—	24	27	30	—
上位から25%に位置する生徒が属するレベル	—	21	24	25	—
中央に位置する生徒が属するレベル	—	18	20	22	—
上位から75%に位置する生徒が属するレベル	—	15	17	19	—
最下位の生徒が属するレベル	—	4	7	10	—



【現中学校2年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の生徒が属するレベル	21	—	27	30	33
上位から25%に位置する生徒が属するレベル	19	—	23	25	26
中央に位置する生徒が属するレベル	16	—	20	21	23
上位から75%に位置する生徒が属するレベル	13	—	17	18	20
最下位の生徒が属するレベル	1	—	7	10	13



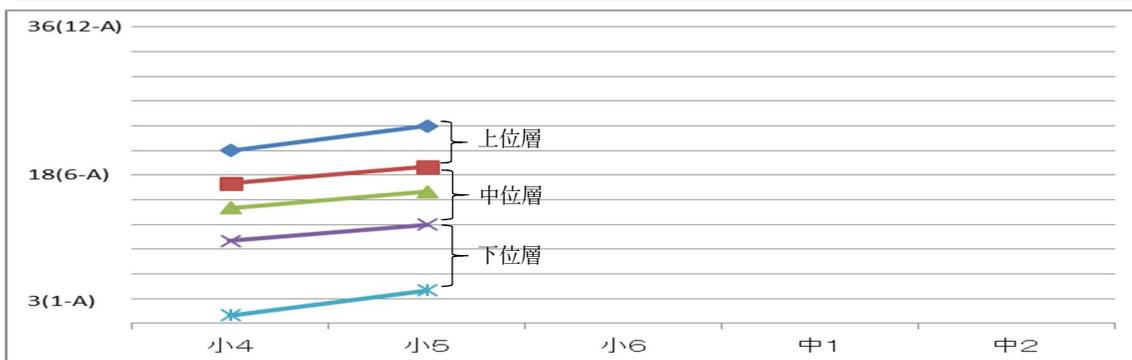
【国語】

- 全ての学年において、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルは、前年度調査と比べて数値が3上がっており、着実に学力が伸びている。
- 中学校1年生、中学校2年生においては、上位から25%～75%に位置する生徒が属するレベルが、最上位及び最下位の生徒が属するレベルほど上がっておらず、中位層の生徒の「学力の伸び」が少ない。

## (5) 県全体の「学力の伸び」の状況 ② 算数・数学

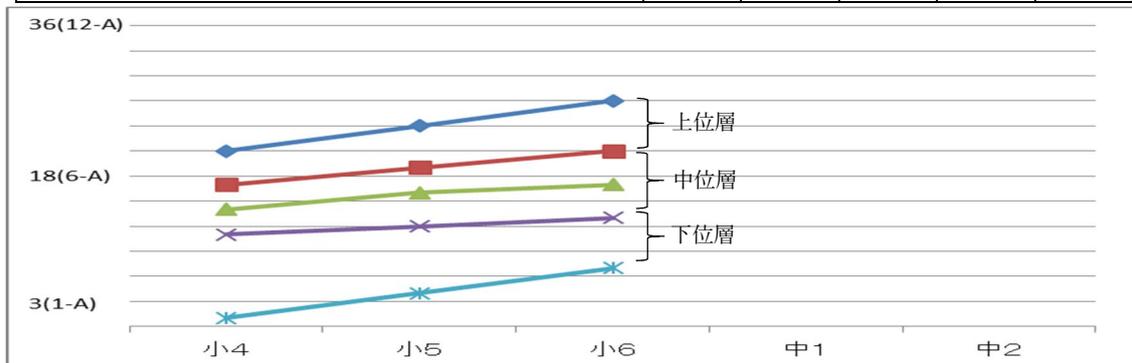
### 【現小学校5年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の児童が属するレベル	21	24	—	—	—
上位から25%に位置する児童が属するレベル	17	19	—	—	—
中央に位置する児童が属するレベル	14	16	—	—	—
上位から75%に位置する児童が属するレベル	10	12	—	—	—
最下位の児童が属するレベル	1	4	—	—	—



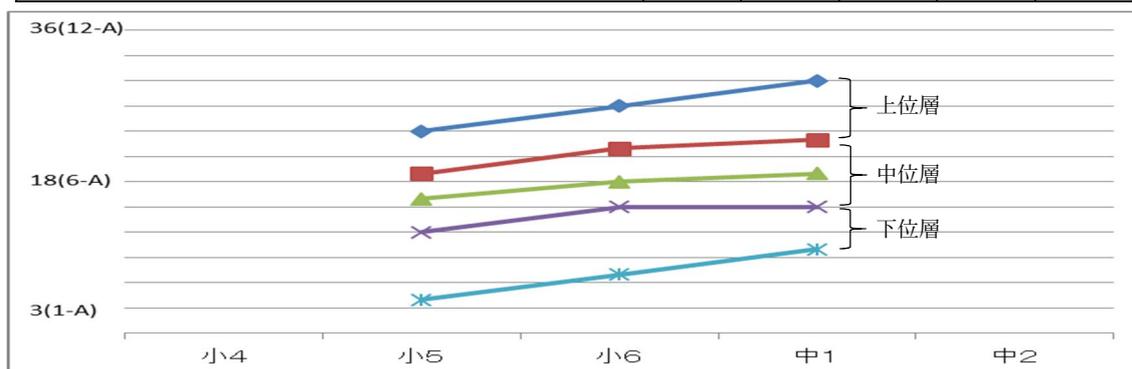
### 【現小学校6年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の児童が属するレベル	21	24	27	—	—
上位から25%に位置する児童が属するレベル	17	19	21	—	—
中央に位置する児童が属するレベル	14	16	17	—	—
上位から75%に位置する児童が属するレベル	11	12	13	—	—
最下位の児童が属するレベル	1	4	7	—	—



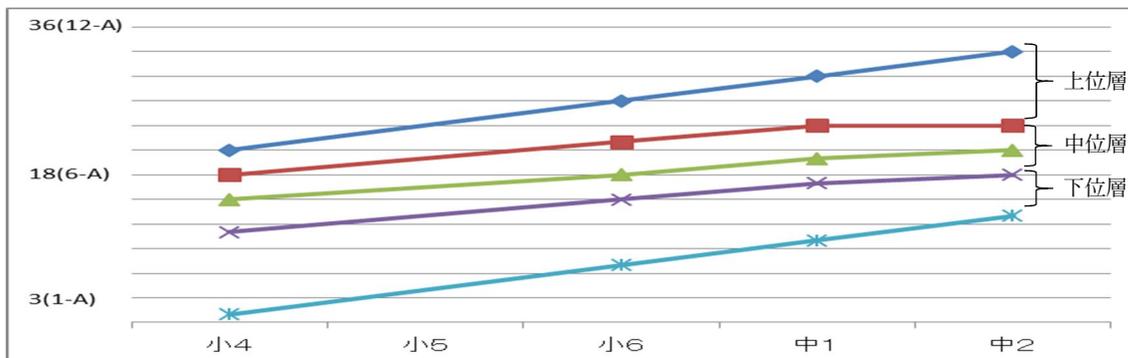
### 【現中学校1年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の生徒が属するレベル	—	24	27	30	—
上位から25%に位置する生徒が属するレベル	—	19	22	23	—
中央に位置する生徒が属するレベル	—	16	18	19	—
上位から75%に位置する生徒が属するレベル	—	12	15	15	—
最下位の生徒が属するレベル	—	4	7	10	—



【現中学校 2 年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の生徒が属するレベル	21	—	27	30	33
上位から 25%に位置する生徒が属するレベル	18	—	22	24	24
中央に位置する生徒が属するレベル	15	—	18	20	21
上位から 75%に位置する生徒が属するレベル	11	—	15	17	18
最下位の生徒が属するレベル	1	—	7	10	13



【算数・数学】

- 全ての学年において、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルは、前年度調査と比べて数値が3上がっており、着実に学力が伸びている。
- 全ての学年において、上位から25%～75%に位置する児童生徒が属するレベルが、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルほど上がっておらず、中位層の児童生徒の「学力の伸び」が少ない。

## 4 学習指導のポイント

ふくしま学力調査を授業改善等に生かす学習指導のポイントをまとめました。

(1) **教科別授業改善の視点**では、授業改善の視点を概的に示しています。

(2) **国語**、(3) **算数・数学**では、今年度の調査問題から、各学年、各教科において中位程度の難易度レベルの問題から、正答率が低く課題と考えられる問題に焦点を当てて、県全体の児童生徒の正答率を示すとともに、学習指導上の課題及び授業改善に生かす指導上のポイントをまとめました。また、「ふくしま活用力育成シート」や「定着確認シート」及び全国学力・学習状況調査問題との関連や活用の仕方等をまとめました。ぜひ授業改善に御活用ください。

なお、ふくしま学力調査は、児童生徒の学力の伸びを正しく捉えるという調査の性質上、問題は原則非公開となっており、問題の秘匿性の保持のため、調査後の問題冊子は回収します。また、コピーや書き写しも禁止となっております。

### (1) 教科別授業改善の視点

#### 1 国語

##### ① 育成すべき資質・能力を明確にした指導計画の改善

「指導事項が精選されているか」、「言葉による見方・考え方が適切に働くか」、「効果的な言語活動が設定されているか」の3点を踏まえ、育成すべき資質・能力を明確にして指導計画を作成します。また、指導計画を作成する際は、資質・能力の育成を単元などの一定程度のまとまりで考え、指導と評価の一体化を図ることが大切です。

##### ② 言葉を投げどころにする言語活動の設定

言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成するという国語科の目標を踏まえ、言語活動が「言葉を投げどころにする活動になっているか」、「資質・能力を育成する上で効果的な活動になっているか」を確認し、質の向上を図ります。なお、言語活動による成果物の作成に多くの時間を費やしたり、成果物そのものを評価したりすることのないように注意が必要です。

##### ③ 評価方法の工夫・改善

指導と評価の一体化を図るために、育成する資質・能力と評価規準を一致させます。評価規準を設定する際には、「目指す資質・能力が育成された児童生徒の姿」を明確にすることが大切です。このことにより、学習活動や教師の働きかけなどもよりよい方法が見えてきます。また、学習評価は、指導に生かしたり、記録に残したりする上で適切な評価場面と評価方法を十分に検討することでより効果的なものとなります。

## 2 算数・数学

### ① ゴールからの授業構想

育成すべき資質・能力を明確にした上で、その授業で児童生徒がどのような振り返りをするのか、具体的な児童生徒の姿でイメージし、学習課題を設定していきます。そうすることで、授業に芯が通り、課題解決場面でのコーディネートが見えてきます。あくまで、授業のゴールへ向かうレールを引くのではなく、児童生徒の考えをつないでいくことを重視して授業を構想することが大切です。

### ② 学びの質を高めるコーディネート

児童生徒が学習内容を自分事として主体的・対話的に学ぶことができるように、教師は授業をコーディネートします。児童生徒が働かせた「見方・考え方」を見逃すことなく注意深く見取り、称賛したり広めたりして深い学びを実現します。そのために、授業では、児童生徒の考えや気付きをつなげる問い返しや、再生・要約など、共有させる働きかけにより、思考に深まりをもたせ、学びの質を高めることが期待できます。

### ③ 適用と振り返り

全体で確認しながら解決した問題を基に、児童生徒自身が数値や条件を変えた問題を自力解決するなど、解決の過程を振り返りながら確かめることができる場を設定しましょう。振り返りながら適用することで、より確かな理解につながったり、新たな問いが生まれたりし、深い学びとなることが期待できます。







○調査問題の趣旨・内容

【問題の学力レベル】 8-C

【問題の趣旨】

- 意味段落に書かれている筆者の意見を読み取る。

【問題の内容（正答率）】

- 話題について具体的な例を述べた文にあてはまる言葉を文中から抜き出す。(65.8%)

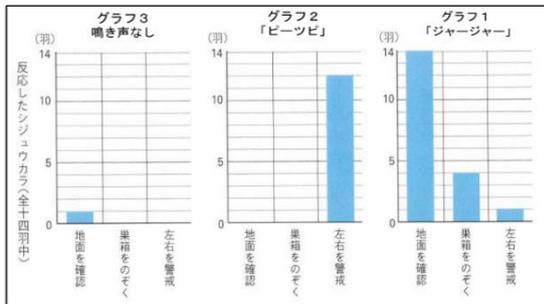
○指導上のポイント

- 他の問題に比べ、無解答率は9.5%と高い。内容の中心となる事柄や書き手の考えの中心となる事柄が文章全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えること、また、単一の情報のみに基づくのではなく、目的に応じて文章と図表などの情報を関係付けて検討するなど、複数の情報を結び付けて考えを形成することが求められる。

○活用力育成シート・定着確認シート等を活用した指導例

文章の構造を踏まえて要旨を把握するための指導

文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。  
【学習指導要領 第1学年 C読むこと】



【出典】

「活用力育成シート」令和3年度 第1回 中学1年

○要旨とは

- ・ 文章で取り上げている内容の中心となる事柄
- ・ 書き手の考えの中心となる事柄



○要旨を把握するために

- ・ 文章の構造を踏まえて、キーワードやキーセンテンスなどに留意して情報を整理し、正確に要旨を捉えられるようにすることが重要です。

○授業のポイント

- ・ 文章を読んで得た知識や考えを学級で報告する、レポートにまとめるなど、単元のゴールを明確にすることで、何のために読むのかという目的が明確になり、話合いも焦点化されます。

単元のゴール：レポートを書く  
説明文を読む目的：説得力のあるまとめ方を学ぶ



グラフを用いると、実験の結果がより分かりやすくなるね。

そうだね。でも、自分の意見を正確に伝えるには文章とのつながりも大切だよ。



グラフで示された実験の結果と筆者の仮説はどのように結び付いているのかな。主張したいことの根拠につながっているか、どうやったら確認できるだろう。

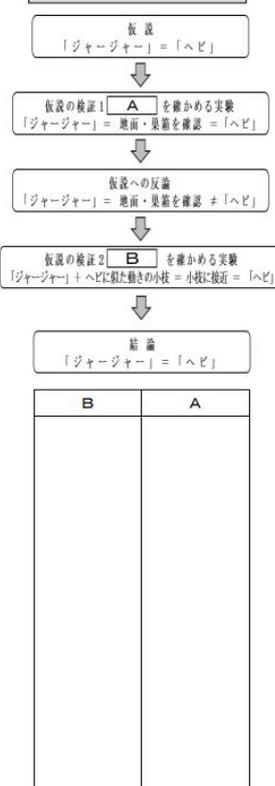


仮説から結論までを見通せるチャートにまとめてみるのはどうかな。説明文の骨組みが捉えられると思うんだ。



その方法はいいね。チャートを使って骨組みを考えることは、私たちがレポートを書くときにも生かせそうな気がするよ。

水沢さんのステップチャート



二 水沢さんは、この説明的文章をステップチャートにまとめて整理しようと考えました。次の図は水沢さんが整理したステップチャートです。  
A B ①にはどのような言葉が入りますか。文中の言葉を用いて書きなさい。

一 水沢さんは、この文章における、事実と意見のつながり方について分析しようと考えてました。①～②にはどのような言葉が入りますか。グラフや文中の言葉を用いて書きなさい。  
「ジャージャー」という鳴き声を流したときのシジュウカラが示す行動で最も多いのは①「する」ことである。「ビーツピ」という鳴き声を流す場合や鳴き声を流さない場合は、そのような行動はほとんど見られない。この実験結果から、筆者は、シジュウカラが「ジャージャー」という鳴き声を聞いたとき①「する」理由は、親鳥が②「ため」ではないかと考えた。

【「授業スタンダード」の視点：ねらいを明確にして単元や本時の授業をつくる

「ペアやグループでの話合い」で思考を整理し、新たな気づきを得る】

○調査問題の趣旨・内容

【問題の学力レベル】 8-C

【問題の趣旨】

- 聞き手の立場に立って、注意を引くよう話す工夫ができる。

【問題の内容（正答率）】

- 話題を提示する話し方の工夫と効果について説明したものとして適切なものを選択する。（69.5%）

○指導上のポイント

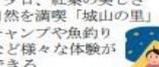
- 報告やプレゼンテーションをする際に、自分の考えを分かりやすく伝えるための表現の工夫として、資料や機器を用いることに重点が置かれている。「何をどのようにすれば相手に伝わるか」という視点を明確にして助言し合う活動を通して、相手と目的を再確認し、相手にとって必要な情報の選択や資料のより効果的な提示について検討する必要がある。

○活用力育成シート・定着確認シート等を活用した指導例

資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わる表現を工夫する指導

資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること

【学習指導要領 第2学年 A話すこと・聞くこと】

【進行案】 テーマ：「我が町、城山町へようこそ」		
【提示資料】	【説明内容】	【時間】
<p>1 城山町の魅力発見！</p> <p>赤く映える町 城山町</p> 	<p>初めに ①キャッチフレーズ 「赤く映える町、城山町」 ②城山町の概要 どこに位置しているか (地図) 「セールスポイント2つです。」</p>	30秒
<p>2 「食」の魅力</p> <p>①糖度が高い。(糖度を比較した表) ②トマトを使った料理 ③そば、アスパラガス</p> 	<p>「食」の魅力 ①特産品であるトマト(写真) ②トマトを使った商品例(写真) ③トマト以外のおいしい食べ物</p>	2分
<p>3 「自然」の魅力</p> <p>①城山展望台の夕日、紅葉の美しさ ②自然を満喫「城山の里」 →キャンプや魚釣りなど様々な体験ができる</p> 	<p>「自然」の魅力 ①城山展望台から一望できる城山町の風景 ②城山の里 体験できることの紹介(写真)</p>	2分
<p>4 お待ちしています！</p> <p>赤く映える町 城山町</p> 	<p>まとめとピーアール 様々な体験ができる町 「ぜひ、我が町『赤く映える町、城山町』へお越しください。」</p>	30秒

【提示資料②の発表原稿】

まずは、城山町の自慢のポイント「食」について紹介します。  
皆さんは、トマトは好きですか。城山町は全国でも有数のトマトの生産量を誇っています。自慢すべきところは、生産量だけではありません。こちらの表をご覧ください。(「糖度を比較した表」を指しながら)表から分かるように他の県や地域で獲れるトマトよりも糖度が10パーセント近くも高いのが特徴です。  
生のままでも甘くておいしいトマトですが、調理をしても、その良さが引き立ちます。(商品の写真を見せながら)「トマトラーメン」や「トマトカレーパン」は、町の名物料理としてテレビや新聞でも取り上げられ、現在注目を浴びています。  
トマト以外にもそばやアスパラガスなどおいしいものは、まだまだたくさんあります。ぜひ、おいしい「食」を楽しんでください。

【出典】

「活用力育成シート」令和2年度 第2回 中学2年

【その他】

「活用力育成シート」令和元年度 第3回 中学2年

「定着確認シート」平成26年度 第4回 中学2年

◎左の2つの【資料】を基に、話し合い活動をコーディネートする場面



川村さんのプレゼンテーションの改善点について、こうすれば、もっと姉妹校の生徒に伝わるという点はないかな。



僕は、キャンプや釣りに興味がある生徒は多いと思う、実際に体験してもらえば、素敵な思い出になると思います。だから、【提示資料】の最初の1で、城山の里について写真や動画で体験できることを見せて、楽しそうに話してはどうでしょうか。



たしかに。相手は皆さんと同じ中学生ですからね。首都圏ではなかなかできない体験を見せて城山の里の楽しさを前面に出せば、より興味をもってくれそうですね。【提示資料】の2も写真で1と似てますが、【発表原稿】を読んで、こうすればと思う点はありませんか。



【発表原稿】では、トマトの糖度を具体的に示していてとてもいいと思います。でも、キャンプや釣りと比べると、「体験してみたい」と思ってもらえるまでには、何か足りないような気がします。



なるほど。Bさんが足りないと感じている、この「何か」について、もう少し詳しく説明できる人はいませんか。



つまり、糖度の数字を表で示しただけでは、甘さやおいしさを伝え切れないってことではないですか。



川村さん、いろいろな意見を聞いてみて、何を使って、どのように話せば、より分かりやすく伝わるか、ヒントが見つかりましたか。



話し合いの論点や議題を明確にするだけでなく、問い返しやゆさぶりなどの働きかけをしたりすることによって、多様な意見が出るように促すことが大切です。

【「授業スタンダード」の視点：子どもたちの考えを基に話し合いをコーディネートし、ねらいに迫る】

小学校 第4学年 算数

○調査問題の趣旨・内容

【問題の学力レベル】5-C

【問題の趣旨】

- 二等辺三角形、正三角形について理解し、それらを正確に区別することができる。

【問題の内容（正答率）】

- 三角形について、それぞれ二等辺三角形か、それ以外かを選ぶ。  
(64.3%)

○指導上のポイント

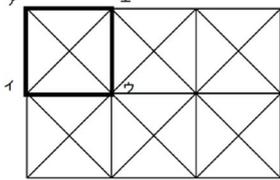
- 図形を構成する要素である辺の平行や垂直の関係に着目し、平行四辺形、ひし形、台形の性質を見だし、これらの図形の構成の仕方について考える。そして、見だした性質を基に、既習の正方形、長方形を捉え直すことが重要である。さらに、見だされた性質を基にすると、図形を作図することが可能になるとともに、身の回りから学習した図形の形をした具体物を見付けることも大切である。

○活用力育成シート・定着確認シート等を活用した指導例

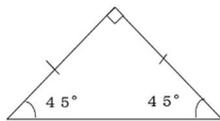
図形の構成要素に着目し、新たな図形の特徴を見いだすための指導

図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察し図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。 【学習指導要領 第4学年 B図形】

<図1>



<図2>



【出典】

「活用力育成シート」平成30年度 第2回 小学4年

【その他】

「定着確認シート」平成29年度 第1回 小学4年



水飲み場のタイルが新しくなりましたね。<図1>どんな形が見えてくるかな？

同じ形、同じ大きさの三角形が敷き詰められているね。<図2>



2つの辺の長さが等しくて直角があるから直角二等辺三角形だといえるね。

<図1>をさらによく見てみましょう。他の図形は見つけれられるかな？

ん？タイルが4枚合わさったアイウエは正方形じゃないかな…。

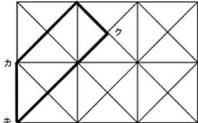


なぜそのように考えましたか？

4つの辺がさっきの直角二等辺三角形の辺になっていて長さが等しいからです。

それと4つの角の大きさは直角二等辺三角形の等しい角が2つ組み合わさっているから  $45 \times 2 = 90$  にそれぞれなっているね。だから正方形だといえるね。

<図3>



あ！僕は台形を見つけたよ。<図3>でも本当に台形になっているかな。

辺クケに対して辺ケカ、辺クキはそれぞれ垂直の関係だから  
辺ケカと辺クキは平行だね。

ということは、四角形カキクケは台形だといえるね。平行四辺形は見つかるかな…。

辺や角などの図形の構成要素に着目させ、その特徴から図形の定義や性質を見いださせることが大切です。

【「授業スタンダード」の視点：子どもたちの考えを基に話し合いをコーディネートし、ねらいに迫る】

○調査問題の趣旨・内容

【問題の学力レベル】 6-B  
 【問題の趣旨】  
 ○ 除法の性質について理解している。  
 【問題の内容（正答率）】  
 ○ わり算の計算をするとき、工夫の仕方の説明の中にある空欄にあてはまる数をかく。(54.2%)

○指導上のポイント

○ 整数の場合の計算の意味や計算の仕方を活用して、新しい計算の仕方をつくることができるようにし、学習したことを生活や学習に活用する態度を養うことが大切である。乗数が小数の乗法の計算の仕方は、数直線を用いたり、計算に関して成り立つ性質などを用いたりすることにより考えることができる。

○活用力育成シート・定着確認シート等を活用した指導例

整数の場合の除法の性質を活用して新しい計算の仕方をつくることを通して、学習したことを生活や学習に活用する態度を養うための指導

乗法及び除法の意味に着目し、乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法及び除法の意味を捉え直すとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすること。  
 【学習指導要領 第5学年 A数と計算】

2 花子さんは、太郎さんのリボンの代金を240円と求めました。求めた代金について、話をしています。



花子さん

やっぱり、私のほうが、安くリボンを買えたみたいね。

本当にそうかな。買ったリボンの長さがちがうのに、代金でくらべていいのかな。花子さんの買ったリボン1mのねだんは、何円なんだろう。



太郎さん

2人は、花子さんが買ったリボンの1mのねだんは、 $\boxed{\text{代金}} \div \boxed{\text{買った長さ}}$  で求めることができることから、式を  $216 \div 2.7$  と書き、次のように考えて答えを求めました。

$$\begin{array}{r} 216 \div 2.7 = \square \\ \downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10 \\ 2160 \div 27 = \square \end{array} \text{ 等しい}$$

リボンの長さが10倍になると、代金も10倍になるけど、1mのねだんは変わりません。



花子さん

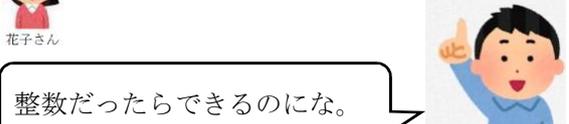


$216 \div 2.7$  どのようにして考えたらいいでしょう。

～だったら、と既習を使って考えようとしていて、すばらしいです。

10倍するってどこのこと？  
数直線図や式を使って話せるかな？

確かに整数のわり算になったね。  
これで求められますね。



整数だったらできるのにな。

10倍すればいいよ。

$216 \div 27$  ってことだね。



違うよ。それだと商が変わってしまうよ。わられる数もわる数も10倍にしても商は変わらないって4年生で学習したよね。だから…



除法は、加減乗法に比べて、児童が理解しにくい内容です。その理由は、わり算の意味の拡張や計算の仕方の理解が不十分なままに、学習が進んでしまっていることも考えられます。

そのため、小数の除法の学習では、**除法の性質**を利用したり、**除数が整数のわり算**に帰着したりして、**計算の仕方**を考えられるようにします。授業では、既習を生かした解決の手がかりがつかめるように、「見通しをもつ過程」を大事にしましょう。また、働かせた見方・考え方を価値づける言葉かけも大事にしたいですね。

わり算の性質を強く意識することで、筆算の学習になったとき、小数点の移動が単なる形式的な手続きではなく、意味をもった操作としてつかむことができるようになります。

【「授業スタンダード」の視点：「何をどのように追究・解決するか」、既習を生かした見通しをもたせる：子どもが「何を、どのように考えているか」を見取り、個に応じた支援をする】

○調査問題の趣旨・内容

【問題の学力レベル】 7-A

【問題の趣旨】

- 割合が1より大きい場合も小さい場合も、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している。

【問題の内容(正答率)】

- 基準量と割合から比較量を求める。(44.8%)

○指導上のポイント

- 「基準量(B)」 「割合(p)」 「比較量(A)」の数量関係  $B \times p = A$  は、pが分数でもこの式のまま使えるという拡張の考えより、数直線を用いることによって、素数pが1より小さい場合でも、基準量の求め方  $(A \div p = B)$  は、乗法の逆であると捉えられるようにする。

○活用力育成シート・定着確認シート等を活用した指導例

数量の関係を数直線に表し問題場面を的確に捉える指導

乗数や除数が整数や分数である場合も含めて、分数の乗法及び除法の意味について理解すること。

【学習指導要領 第6学年 A数と計算】

1 飼育委員のともきさんとたけるさんは、ウサギ小屋のかべをペンキでぬっています。

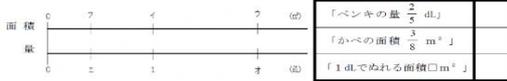
$\frac{2}{5}$  dlのペンキで、 $\frac{3}{8}$  m<sup>2</sup>のかべをぬることができました。

(1) ともきさんは、このペンキ1 dlでは、かべを何m<sup>2</sup>ぬることができるか考えています。



どんな式になるのかな。数直線を使って考えてみよう。

「ペンキの量  $\frac{2}{5}$  dl」、「かべの面積  $\frac{3}{8}$  m<sup>2</sup>」、「1 dlでぬれる面積□m<sup>2</sup>」のそれぞれの場所は、下の図のどこになりますか。アからオの中から1つずつ選んで記号で答えましょう。



ともきさんは、上の数直線から1 dlでぬれる面積を求める式が、 $\frac{3}{8} \div \frac{2}{5}$  であることがわかりました。



□m<sup>2</sup>の  $\frac{2}{5}$  倍が  $\frac{3}{8}$  m<sup>2</sup>になるから  $\square \times \frac{2}{5} = \frac{3}{8}$ 、□を求める式は  $\frac{3}{8} \div \frac{2}{5}$  になります。

【出典】

「活用力育成シート」令和元年度 第1回 小学6年

【その他】

「定着確認シート」平成29年 第3回 小学6年

1にあたる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができるかどうかをみる問題である。



2 dlのペンキで、 $\frac{3}{8}$  m<sup>2</sup>のかべを塗ることができました。  
このペンキ1 dlでぬれるかべの面積を求める式はどうなるかな？数直線を使って考えてみよう。

ペンキの量2 dlは1 dlよりも多いのでオ、その時のかべの面積は $\frac{3}{8}$  m<sup>2</sup>なのでウです。

ペンキの量1 dlの時、ぬれる面積が□ m<sup>2</sup>なのでイです。

だから、1 dlでぬれる面積□ m<sup>2</sup>を求める式は、 $\frac{3}{8} \div 2$ です。



$\frac{2}{5}$  dlのペンキで、 $\frac{3}{8}$  m<sup>2</sup>のかべを塗ることができました。  
このペンキ1 dlでぬれるかべの面積を求める式はどうなるかな？

2 dlの式から、1 dlでぬれる面積を求める式は、 $\frac{3}{8} \div 2$ になりそう。



本当に、 $\frac{3}{8} \div 2$ でいいのかな？数直線を使って考えてみよう。

ペンキの量 $\frac{2}{5}$  dlはオ、その時のかべの面積は $\frac{3}{8}$  m<sup>2</sup>なのでウだと思えます。

私は、ペンキの量が $\frac{2}{5}$  dlで1 dlよりも少ないからエ、かべの面積 $\frac{3}{8}$  m<sup>2</sup>はアだと思えます。

使った量が $\frac{2}{5}$ 倍になっているので、ぬれる面積も $\frac{2}{5}$ 倍になっていると思えます。

□ m<sup>2</sup>の $\frac{2}{5}$ 倍が $\frac{3}{8}$  m<sup>2</sup>になるから、 $\square \times \frac{2}{5} = \frac{3}{8}$ と式に表せるよ。

そうか。だから、□を求めるには、 $\frac{3}{8} \div \frac{2}{5}$  m<sup>2</sup>の式になるんだ。

問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線などに表すことは、問題を解決する上でとても大切です。その際、数直線上の数量の対応関係や大小関係を的確に捉えることができるようにすることが大切です。

【「授業スタンダード」の視点：思考過程を可視化する】

○調査問題の趣旨・内容

【問題の学力レベル】 8－C

【問題の趣旨】

- 一方の数量に対応する他方の数量を求めることができる。

【問題の内容（正答率）】

- 表に当てはまる数を選ぶ。  
(50.0%)

○指導上のポイント

- 日常の事象の中には、ある問題を解決するために比例や反比例とみなして結論を得ることがある。二つの数量の関係を表やグラフで表し、その関係を理想化したり単純化したりすることによって比例や反比例とみなし、それによって変化や対応の様子に着目して未知の状況を予測できるようになることを知ることは重要である。

○活用力育成シート・定着確認シート等を活用した指導例

伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係に着目して問題を解決するための指導

比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

【学習指導要領 第1学年 C関数】

太郎さんは、地球上の生態系について調べてみると、世界で絶滅危惧種に指定されている野生生物が3万種以上いることが分かりました。生物の減少の要因として、森の減少やCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）の増加などによる地球温暖化があることを知りました。

そういえば理科の授業で、植物は光合成によってCO<sub>2</sub>を吸収するって習ったよ。植物が増えれば、温暖化が改善できるのでは？



そこで太郎さんは、学校にスギの木が植えてあるのを思い出し、スギ1本が吸収するCO<sub>2</sub>の量について調べてみました。その結果、スギ1本当たりの年間のCO<sub>2</sub>吸収量は15kgだと分かりました。

(1) x本のスギが1年間で吸収できるCO<sub>2</sub>の量をykgとして、yをxの式で表さない。

【出典】

「活用力育成シート」令和3年度 第2回 中学1年

【その他】

「全国学力・学習状況調査」令和5年度 中学校 数学  
「全国学力・学習状況調査」令和3年度 中学校 数学

植物は、光合成によってCO<sub>2</sub>を吸収します。調べたところ、学校の周りのスギの木は、1本で年間のCO<sub>2</sub>を15kg吸収します。



50本のスギの木が、1年間で吸収できるCO<sub>2</sub>の量は何kgになりますか？  
x本のスギが1年間で吸収できるCO<sub>2</sub>の量をykgとすると、どんな式で表すことができるかな？



y=15xと表すことができるので、比例の関係になっています。  
xに50を代入すると、y=15×50=750。750kg吸収できます。



今までに習ったことを使って、予測することができるんだ！



実は昨日、委員会で260本のスギの苗を植えました。3人で協力して50分間で半分を植えました。今日は、15分間で残りのスギの苗を植えたいと思います。苗を植える速さは全員同じだと考えると、最低何人に手伝ってもらえばいいですか？



人数と時間に注目すると、3人で130本の苗を植えるのに50分かかるね。  
 $3 \times \frac{50}{15} = 10$ だから、最低10人に手伝ってもらえばいいんだ！



反比例の考え方をを使って求めることができた。でも数量は3つあるよ。  
本数と時間に注目すると、どんな関係が見えてくるかな？やってみよう！



人数と時間に注目すると、反比例の関係から人数を求めることができます。また、本数と時間に注目すると、比例の関係から人数を求めることができます。伴って変わる二つの数量の関係に着目することが大切です。



【「授業スタンダード」の視点：友達との交流を通して、考えを共有・吟味させる】

○調査問題の趣旨・内容

- 【問題の学力レベル】 9-C
- 【問題の趣旨】
- 範囲の意味を理解している。
- 【問題の内容（正答率）】
- 与えられた資料の範囲を求める。  
(42.4%)

○指導上のポイント

- 四分位範囲はデータの散らばりの度合いを表す指標として用いられる。極端にかけ離れた値が一つでもあると、最大値や最小値が大きく変化し、範囲はその影響を受けやすいが、四分位範囲はその影響をほとんど受けないという性質があることに留意する必要がある。

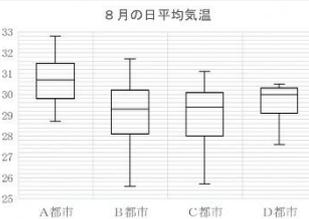
○活用力育成シート・定着確認シート等を活用した指導例

複数の集団のデータの分布から傾向を比較して読み取る指導

四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味を理解すること。

【学習指導要領 第2学年 Dデータの活用】

2 ひろとさんは、行楽地で有名なA都市、B都市、C都市、D都市の4つの都市について、箱ひげ図を利用して8月の平均気温を比較することにしました。  
右の図は、A都市、B都市、C都市、D都市の今年8月の日平均気温をもとに、箱ひげ図に表したものです。



【出典】

「活用力育成シート」令和2年度 第2回 中学2年

【その他】

「活用力育成シート」令和4年度 第2回 中学2年  
「全国学力・学習状況調査」令和4年度 中学校 数学  
「全国学力・学習状況調査」令和5年度 中学校 数学

◎箱ひげ図からデータの特徴を話し合う場面



この箱ひげ図から、どんなことが読み取れますか。

平均気温の中央値は、4つの都市で29度を超えています。



四分位範囲は、B都市とC都市がほぼ等しいです。



なぜそう思いますか。

箱ひげ図の箱の縦の長さがほぼ等しいからです。



最小値、中央値、最大値もほとんど変わらないから？

第3四分位数から第1四分位数をひいた差がほぼ等しいからだよ。



なるほど。他にはどうですか。

四分位範囲が一番小さいのはDです。



D都市について、他の都市と比べて読み取れることはありますか。

30度以上の日がB、Cより多いです。



えっ、どうして？

中央値は、Dが30度で、B、Cが30度より小さいから。



えっ？どういうこと？

それぞれの中央値から、30度以上の日は、Dが8月の日数の半分より多く、B、Cが半分より少ないことを読み取れるからだよ。



そうか！だから、Dのほうが、B、Cより30度以上の日が多いのか！

複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り、批判的に考察することは大切です。



【「授業スタンダード」の視点：友達との交流を通して、考えを共有・吟味させる】

## 5 「非認知能力」・「学習方略」等の質問項目

### (1) 非認知能力

テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものです。本調査では「自制心」「自己効力感」「勤勉性」「やりぬく力」「向社会性」の5種類について質問しています。

#### ① 自制心

**自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力**

(例) イライラしていても人に八つ当たりしない など

【児童生徒質問紙の項目】 小学校4年生と中学校2年生に質問

- ・ 授業で必要なものを忘れた
- ・ 他の子たちが話をしているときに、その子たちの邪魔をした
- ・ 何か乱暴なことを言った
- ・ 机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった
- ・ 家や学校で頭にきて人や物にあたった
- ・ 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった
- ・ きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた
- ・ イライラしているときに、先生や家の人（兄弟姉妹は除きます）に口答えをした

(出典) Tsukayama, E., Duckworth, A. L., & Kim, B. (2013).

Domain-specific impulsivity in school-age children.  
Developmental Science, 16, 879-893.

#### ② 自己効力感

**自分はそれが実行できるという期待や自信**

(例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など

【児童生徒質問紙の項目】 すべての学年に質問

- ・ 授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている
- ・ 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う
- ・ 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う
- ・ 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う
- ・ 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う
- ・ 学校でよい成績をとることができるだろうと思う
- ・ 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う
- ・ 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっている方だと思う

(出典) P. Pintrich, et al. (1991)

A Manual for the Use of the Motivated Strategies for Learning  
Questionnaire (MSLQ)

### ③ 勤勉性

### やるべきことをきちんとやることができる力

(例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など

【児童生徒質問紙の項目】 中学校 1 年生に質問

- ・ うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります
- ・ ものごとは楽しみながらがんばってやります
- ・ 自分がやるべきことにはきちんとかかわります
- ・ 授業中は自分がやっていることに集中します
- ・ 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします
- ・ ルールや順番は守ります
- ・ だれかと約束をしたら、それを守ります
- ・ 自分の部屋や机のまわりはちらかっています
- ・ 何かを始めたら、絶対終わらせなければいけません
- ・ 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです
- ・ 宿題を終わらせてから、遊びます
- ・ 気が散ってしまうことはあまりありません
- ・ やらないといけないことはきちんとやります

(出典) Barbaranelli, C., Caprara, G. V., Rabasca, A., & Pastorelli, C. (2003).  
A questionnaire for measuring the Big Five in late childhood.  
Personality and Individual Differences, 34(4), 645-664.

### ④ やりぬく力

### 自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力

(例) 失敗を乗り越えられる など

【児童生徒質問紙の項目】 小学 5 年生に質問

- ・ 大きな課題をやりとげるために、失敗をのりこえてきました
- ・ 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります
- ・ 興味をもっていることや関心のあることは、毎年変わります
- ・ 失敗しても、やる気がなくなってしまうことはありません
- ・ 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます
- ・ 何事にもよくがんばるほうです
- ・ いったん目標を決めてから、そのあとべつの目標に変えることがよくあります
- ・ 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中し続けることができません
- ・ 始めたことは何でも最後まで終わらせます
- ・ 何年もかかるような目標をやりとげてきました
- ・ 数か月ごとに、新しいことに興味をもちます
- ・ まじめにコツコツとやるタイプです

(出典) Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M. D., & Kelly, D. R. (2007).  
Grit: Perseverance and passion for long-term goals.  
Journal of Personality and Social Psychology, 92(6), 1087-1101.

⑤ 向社会性

外的な報酬を期待することなしに、他人や他の人々の集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする力

(例) 相手の気持ちを考える、親切にする など

【児童生徒質問紙の項目】小学6年生に質問

- ・ 私は、誰に対しても親切にするようにしている。私は、その人の気持ちをよく考える
- ・ 私は、他の子たちと本や遊び道具などを共有する
- ・ 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける
- ・ 私は、年下の子たちに対して、やさしくしている
- ・ 私は、自分から進んで親・先生・友達のお手伝いをする

(出典) Goodman R (1997) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A Research Note.

Journal of Child Psychology and Psychiatry, 38, 581-586.

Goodman R, Meltzer H, Bailey V (1998) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A pilot study on the validity of the self-report version.

European Child and Adolescent Psychiatry, 7, 125-130.

非認知能力の把握

- 児童生徒質問紙を用いて、非認知能力を以下の表のとおり把握
- 児童生徒は非認知能力についての同一の質問に継続して回答

	R1 2019	R2(中止) 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6(予定) 2024
中2	自己効力感	○	やりぬく力	向社会性 自己効力感	○	○
中1	自制心	○	自己効力感 算数動機付け	自制心 自己効力感	○	○
小6	やり抜く力	自己効力感 算数動機付け (4項目)	自制心 算数動機付け (4項目)	勤勉性 自己効力感	○	○
小5	批判的思考力 (16項目) 算数動機付け (4項目)	○	勤勉性	向社会性 自己効力感	○	○
小4	自制心 数学的リテラシー (18項目)	勤勉性	自己効力感	やり抜く力 自己効力感	自制心 自己効力感	向社会性 自己効力感

## (2) 学習方略

児童生徒が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）のことです。ふくしま学力調査では「柔軟的方略」「プランニング方略」「作業方略」「認知的方略」「努力調整方略」の5つに分類しています。

### ① 柔軟的方略

**自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動**

(例) 勉強の順番を変えたり、わからないところを重点的に学習したりする など

#### 【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する
- ・ 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる
- ・ 勉強しているときに、やった内容を覚えているかどうかを確かめる
- ・ 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える

### ② プランニング方略

**計画的に学習に取り組む活動**

(例) 勉強を始める前に計画を立てる など

#### 【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、最初に計画を立ててから始める
- ・ 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかを確かめる
- ・ 勉強するときは、自分で決めた計画に沿って行う
- ・ 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見直す

### ③ 作業方略

**ノートに書く、声に出すといった「作業」を中心に学習を進める活動**

(例) 大切なところを繰り返し書く など

#### 【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく
- ・ 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている
- ・ 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる
- ・ 勉強で大切なところは、繰り返して書くなどして覚える

#### ④ 認知的方略

#### より自分の理解度を深めるような学習活動

(例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など

##### 【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える
- ・ 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする
- ・ 勉強していてわからないところがあったら、先生に聞く
- ・ 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する

#### ⑤ 努力調整方略

#### 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動

(例) わからないところも諦めずに継続して学習する など

##### 【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう
- ・ 今やっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるために一生懸命がんばる
- ・ 授業の内容が難しいときは、やらずにあきらめるか、簡単のところだけ勉強する
- ・ 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する

(出典) 心理測定尺度集Ⅳ：子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉, (2007)., 心理測定尺度集/堀洋道監修. サイエンス社

### (3) 主体的・対話的で深い学び

#### 学級における「主体的・対話的で深い学び」の状況を数値化した値

【児童生徒質問紙の項目】※学年により、質問項目が異なります

去年の〇〇の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか

- ・ 授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと
- ・ 授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを理解したこと
- ・ わからないことなどを質問しやすい雰囲気で行われたこと
- ・ 教材やワークシートがあることで、学習しやすくなったこと
- ・ グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと
- ・ 課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりともてるようになったこと
- ・ 話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと
- ・ 授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと
- ・ 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと
- ・ 授業で学んだことを、日常の生活に生かせると感じたこと

※ 「主体的・対話的で深い学び」についての質問は、同一の学年集団に対して、同一の教科について継続して質問することで、変容を確認できるようにしています。具体的には、今年度の小学4年生、小学6年生、中学2年生については、経年で算数・数学について質問し、今年度の小学5年生、中学1年生については、経年で国語について質問しています。

## (4) 帳票40を活用した分析

帳票40は、各学校に送付したデータの中に入っています。帳票40を活用すると、学年や学級の児童生徒の学力のレベル・学力の伸び・質問紙調査項目の数値から、気になる児童生徒を見付けたり、状態を把握したりすることができます。分析で把握した気になる児童生徒が、そのような状態になっている要因等について吟味し、支援することに役立ちます。

帳票40には、国語と算数・数学の学力のレベルや学力の伸びと併せて「非認知能力」、「学習方略」、「主体的・対話的で深い学び」の児童生徒質問紙の回答状況が示されています。児童生徒質問紙の回答状況は、ふくしま学力調査から見られる児童生徒の一つの側面ではありますが、学力の伸びの状況が思わしくない児童生徒については、児童生徒質問紙の数値が低い項目について授業や学級で改善を働きかけることにより、学力を伸ばすことができる可能性があります。

### 40 学校用(令和5年度 中2)

令和5年度ふくしま学力調査(中学校2年生)  
学力分析データ(学力のレベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別  
福島県教育委員会

算数・数学の学力のレベルが令和4年度調査から6あるいは9上がっている。

当該生徒Aについては、学習方略のうち、作業方略、次いで認知的方略の数値が特に上がっている。当該生徒Bについては、学習方略のうち、柔軟的方略、次いで認知的方略の数値が特に上がっている。また、当該生徒A、Bともに非認知能力のうち、自己効力感の数値が特に上がっている。質問紙調査の回答状況を参考に児童生徒のよい面を認め、自信を持たせたり、意欲を高めたりすることで、さらに学力を伸ばすことができる可能性がある。

	算数・数学		英語	R4→R5(変化量)									
	R5レベル	R4レベル		主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力			
	1F年度からの学力の伸び	R5レベル			柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感(参考値)	自覚心(参考値)		
	7-A	7-A	-	-0.5	-0.1	-0.2	-0.1	-0.2	-0.3	-	0.0	-0.2	-
	6-A	6-B	-	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	-	0.6	0.4	-
当該生徒A	6-A	4-A	-	1.4	0.5	0.6	1.3	0.8	0.0	-	0.9	0.7	-
	5-C	5-C	-	0.0	0.5	0.3	0.3	0.3	0.0	-	0.1	-0.1	-
当該生徒B	9-C	6-C	-	1.2	1.9	0.8	1.0	1.8	0.8	-	0.9	0.8	-
	6-A	7-C	-	-0.2	0.0	-0.3	-0.8	-0.3	0.0	-	0.0	0.3	-
	9-A	9-A	-	-0.3	0.0	0.0	0.0	-0.3	-0.3	-	0.0	0.0	-
当該生徒C	5-A	8-C	-	-0.8	-1.1	-1.8	-1.3	-1.3	-1.4	-	-1.0	-0.9	-
	6-B	5-A	-	0.4	0.6	0.3	0.9	0.3	0.3	-	0.3	0.0	-
当該生徒D	7-B	9-C	-	-0.5	-0.5	-0.8	-1.1	-1.2	-0.8	-	-0.6	-0.3	-

算数・数学の学力のレベルが令和4年度調査から7あるいは5下がっている。

当該生徒Cについては、学習方略のうち、プランニング方略、次いで努力調整方略の数値が特に下がっている。当該生徒Dについては、学習方略のうち、認知的方略、次いで作業方略の数値が特に下がっている。学習を進めるうえで課題となっている可能性があるため、質問紙調査の回答状況を参考に支援に生かす。

## 6 児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」

### (1) 授業に関すること

- 学習の見通しを持つことや、話し合い活動で自分の考えを持つこと、学習内容のつながりを明確にすることと「学力のレベル」の高さに関係が見られた。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が、学力向上に寄与している。

- ◎ 授業の始めに追究・解決への見通しを持たせることが、「主体的な学び」への原動力となるとともに、学習内容の定着につながる。
- ◎ 話し合い活動を取り入れる際には、目的や論点を明確にし、他の児童生徒と考えを共有したり比較・検討したりするように働きかけることが大切である。また、自分の考えをもう一度整理し、表現する時間を確保することも大切である。
- ◎ 「まとめ・振り返り」において、学びを深め、次の「学びへ向かう力」を育成するために、「何を学習したか」「どのように学習してきたか」とともに既習事項との関連を図ることも大切である。

#### 【ふくしまの「授業スタンダード」より】

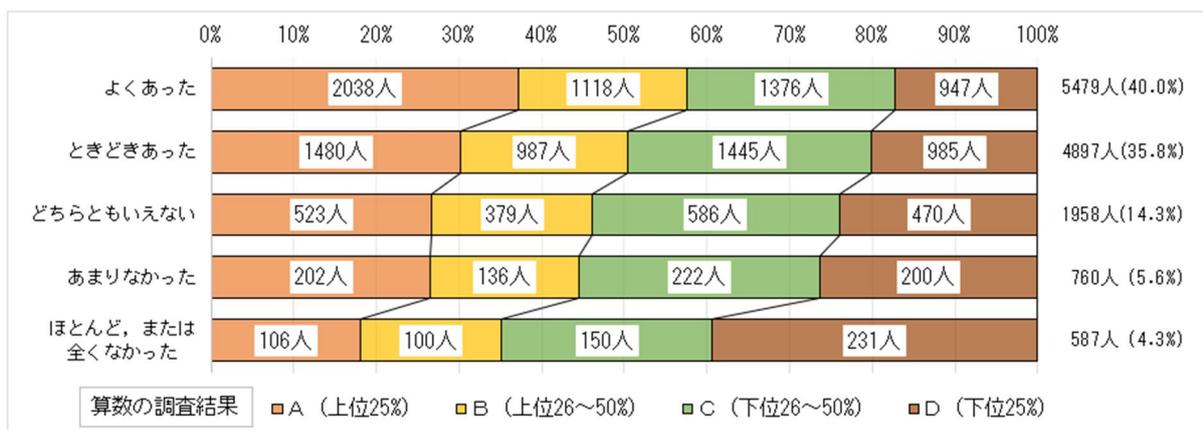
- ・ 「何を学習するか」「何ができればよいか」を明確にするために、「問い」や「思い・願い」を基に子どもたちの発言等をつないで焦点化し、学習課題を設定しましょう。
- ・ 思いや考えを広げ深めることができるようにするために、児童生徒の考えを基に話し合いをコーディネートし、ねらいに迫りましょう。
- ・ 学習した知識・技能を活用する活動を設定するなど「何を学習したか」をまとめたり、板書やノートなどを基に「どのように学習してきたか」を振り返ったりしましょう。

<児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から>

縦軸：質問『授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだことがありましたか』

横軸：『国語の調査結果』（小5・中1）算数・数学の調査結果』（小4・小6・中2）

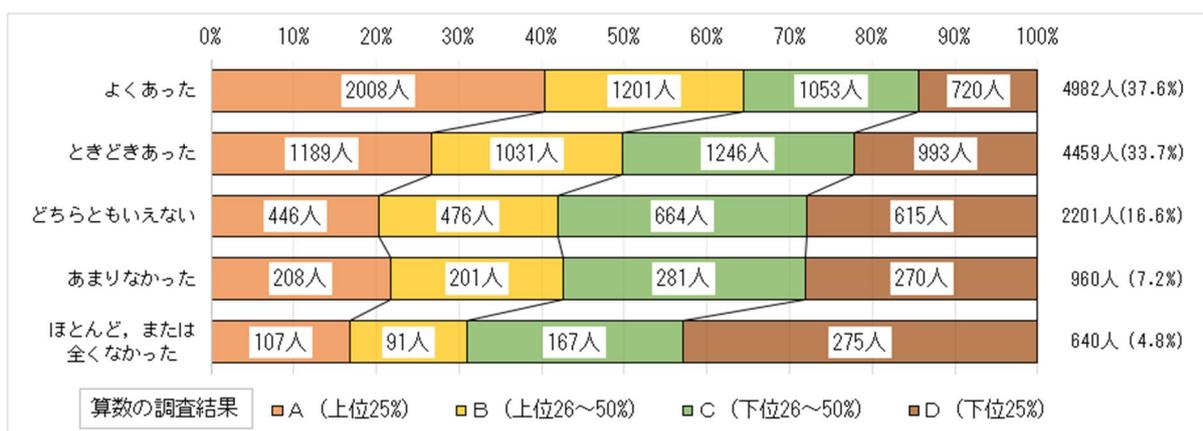
小学校4年生 算数



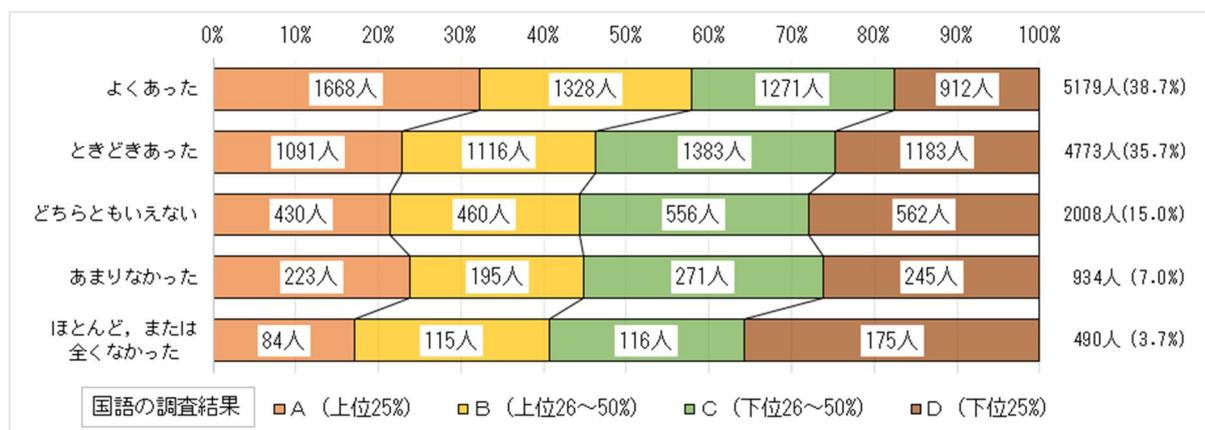
小学校5年生 国語



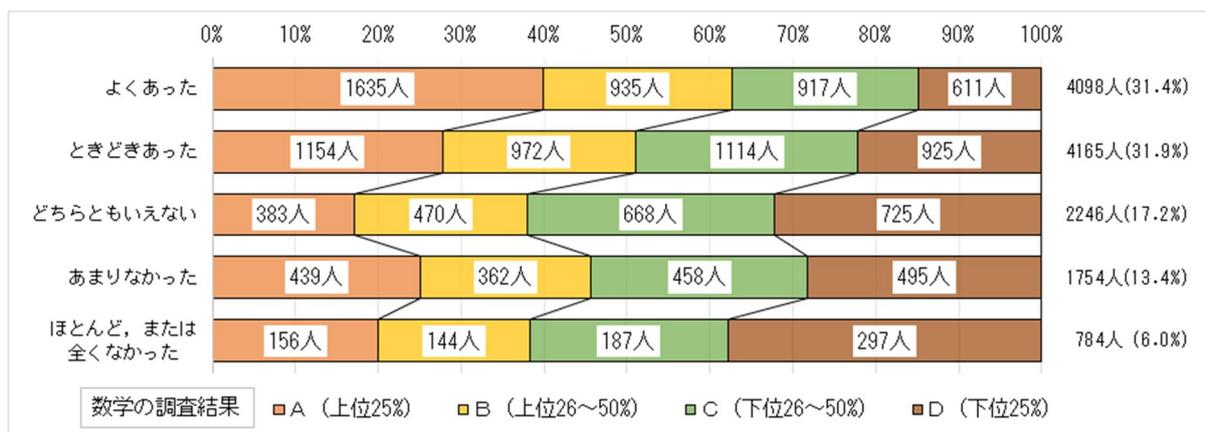
小学校6年生 算数



## 中学校 1 年生 国語



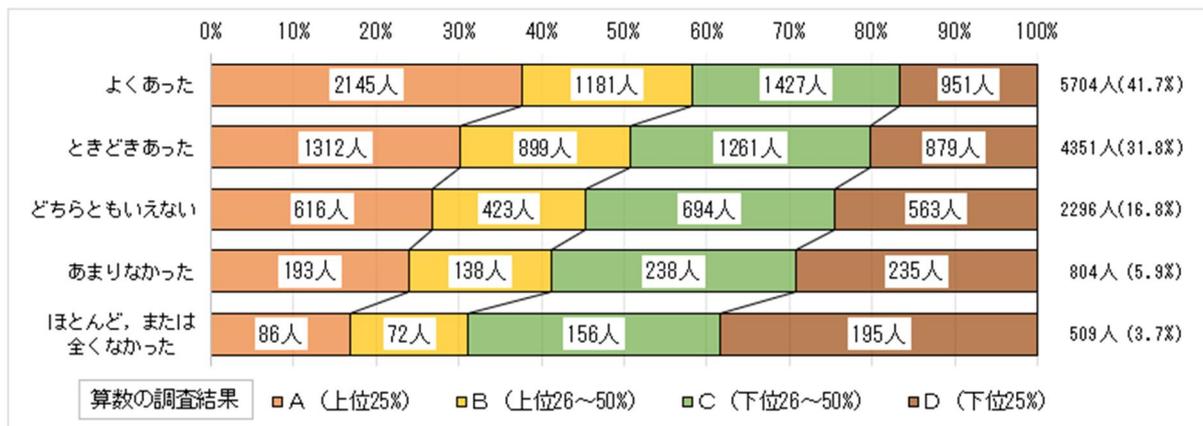
## 中学校 2 年生 数学



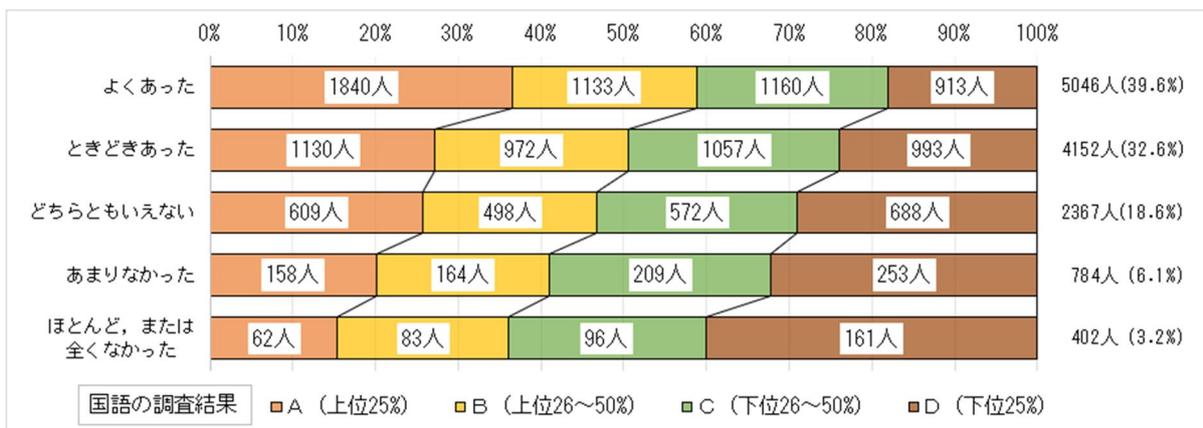
※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

縦軸：質問『課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったことがありましたか』  
 横軸：『国語の調査結果』（小5・中1）算数・数学の調査結果』（小4・小6・中2）

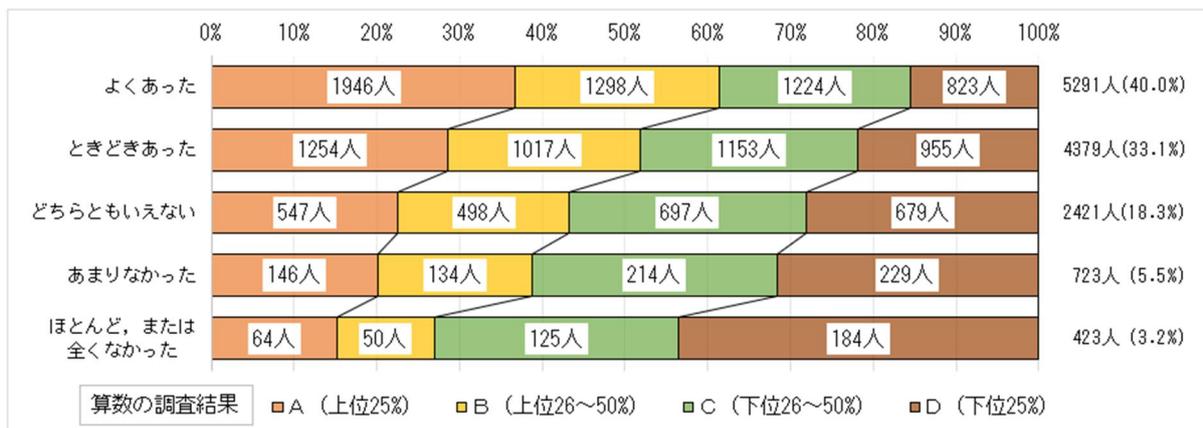
### 小学校4年生 算数



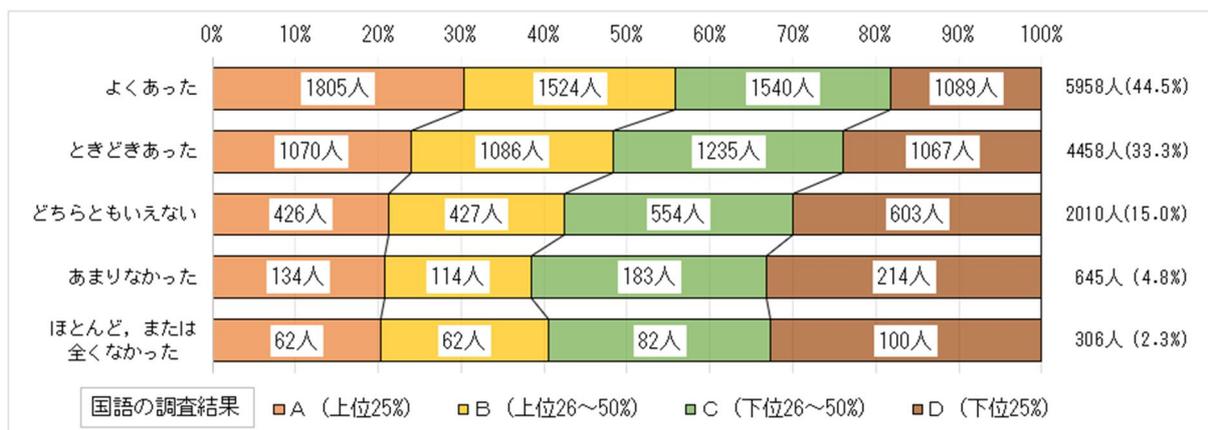
### 小学校5年生 国語



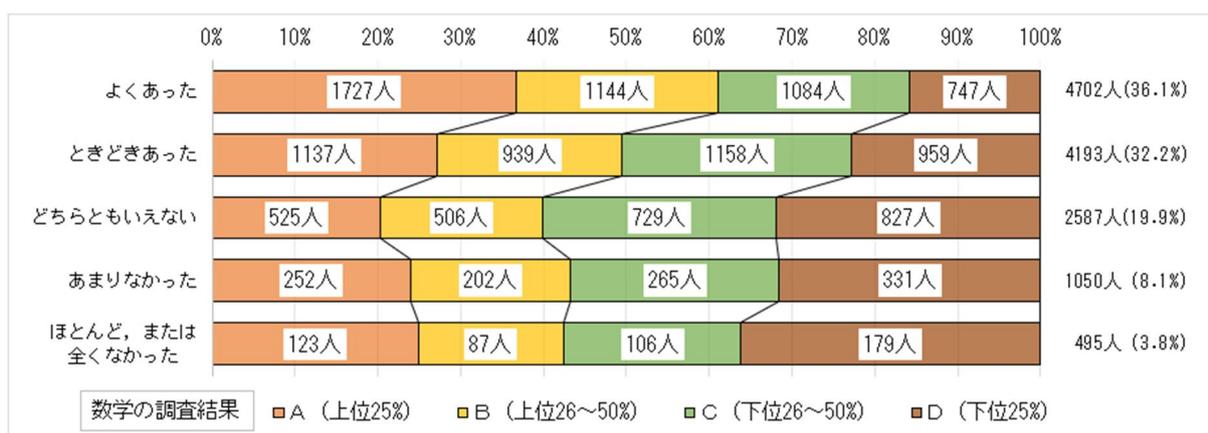
### 小学校6年生 算数



## 中学校 1 年生 国語



## 中学校 2 年生 数学

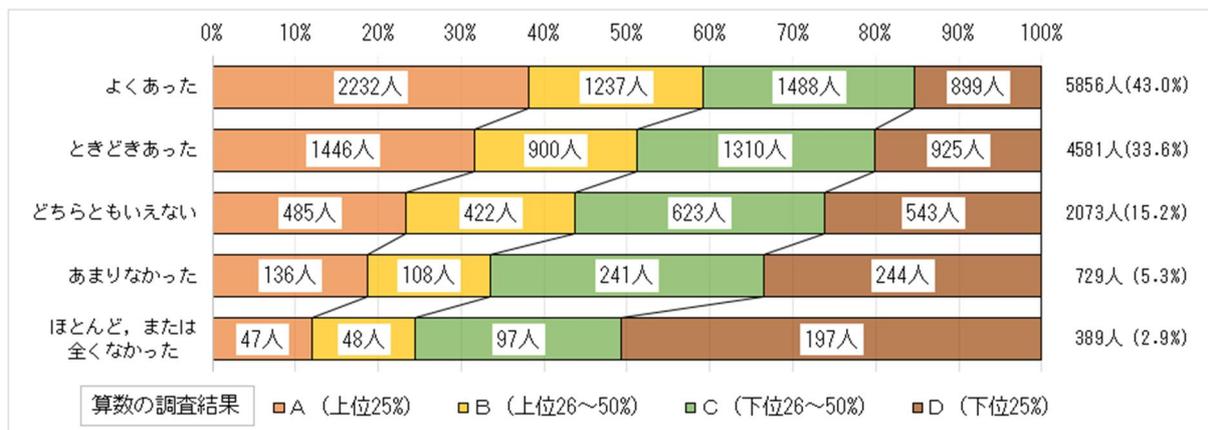


※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

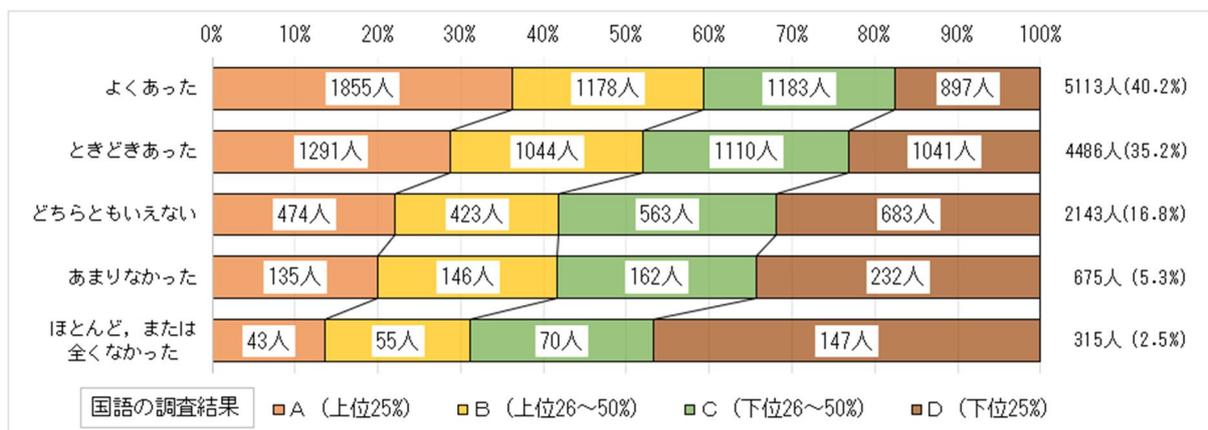
縦軸：質問『授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがありますか』

横軸：『国語の調査結果』（小5・中1）算数・数学の調査結果』（小4・小6・中2）

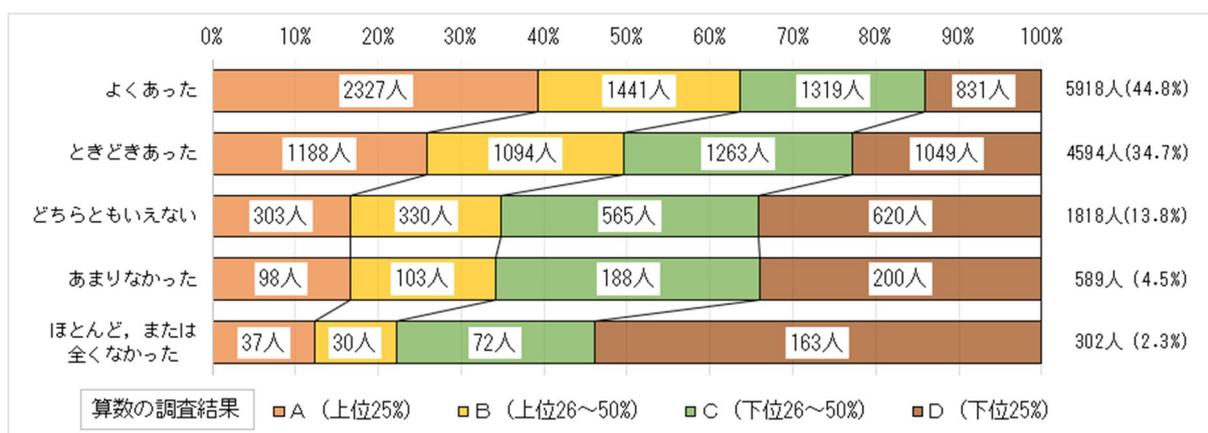
### 小学校4年生 算数



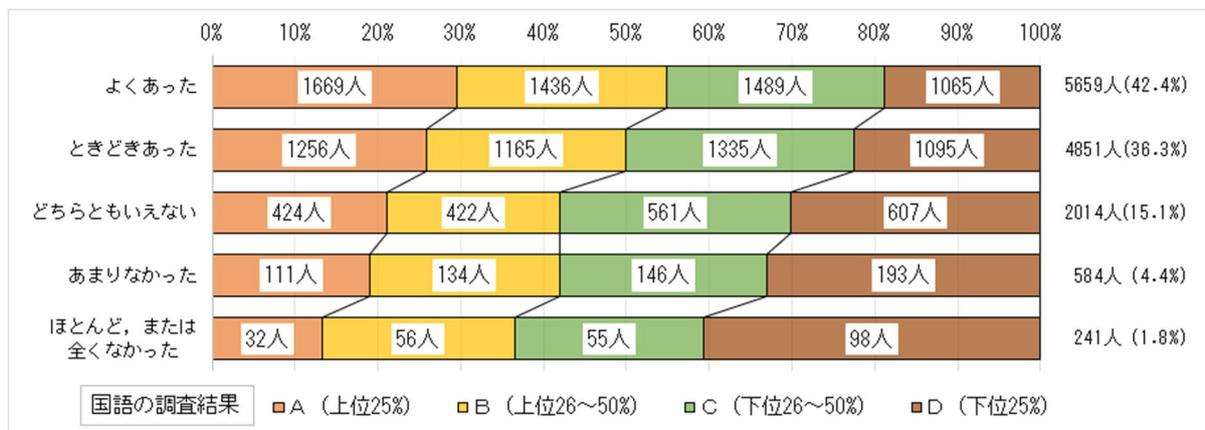
### 小学校5年生 国語



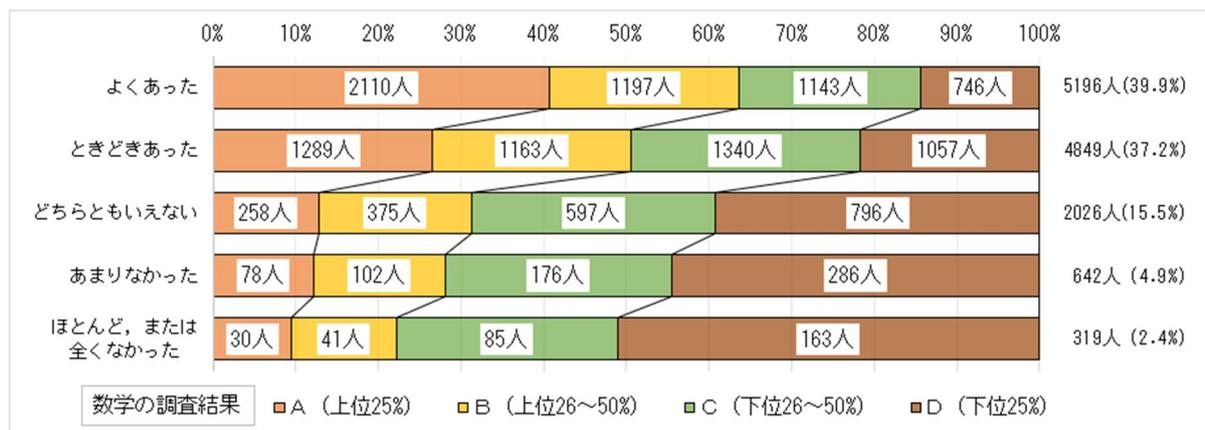
### 小学校6年生 算数



## 中学校1年生 国語



## 中学校2年生 数学



※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。



## (2) 学習意欲や学習環境に関すること

- 学習の準備を整える等の授業に臨む心構えや、他の児童生徒及び教師から認められる等の自己肯定感と「学力のレベル」の高さに関係が見られた。
- 教師の話や友達の発表をしっかりと聞き、発表する等の学習習慣や学ぼうとする意欲（非認知能力の一つ）と「学力のレベル」の高さに関係が見られた。

- ◎ 授業に臨む心構えを大切にさせ、始業前に学習用具を準備させる等のよりよい学習習慣や学習に対する前向きな姿勢を育てることが重要である。
- ◎ 学級経営において、教師が積極的に児童生徒のよいところをほめたり、児童生徒同士が互いのよさを認め、高め合う雰囲気を醸成したりすることにより、達成感を得たり、自己肯定感を高めたりすることが学力向上につながると考えられる。
- ◎ 児童生徒が友達の発表を聞き、自分の考えを相手に伝えるためには、教師は「何について話し合っているか」や「何を学んだか」が児童生徒にとって明確になるように発問を工夫する必要があると考えられる。

### 【ふくしまの「授業スタンダード」より】

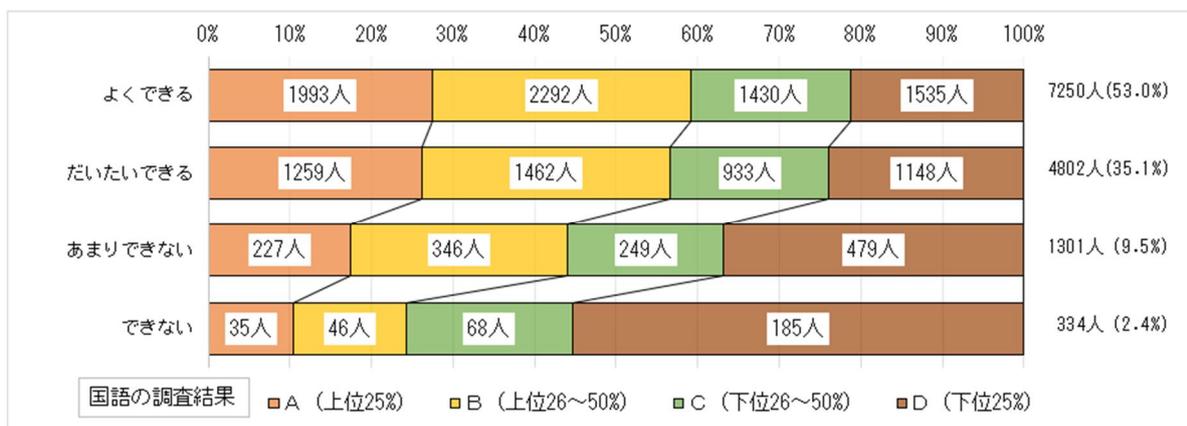
- ・ 学習規律について、発達段階を踏まえて共通実践することを大切にしましょう。
- ・ 普段の学校生活全般において、教師と子ども、子ども同士の「望ましい人間関係」を築いていくことを大切にしましょう。
- ・ 発達段階に応じて、児童生徒にどのような活動を通してどこまで考えさせるかを明確にした授業づくりを大切にしましょう。

<児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から>

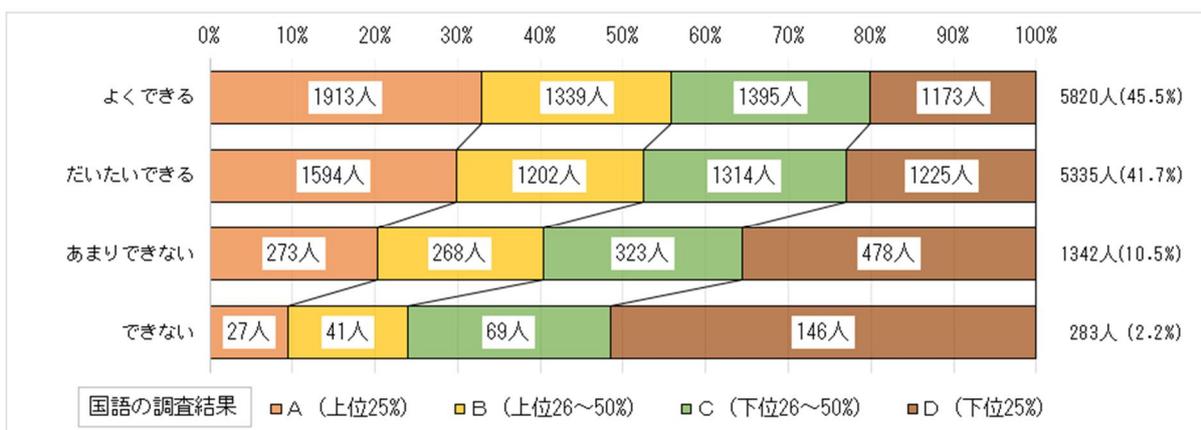
縦軸：質問『授業の前に、机の上に学習用具をそろえることができますか  
(学習の準備を整え、授業に臨むことができますか)』

横軸：『国語の調査結果』(小4～中2)

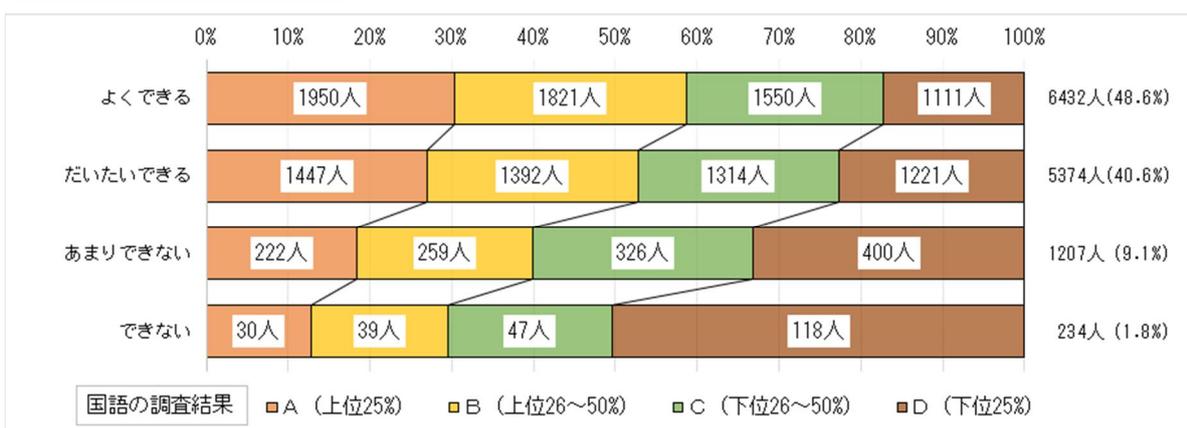
小学校4年生 国語



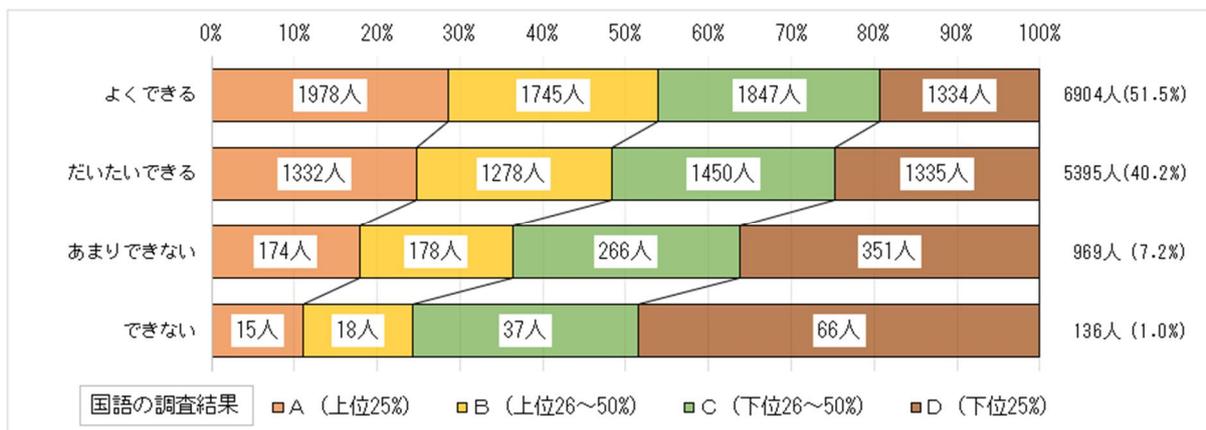
小学校5年生 国語



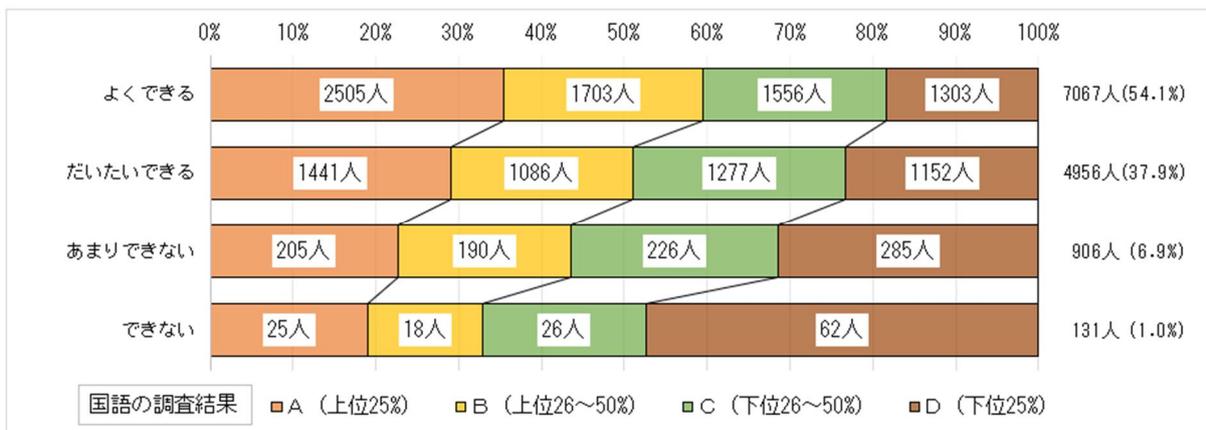
小学校6年生 国語



### 中学校 1 年生 国語



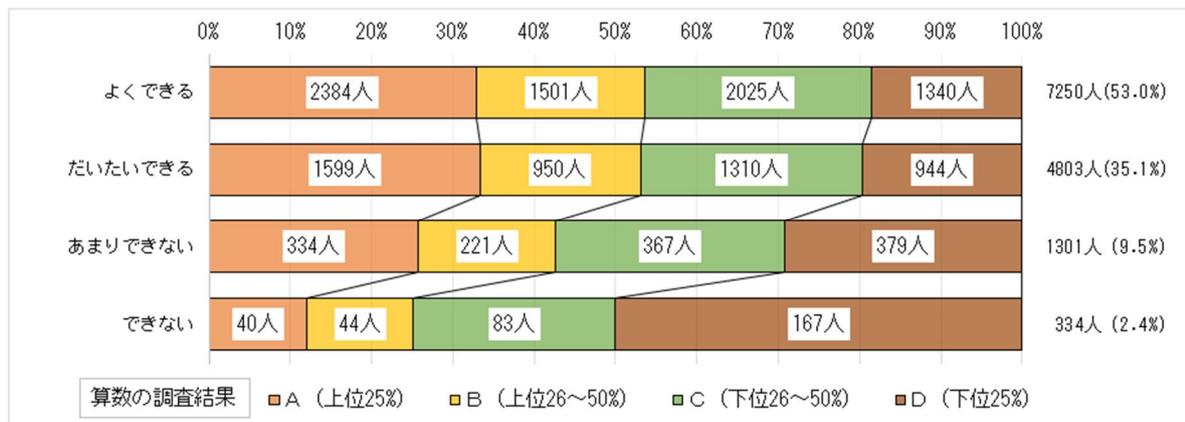
### 中学校 2 年生 国語



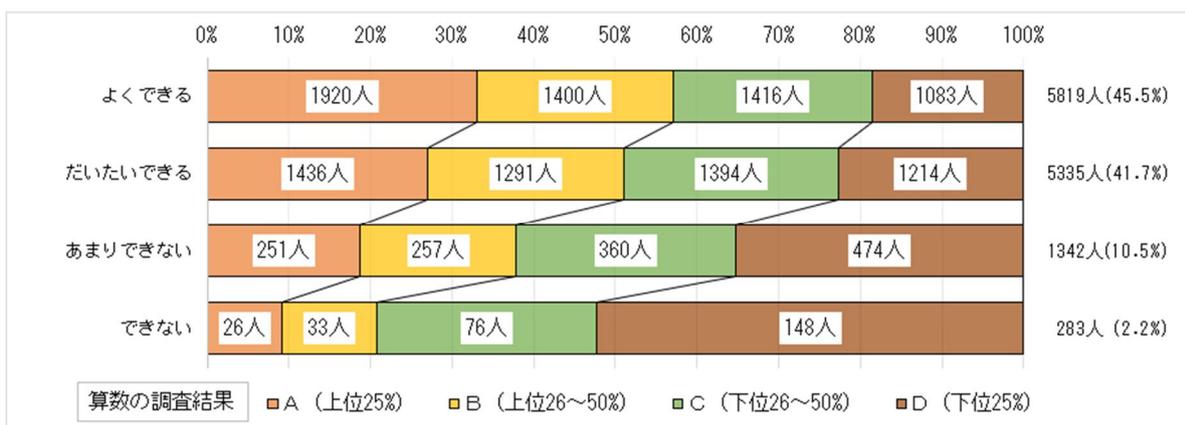
※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『授業の前に、机の上に学習用具をそろえることができていますか  
（学習の準備を整え、授業に臨むことができていますか）』  
横軸：『算数・数学の調査結果』（小4～中2）

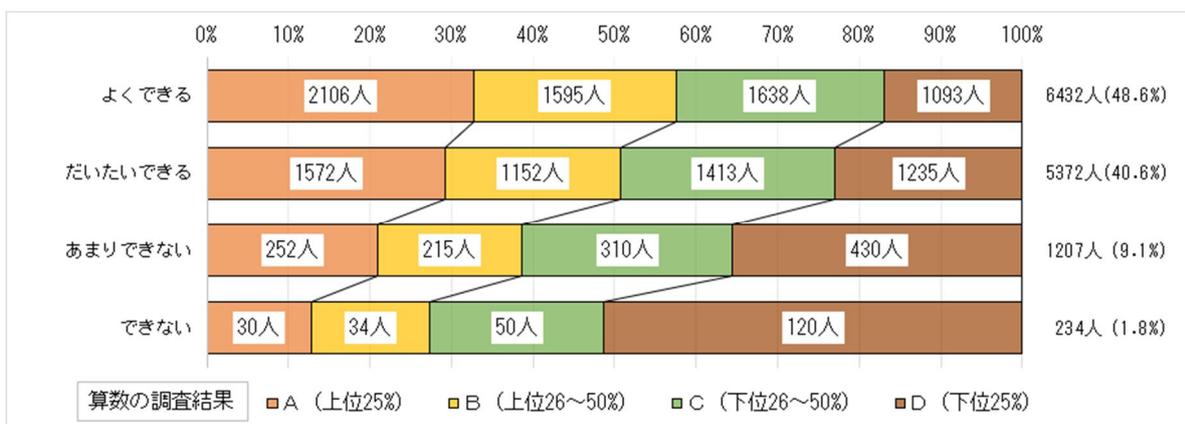
### 小学校4年生 算数



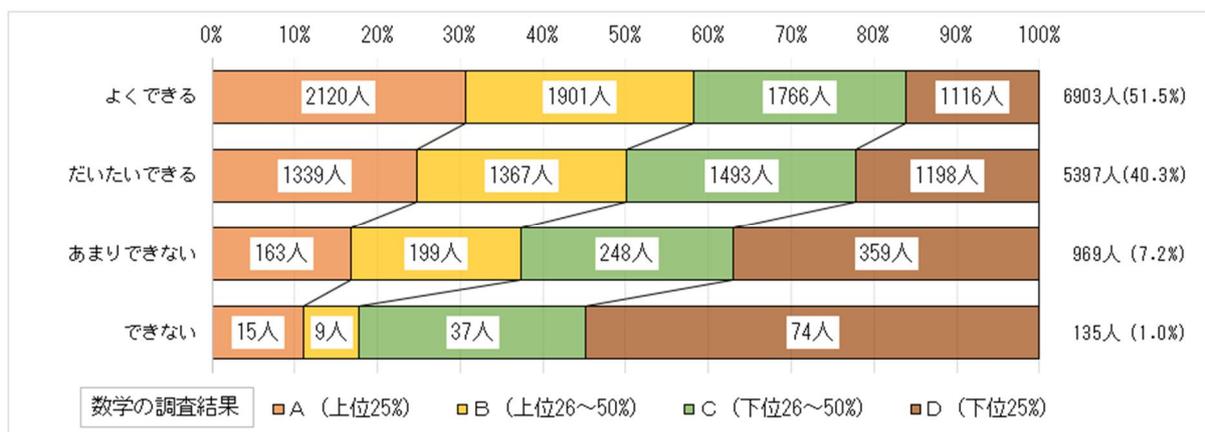
### 小学校5年生 算数



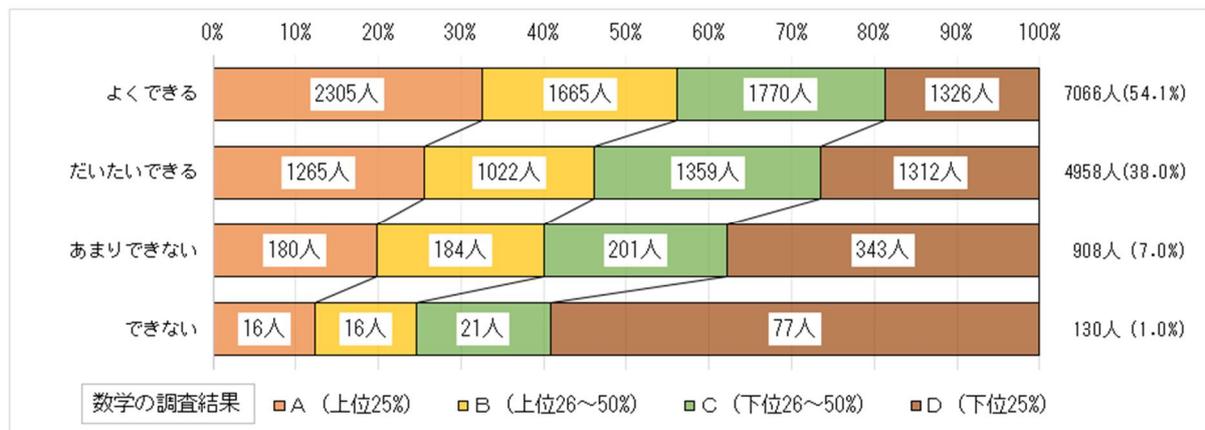
### 小学校6年生 算数



### 中学校 1 年生 数学



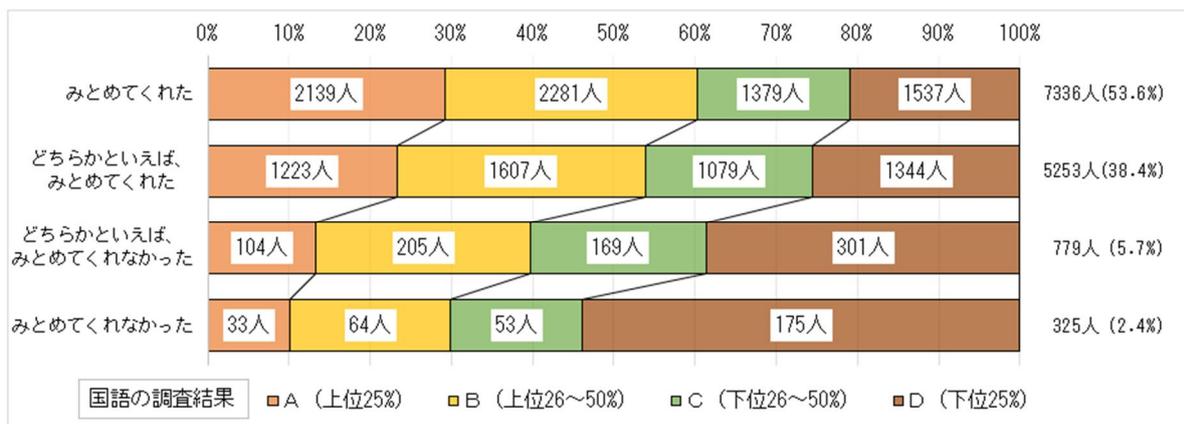
### 中学校 2 年生 数学



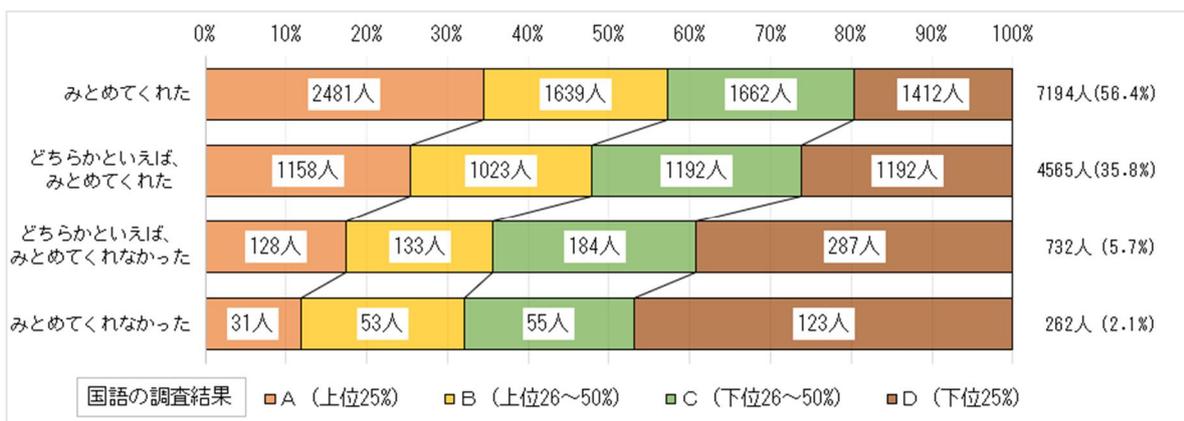
※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

縦軸：質問『学校の先生たちは、自分のよいところを認めてくれましたか』  
 横軸：『国語の調査結果』（小4～中2）

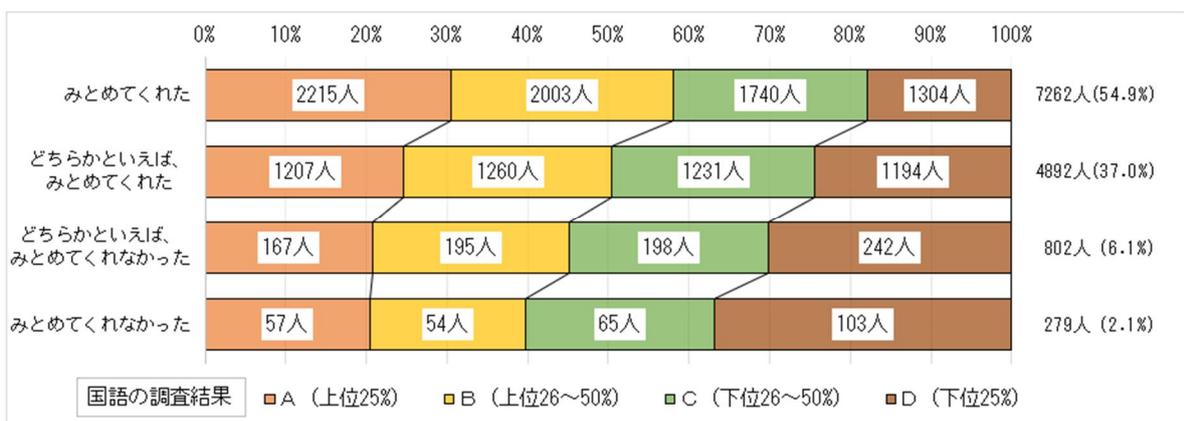
### 小学校4年生 国語



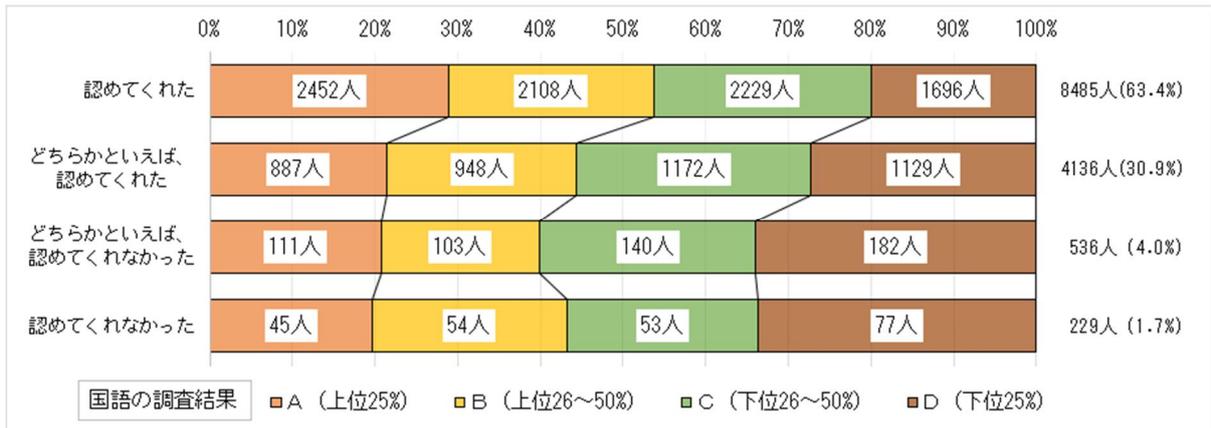
### 小学校5年生 国語



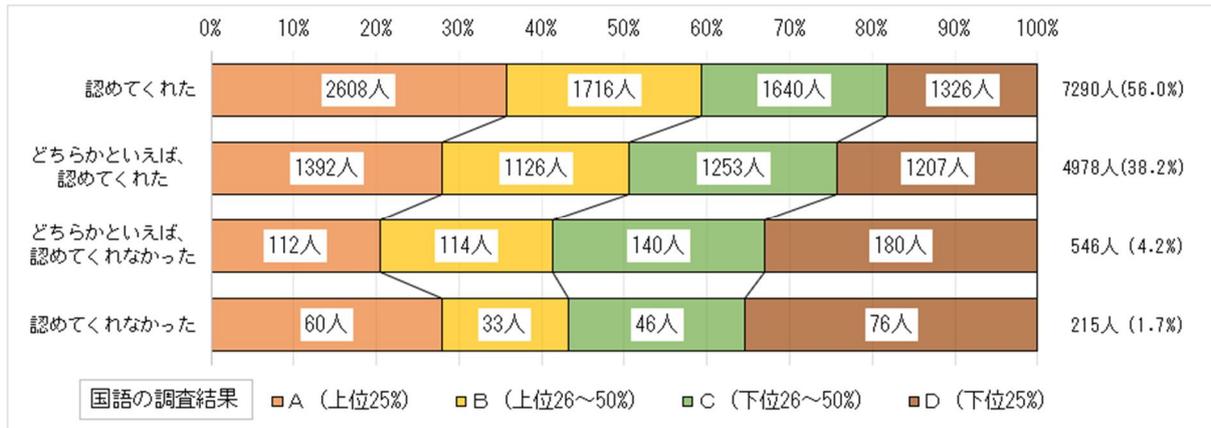
### 小学校6年生 国語



### 中学校 1 年生 国語



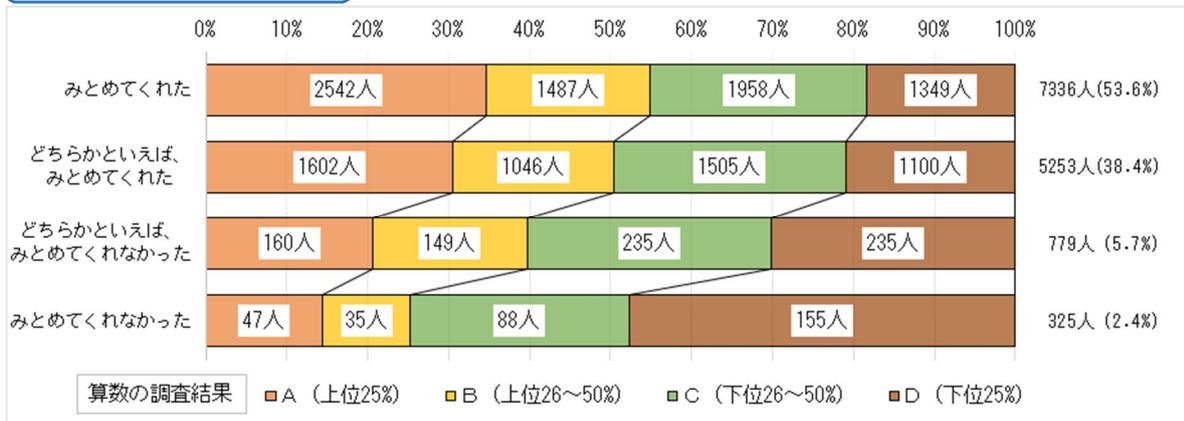
### 中学校 2 年生 国語



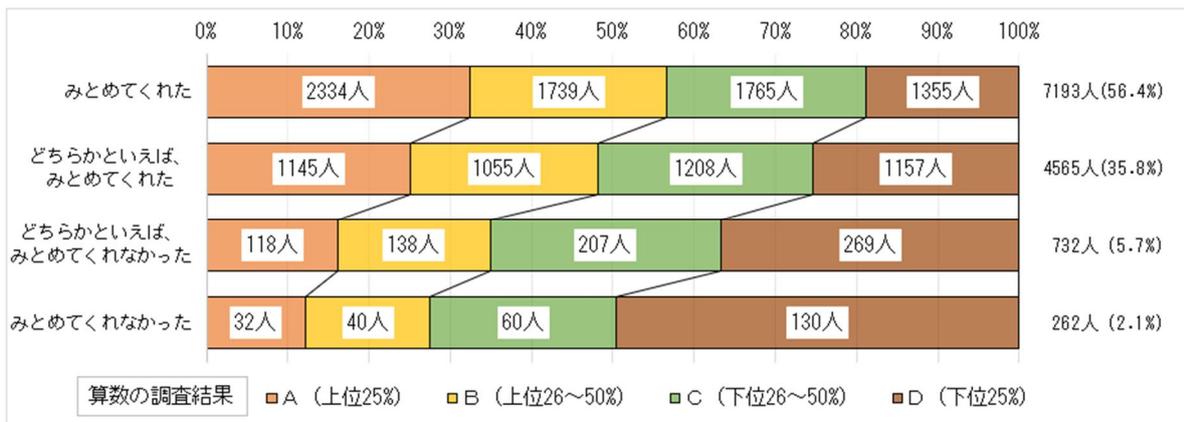
※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『学校の先生たちは、自分のよいところを認めてくれましたか』  
 横軸：『算数・数学の調査結果』（小4～中2）

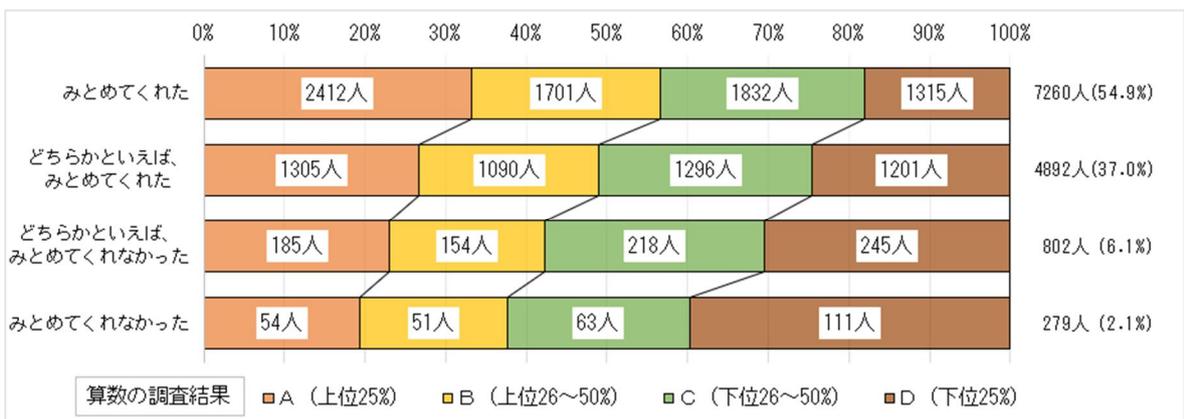
### 小学校4年生 算数



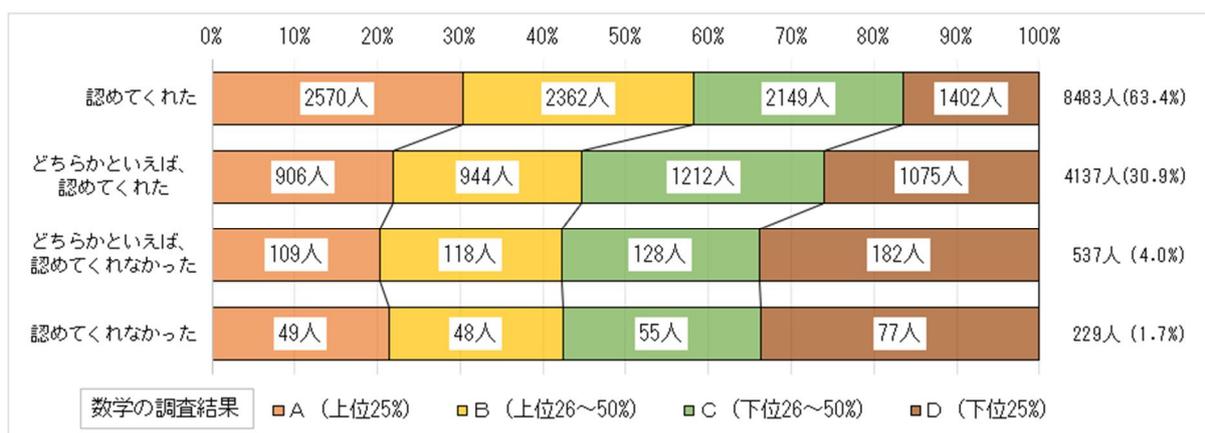
### 小学校5年生 算数



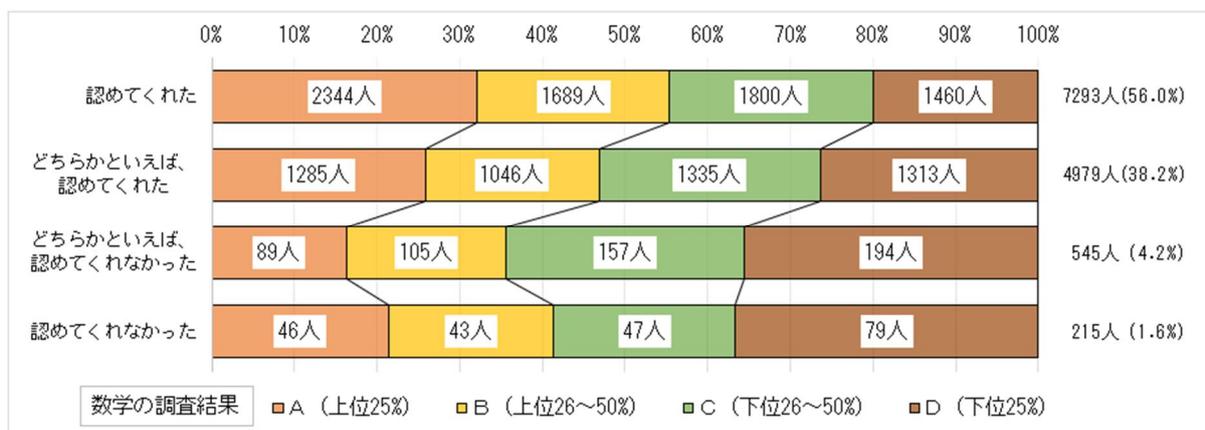
### 小学校6年生 算数



### 中学校 1 年生 数学



### 中学校 2 年生 数学

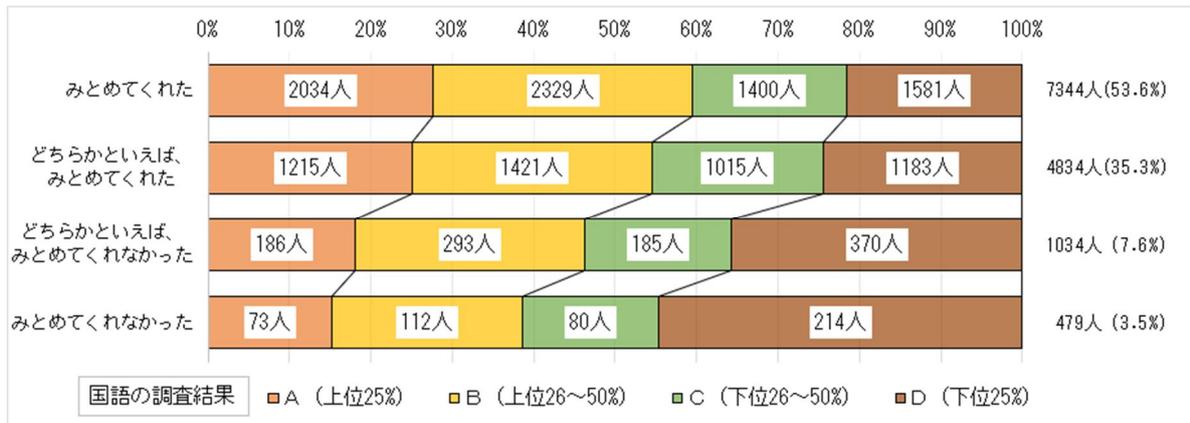


※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

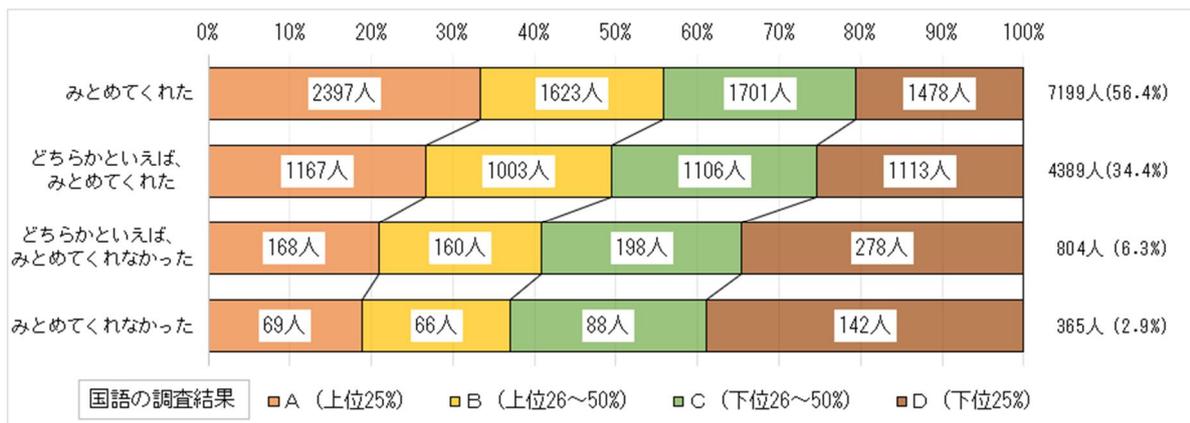
縦軸：質問『学校の友達は、自分のよいところを認めてくれましたか』

横軸：『国語の調査結果』（小4～中2）

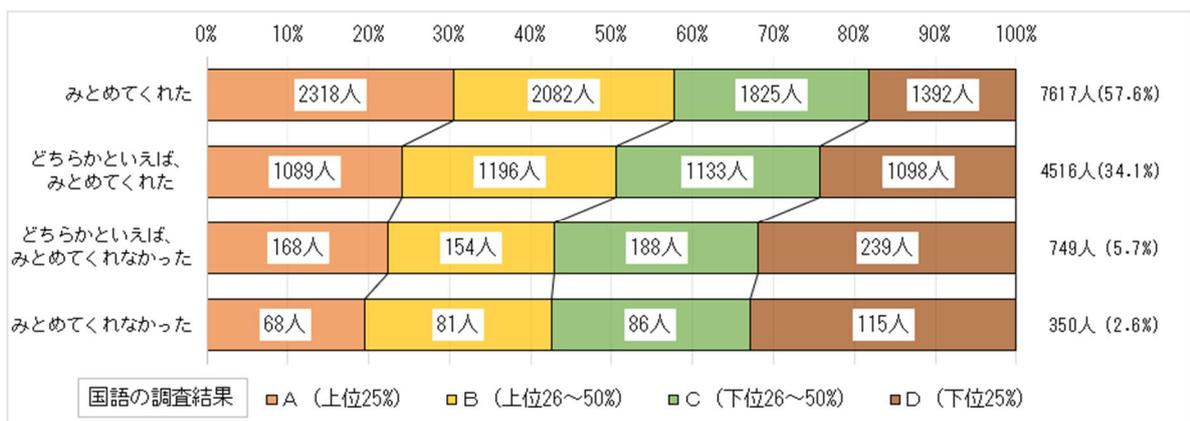
### 小学校4年生 国語



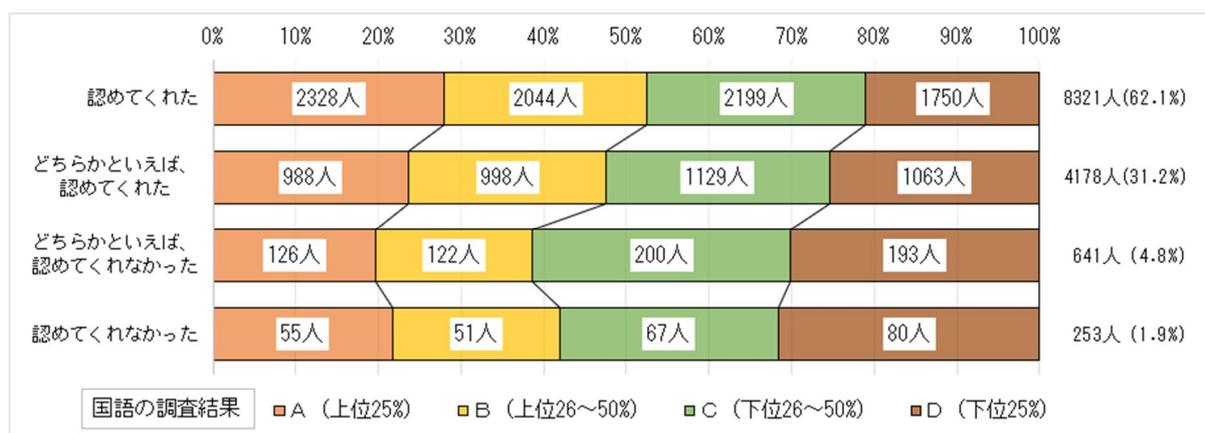
### 小学校5年生 国語



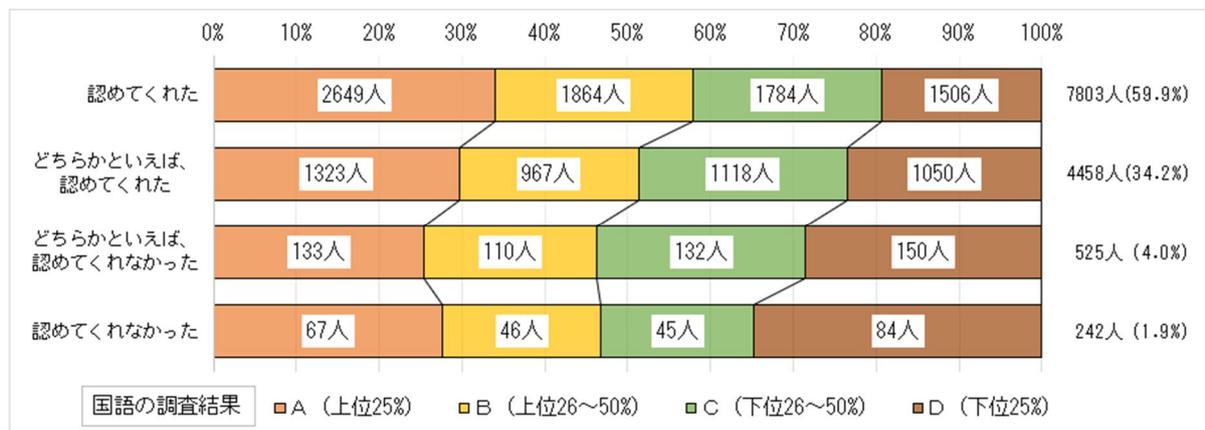
### 小学校6年生 国語



### 中学校 1 年生 国語



### 中学校 2 年生 国語

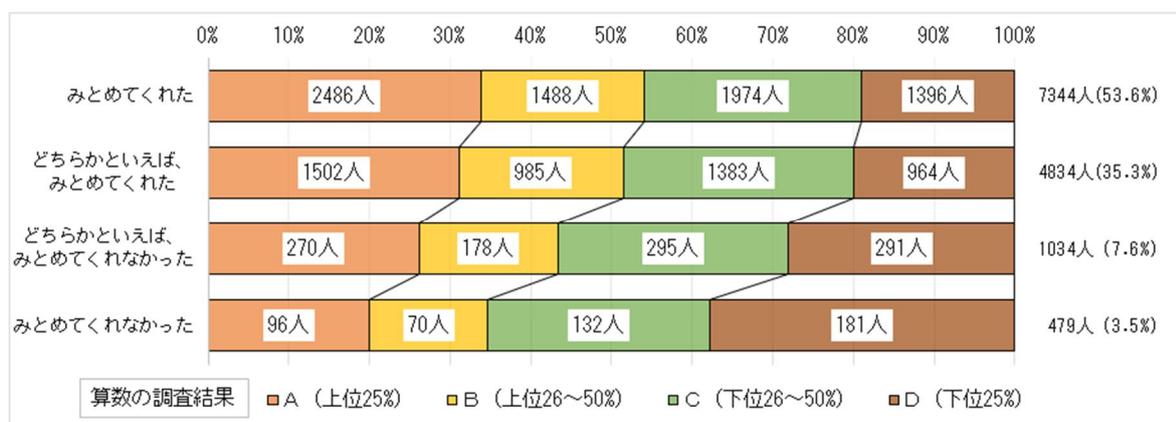


※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

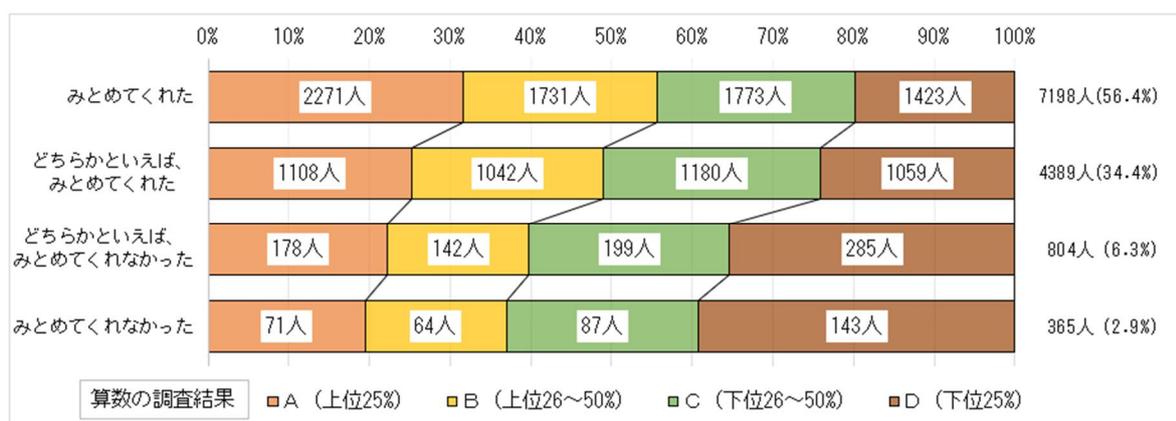
縦軸：質問『学校の友達は、自分のよいところを認めてくれましたか』

横軸：『算数・数学の調査結果』（小4～中2）

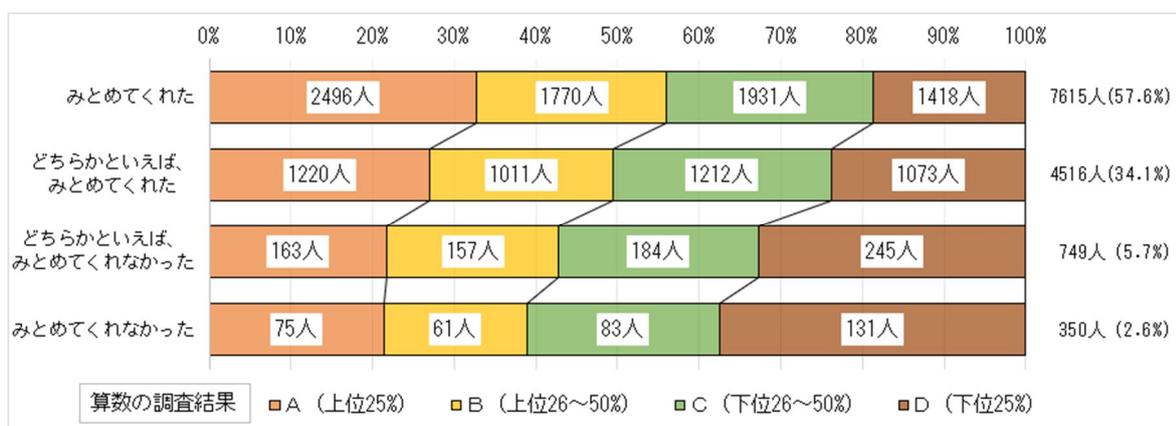
### 小学校4年生 算数



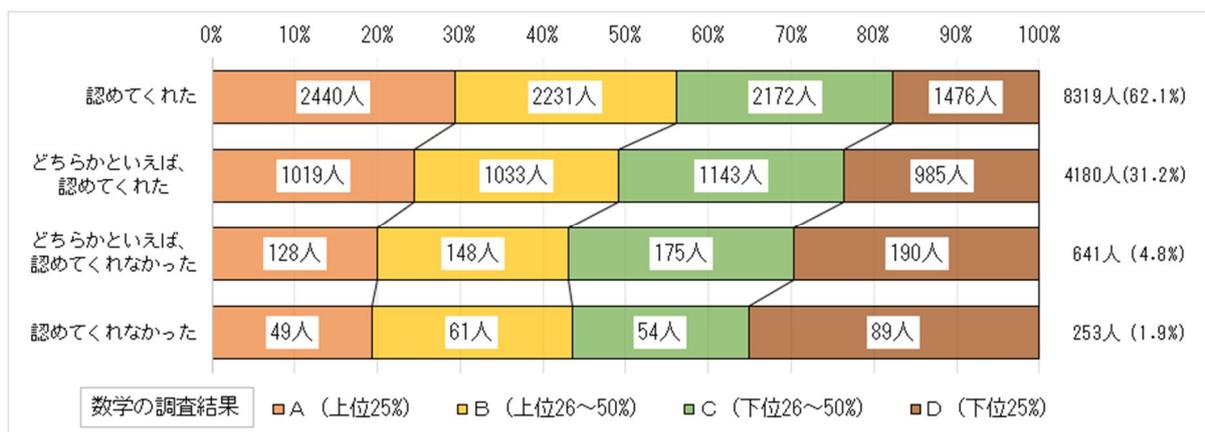
### 小学校5年生 算数



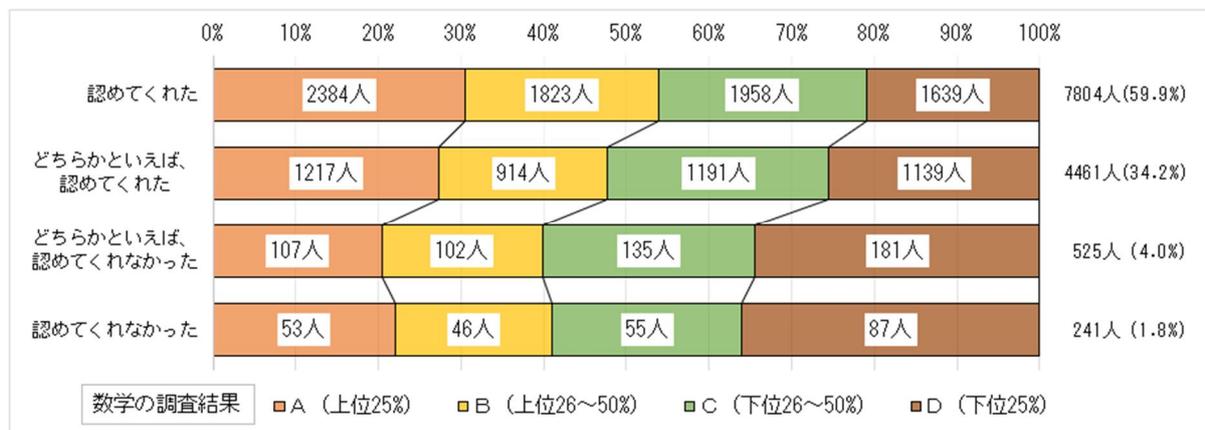
### 小学校6年生 算数



### 中学校 1 年生 数学



### 中学校 2 年生 数学

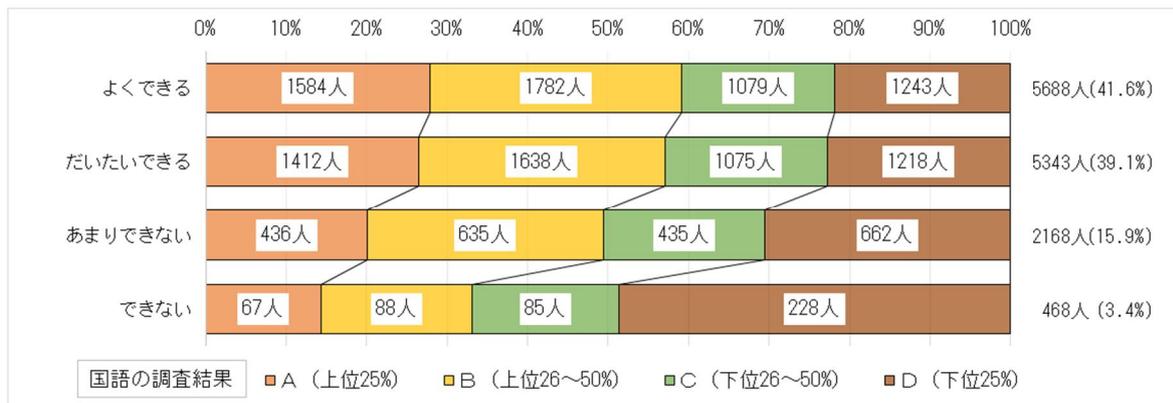


※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

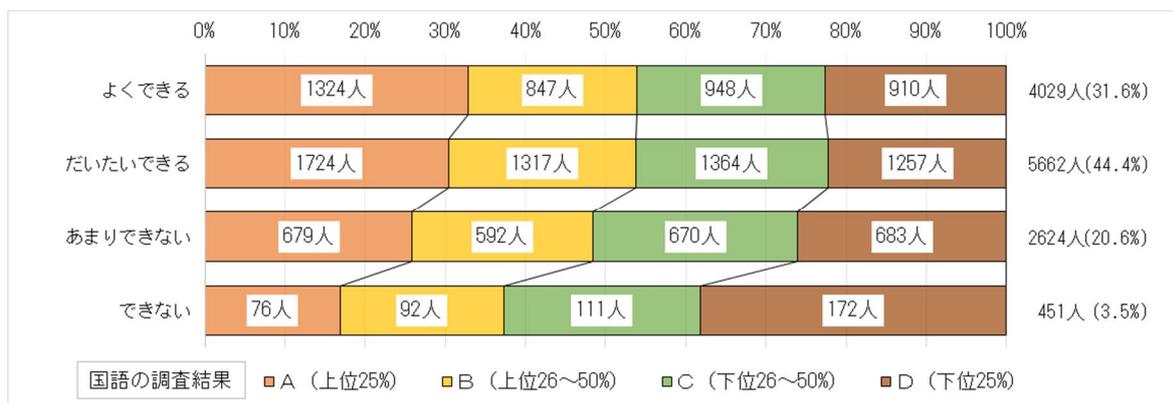
縦軸：質問『先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、発表する（考えを伝える）  
 ことができているか』

横軸：『国語の調査結果』（小4～中2）

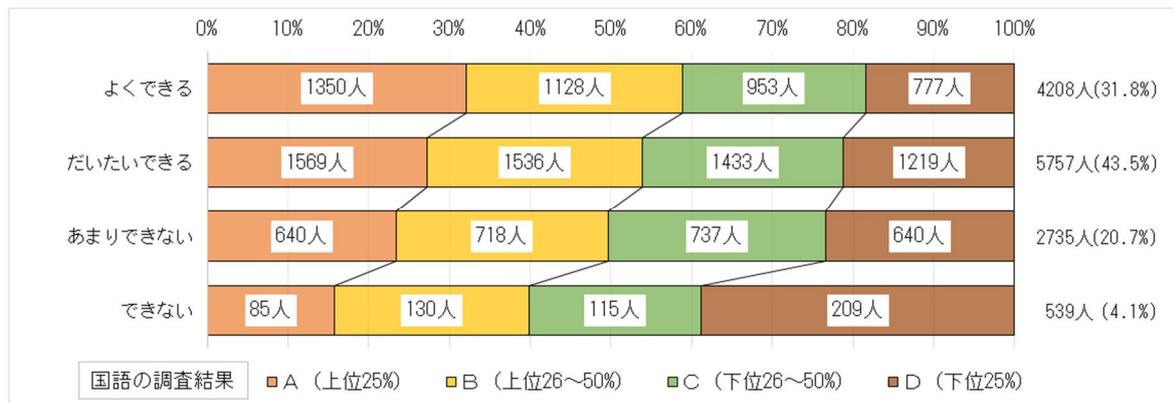
小学校4年生 国語



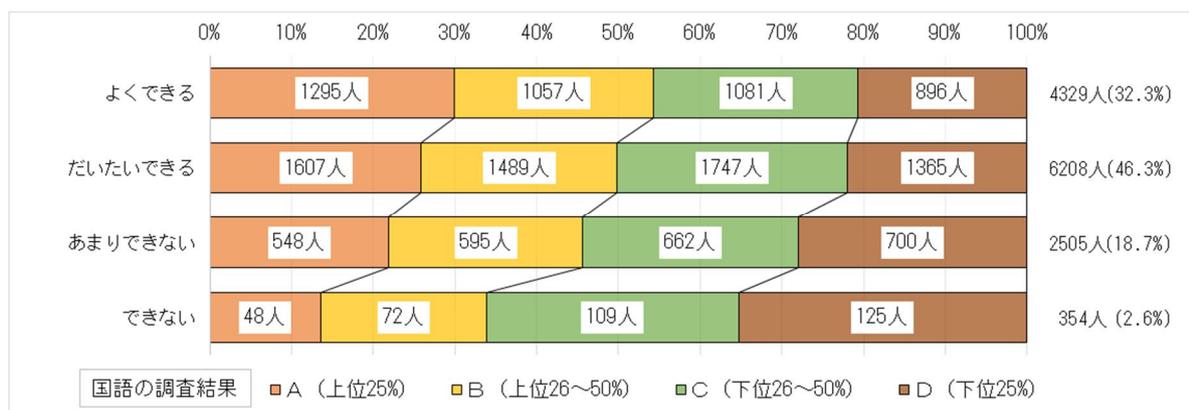
小学校5年生 国語



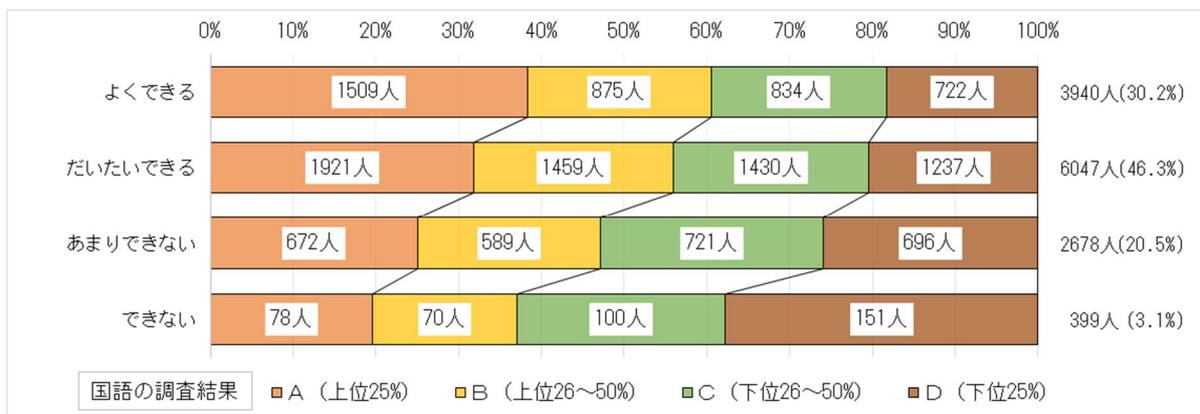
小学校6年生 国語



### 中学校 1 年生 国語



### 中学校 2 年生 国語

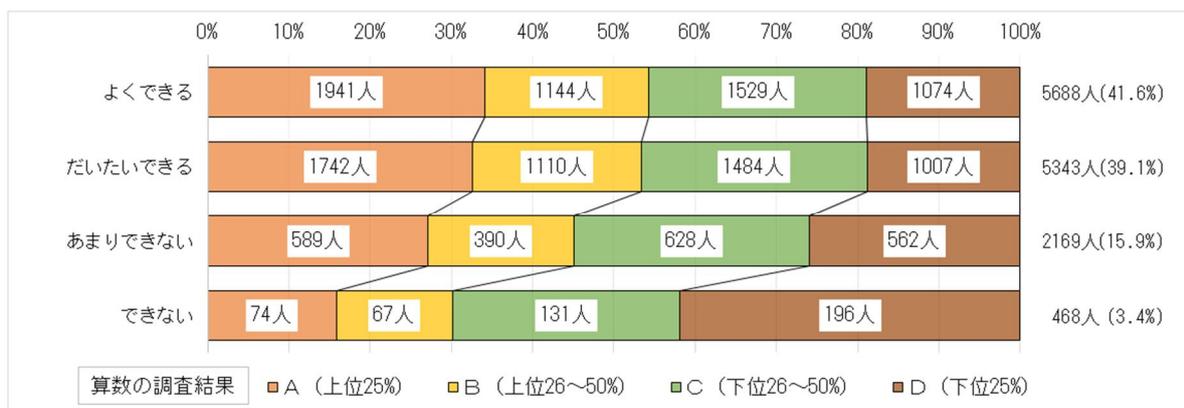


※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

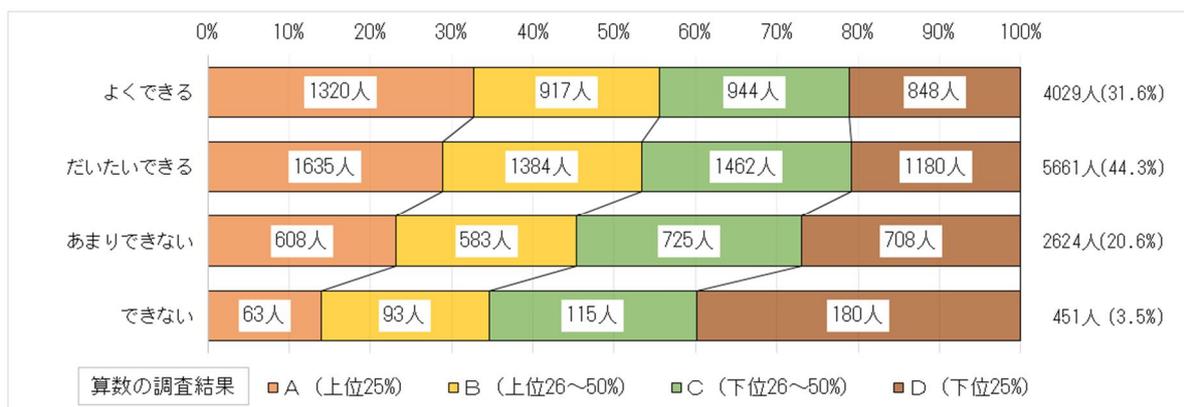
縦軸：質問『先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、発表する（考えを伝える）  
 ことができているか』

横軸：『算数・数学の調査結果』（小4～中2）

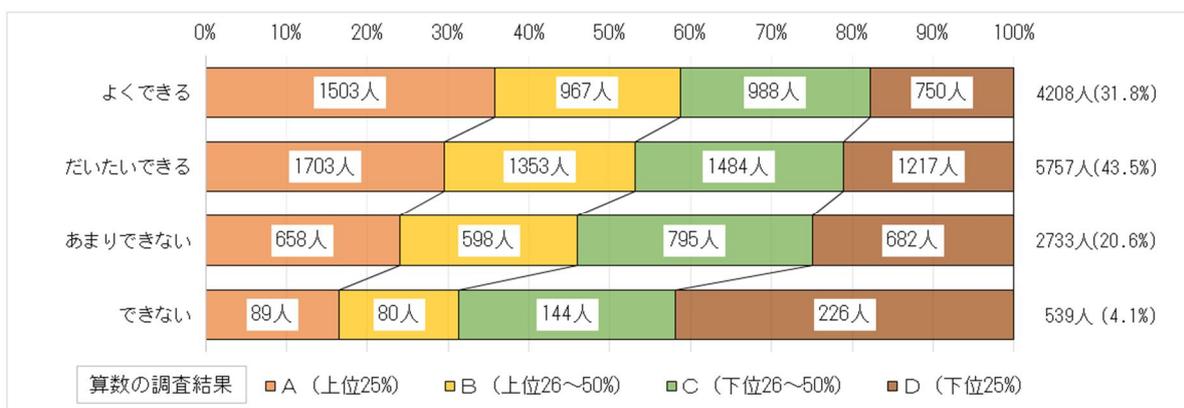
小学校4年生 算数



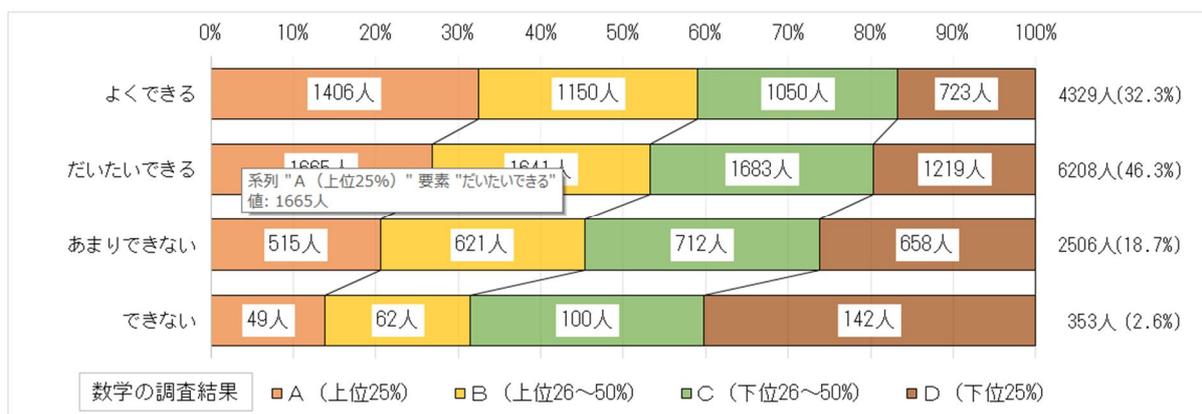
小学校5年生 算数



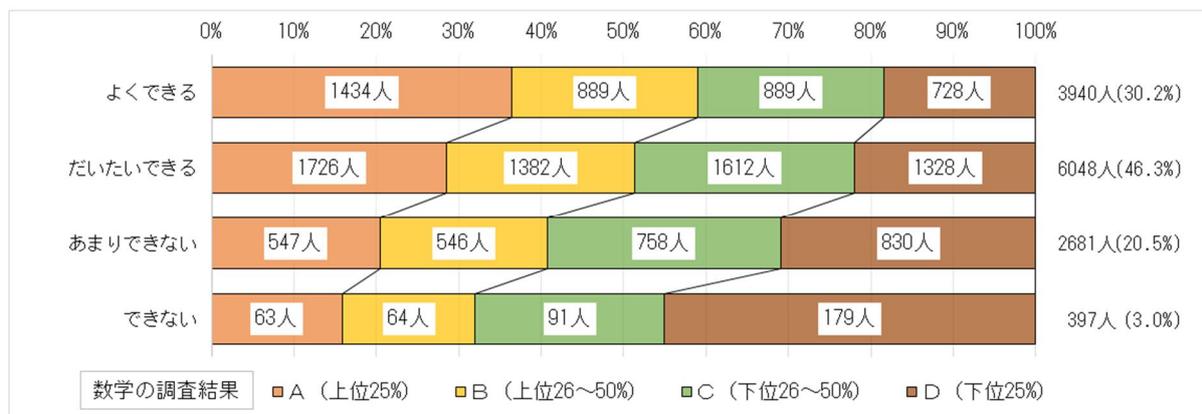
小学校6年生 算数



### 中学校 1 年生 数学



### 中学校 2 年生 数学



※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。



### (3) 家庭での生活に関すること

- 特に中学校において、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、勉強する時間（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む。）の長さとして「学力のレベル」の高さに関係が見られた。
- 読書の冊数と「学力のレベル」の高さに関係が見られた。また、家庭にある本の冊数と「学力のレベル」の高さに関係が見られた。

- ◎ 土曜日や日曜日など休日における家庭学習の時間の確保に加えて、その内容や方法を工夫し、その取組を振り返り見直す機会を設ける等、学校と家庭・地域の連携を図りながら児童生徒の自己マネジメント力を育てていくことが大切である。
- ◎ 家族と一緒に読書に親しむ機会を増やすことや、読書環境を整えることなど、引き続き読書量を増やす取組をすることは、学力の向上に寄与するものである。加えて、どのような本を読むかという点に着目し、地域の図書館なども活用し、幅広い読書活動を促すことも大切である。

#### 【ふくしまの「家庭学習スタンダード」より】

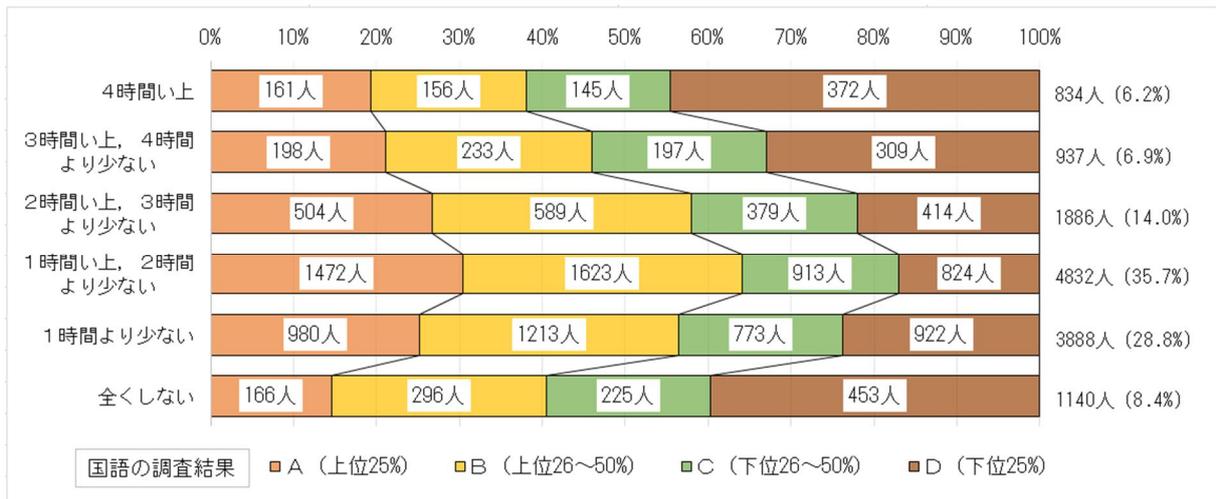
- ・ 学習内容に応じて宿題（復習、予習）を効果的に活用した授業に努めたり、授業で学習したことを活用できる場面や方法を紹介したりするなど、授業と家庭学習をつなげましょう。
- ・ 「心の支え」、「環境づくり」、「習慣づくり」の3つの視点で家庭・地域と協力・連携体制を築いて、「自己マネジメント力」を育てていきましょう。  
(家庭への働きかけとして)
- ・ 「環境づくり」の視点から、集中して学習できる環境を作ったり、家族と一緒に読書する機会を設けたりしていきましょう。
- ・ 「習慣づくり」の視点から、テレビやゲーム、スマホなどをするときのルールを決めましょう。また、「起床時刻」や「就寝時刻」、「学習を始める時刻」等の約束ごと、保護者と児童生徒が話し合い、家族みんなで規則正しい生活を心がけましょう。

<児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計の結果から>

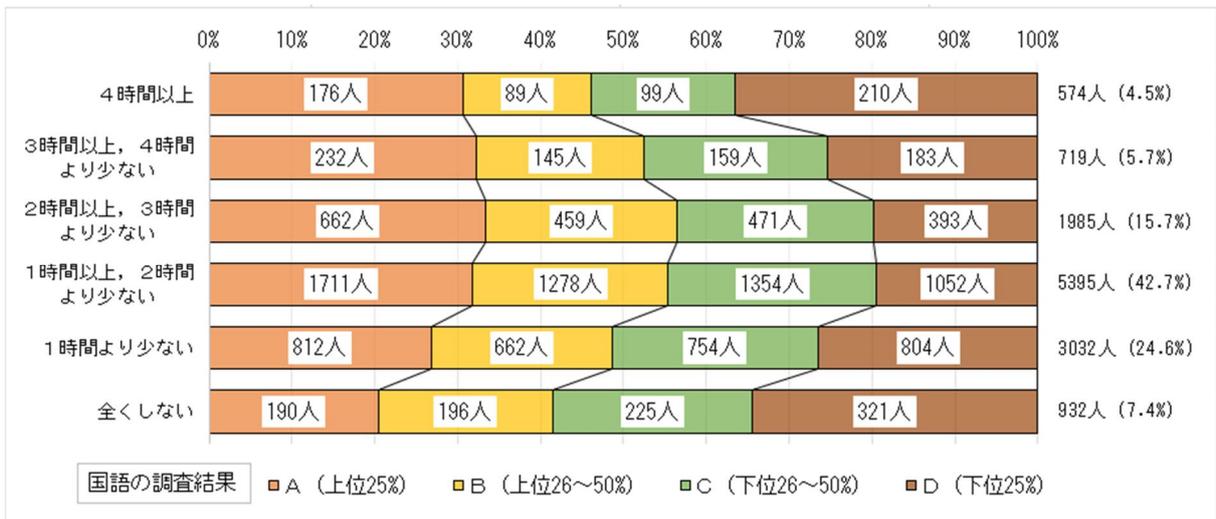
縦軸：質問『土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含まれます）』

横軸：『国語の調査結果』（小4～中2）

小学校4年生 国語

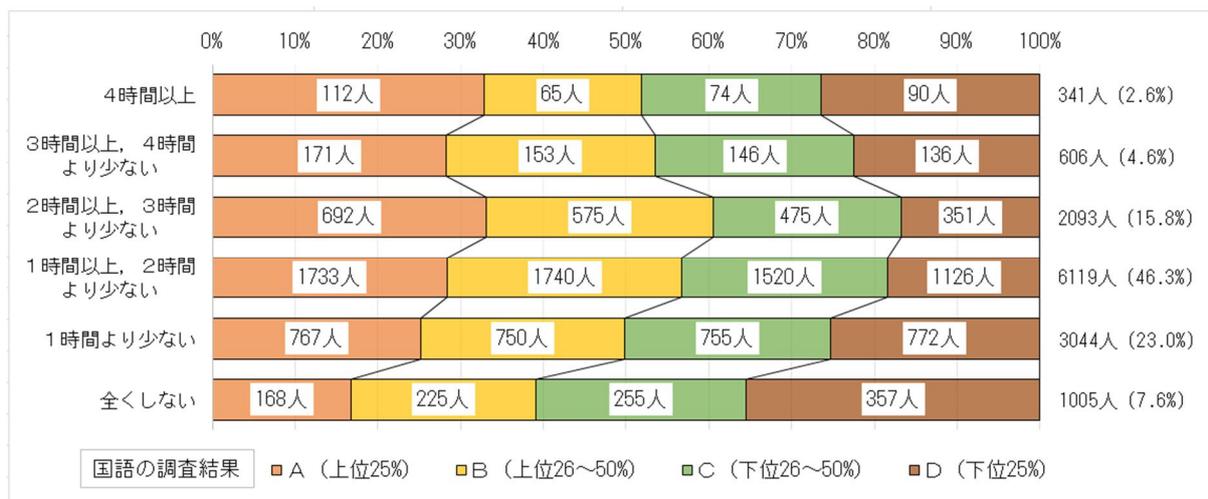


小学校5年生 国語

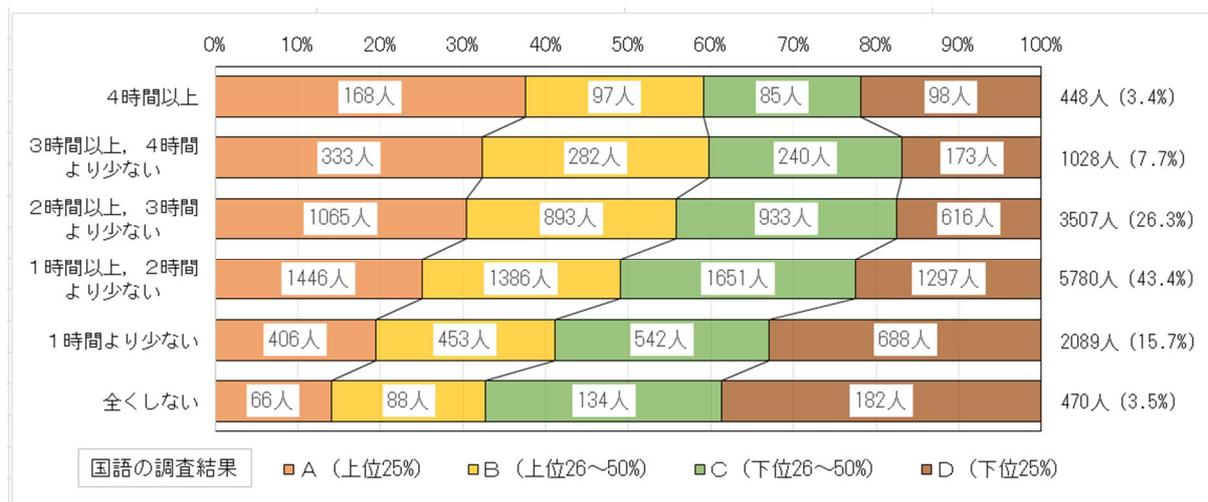


※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

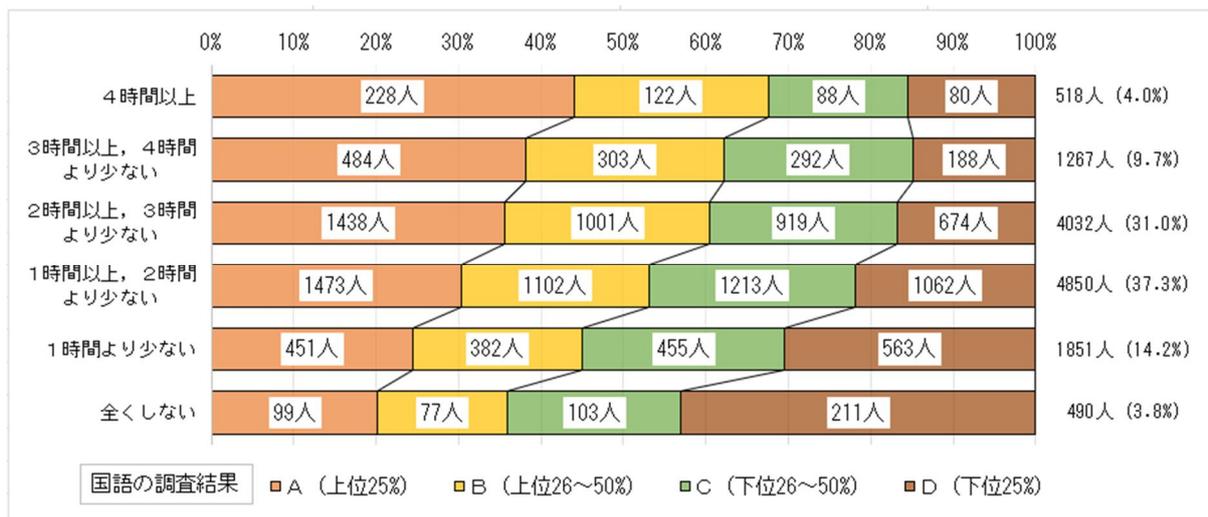
### 小学校6年生 国語



### 中学校1年生 国語



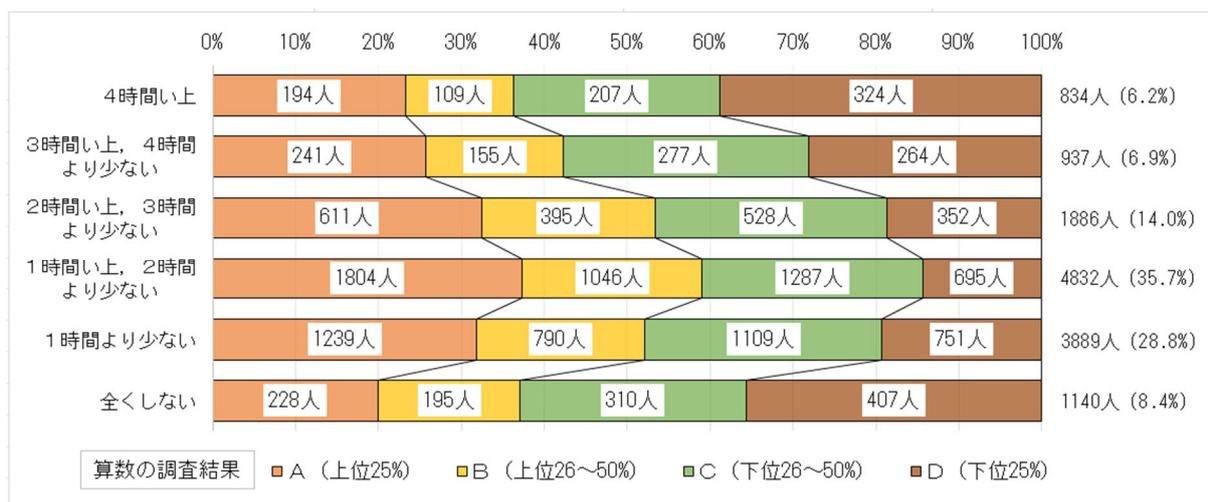
### 中学校2年生 国語



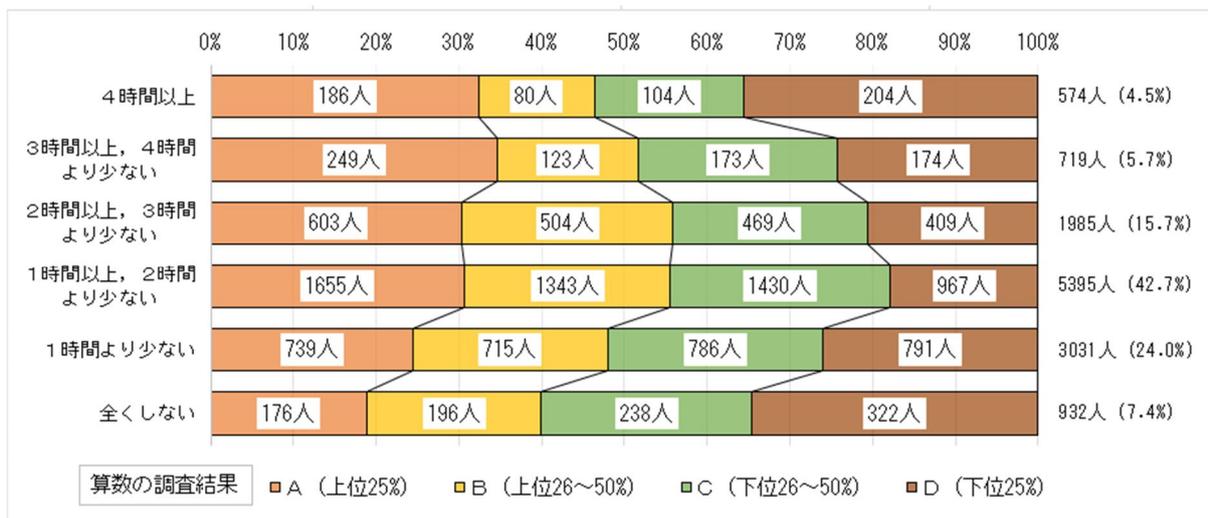
縦軸：質問『土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含まれます）』

横軸：『算数・数学の調査結果』（小4～中2）

### 小学校4年生 算数

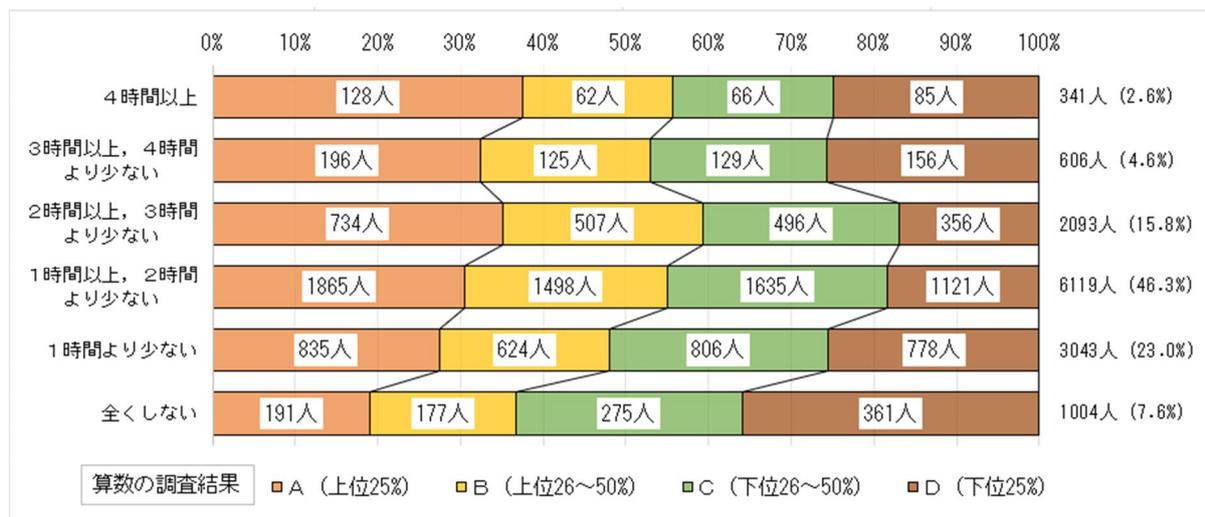


### 小学校5年生 算数

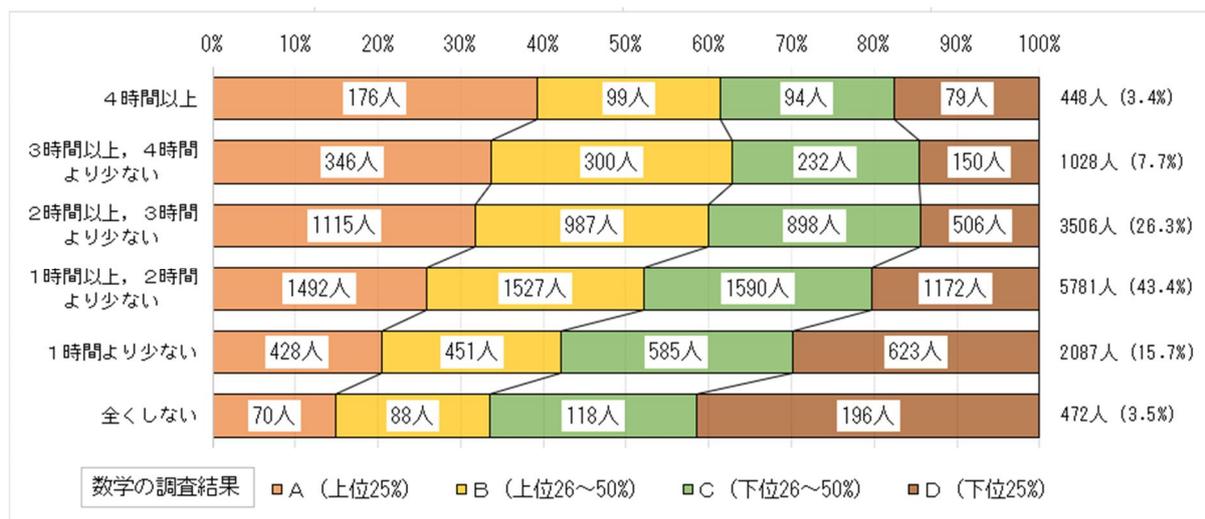


※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

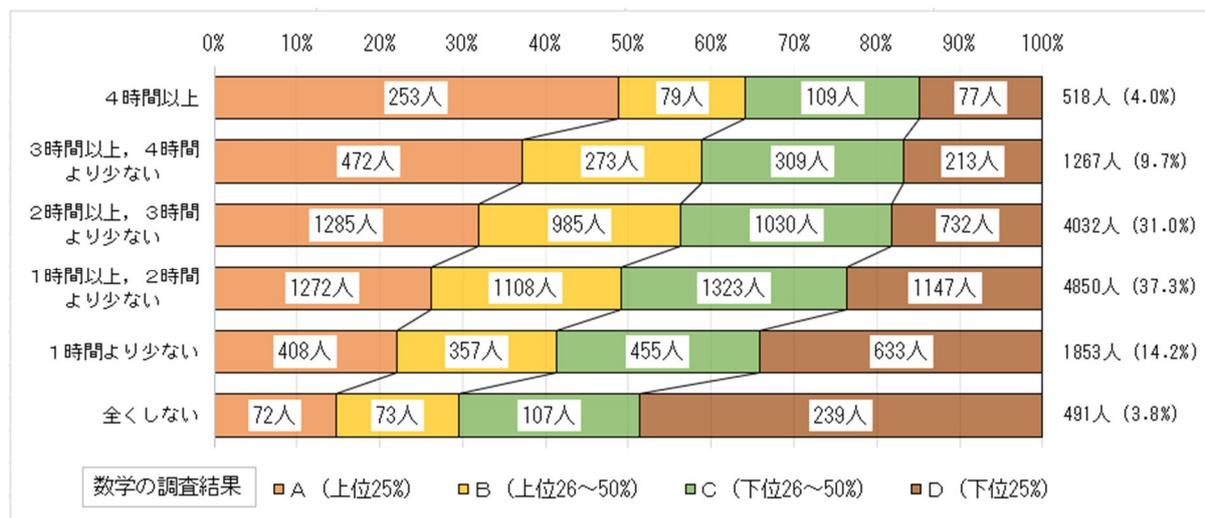
### 小学校6年生 算数



### 中学校1年生 数学



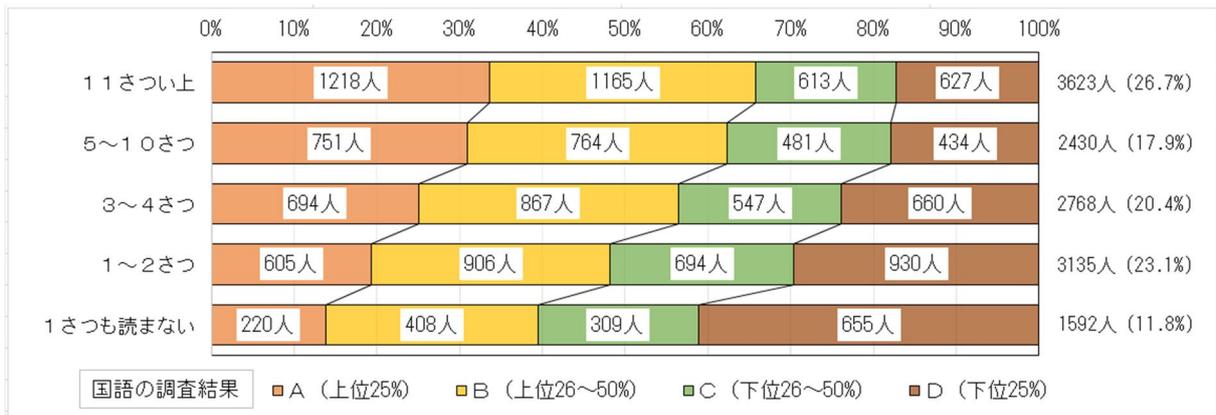
### 中学校2年生 数学



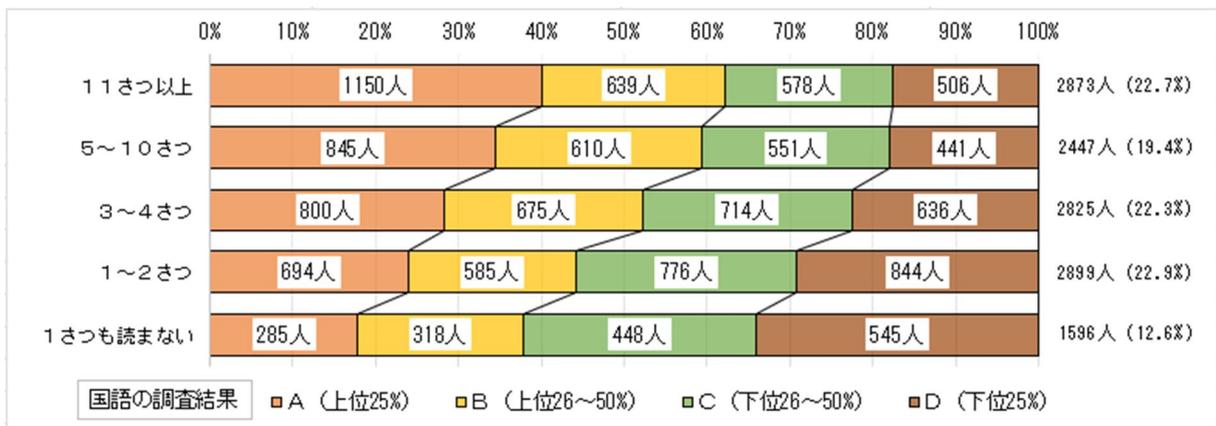
縦軸：質問『1か月に、何冊くらいの本を読みますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除きます）』

横軸：『国語の調査結果』（小4～中2）

### 小学校4年生 国語

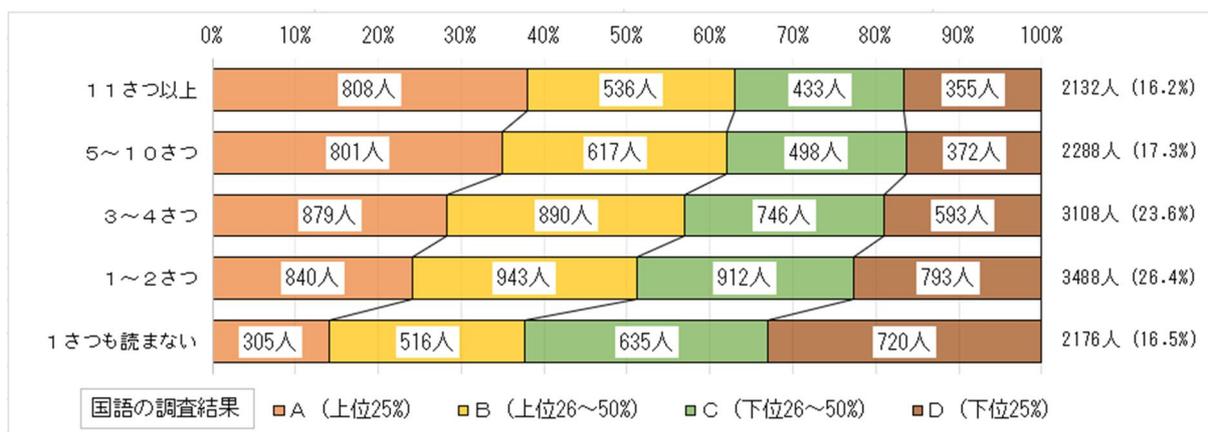


### 小学校5年生 国語

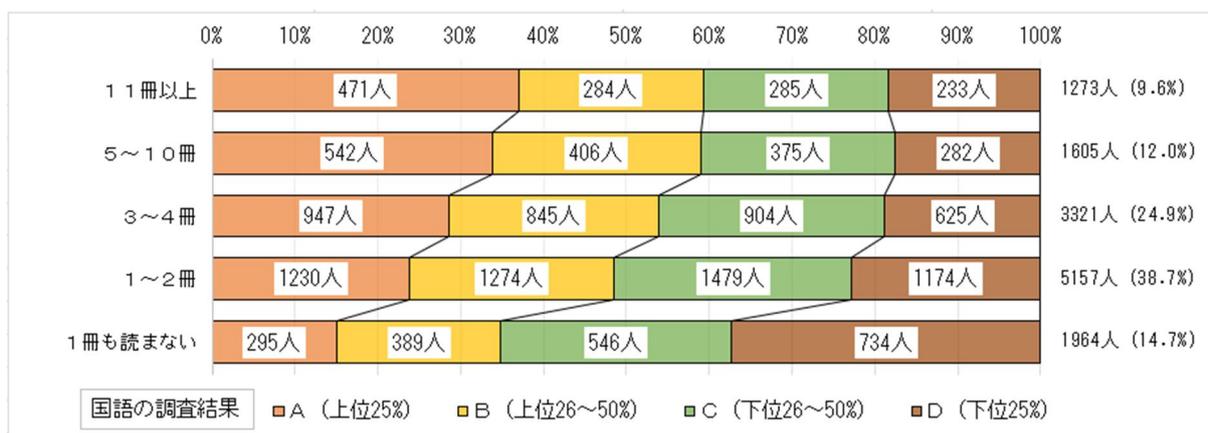


※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

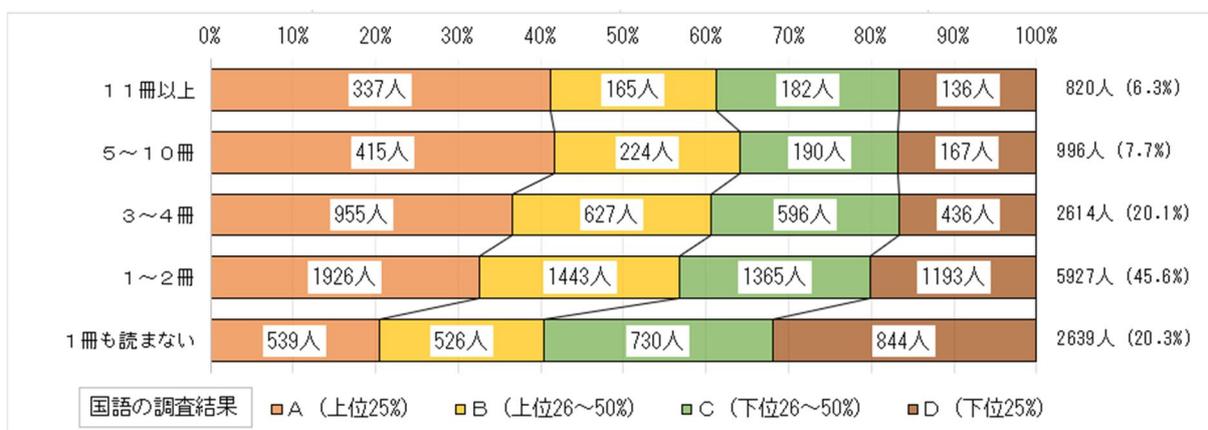
### 小学校6年生 国語



### 中学校1年生 国語



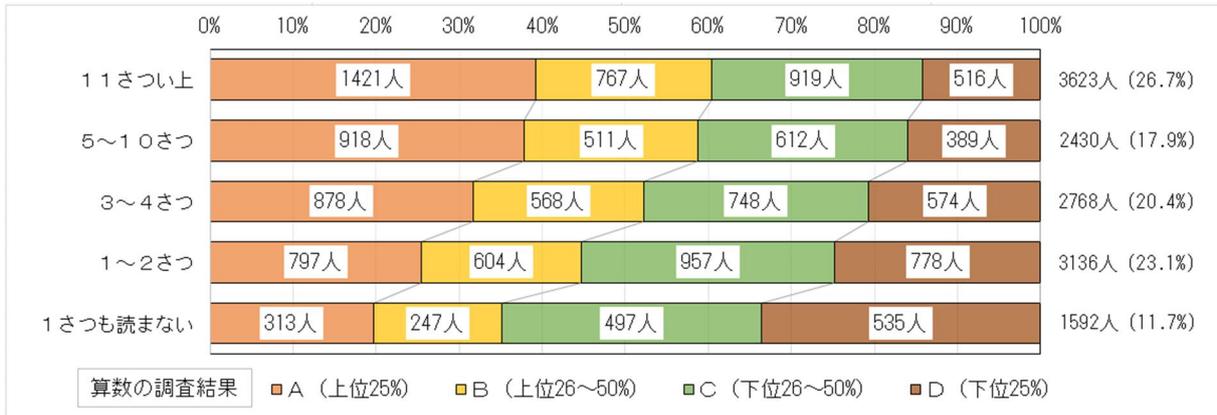
### 中学校2年生 国語



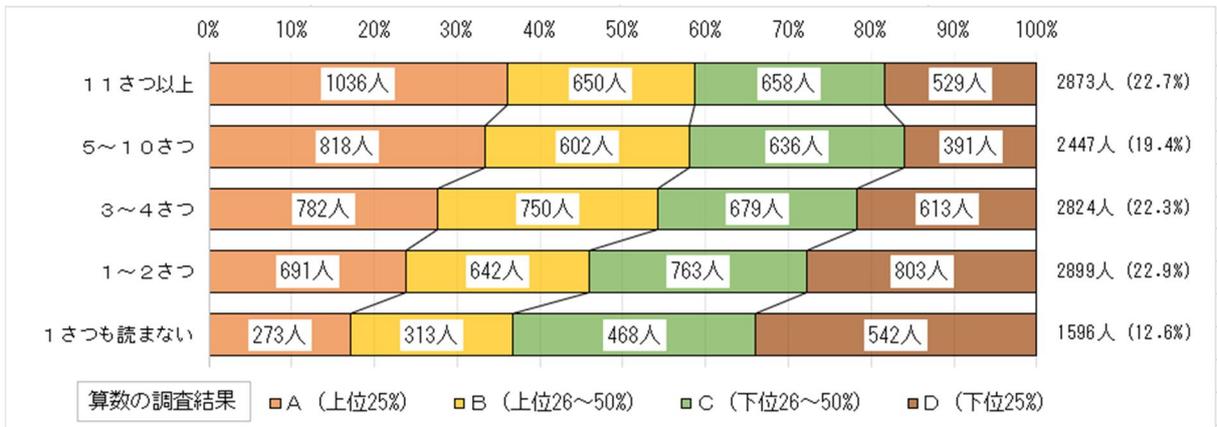
縦軸：質問『1か月に、何冊くらいの本を読みますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除きます）』

横軸：『算数・数学の調査結果』（小4～中2）

### 小学校4年生 算数

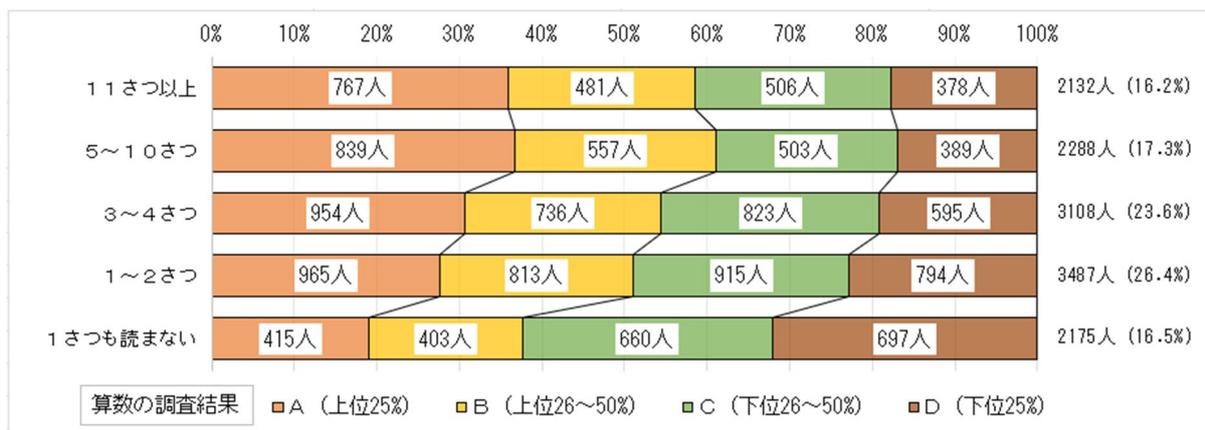


### 小学校5年生 算数

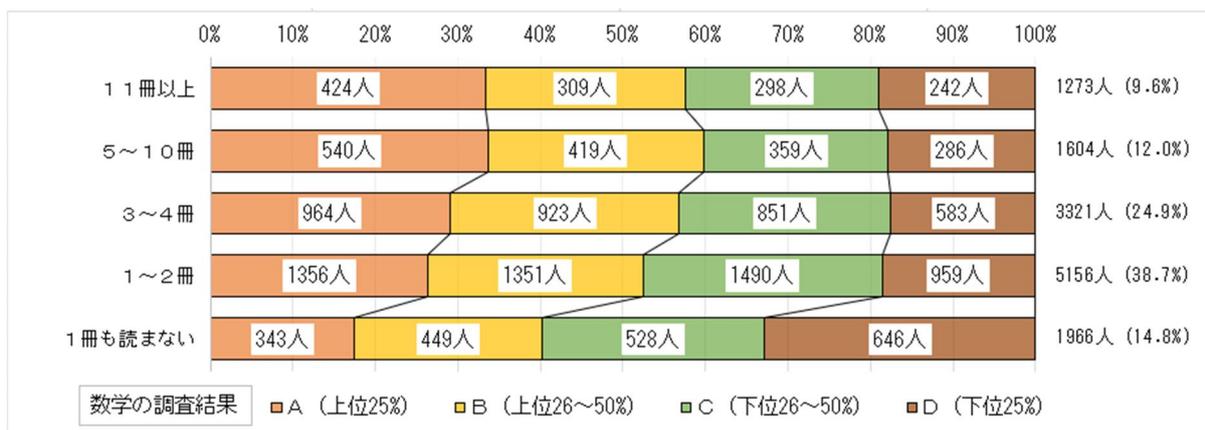


※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

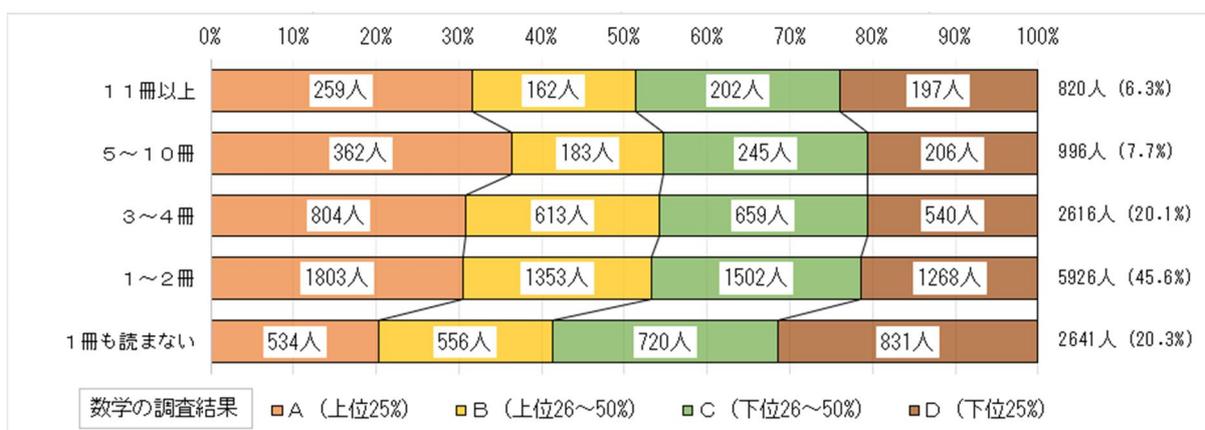
### 小学校6年生 算数



### 中学校1年生 数学



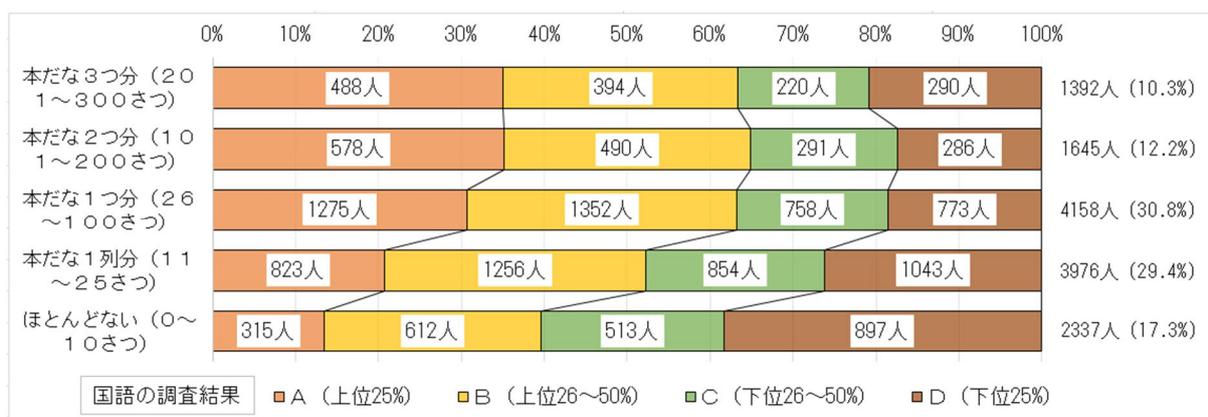
### 中学校2年生 数学



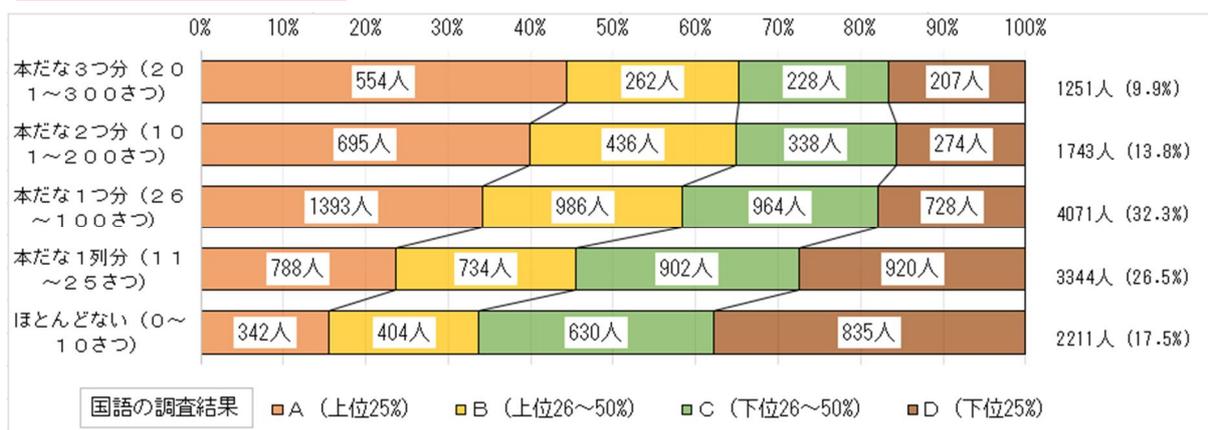
縦軸：質問『家には、自分や家の人が読む本がどれくらいありますか』

横軸：『国語の調査結果』（小4～中2）

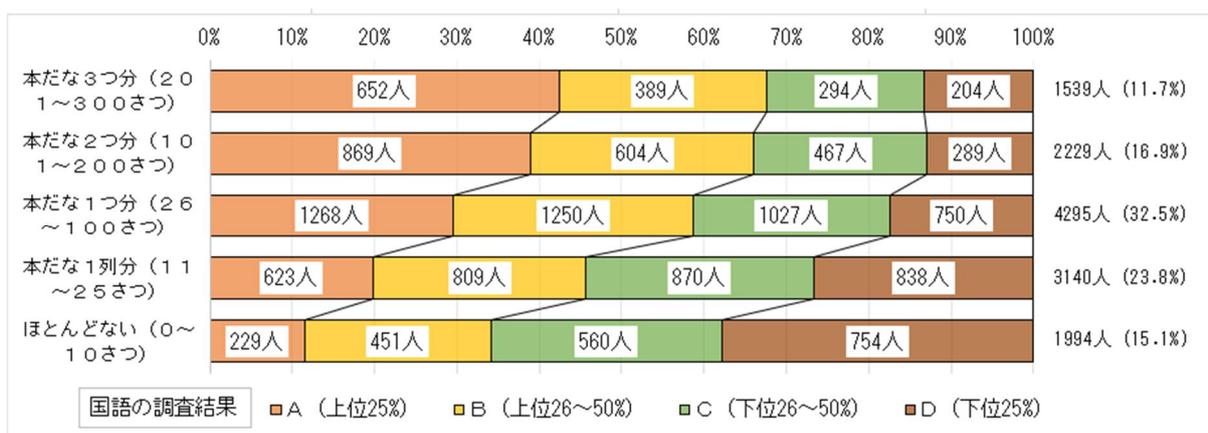
### 小学校4年生 国語



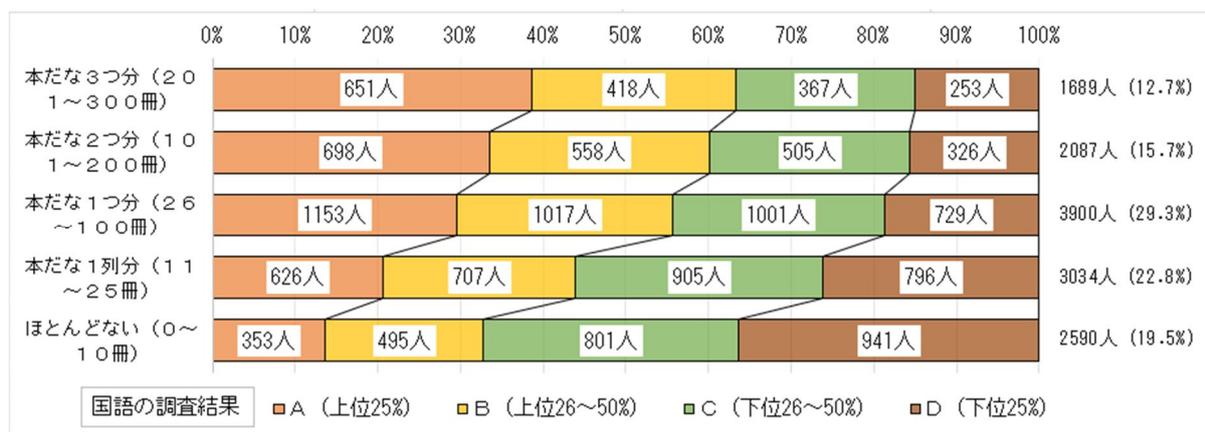
### 小学校5年生 国語



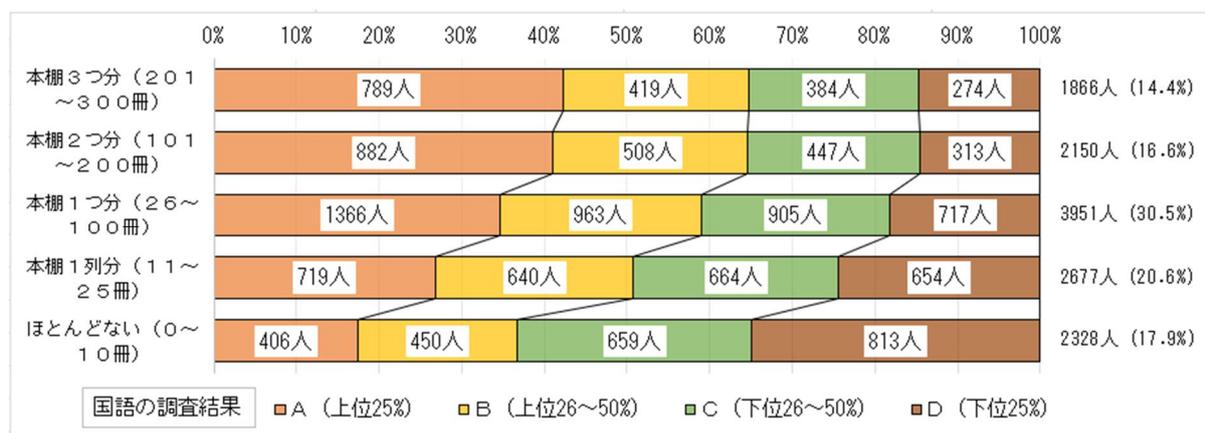
### 小学校6年生 国語



## 中学校 1 年生 国語



## 中学校 2 年生 国語

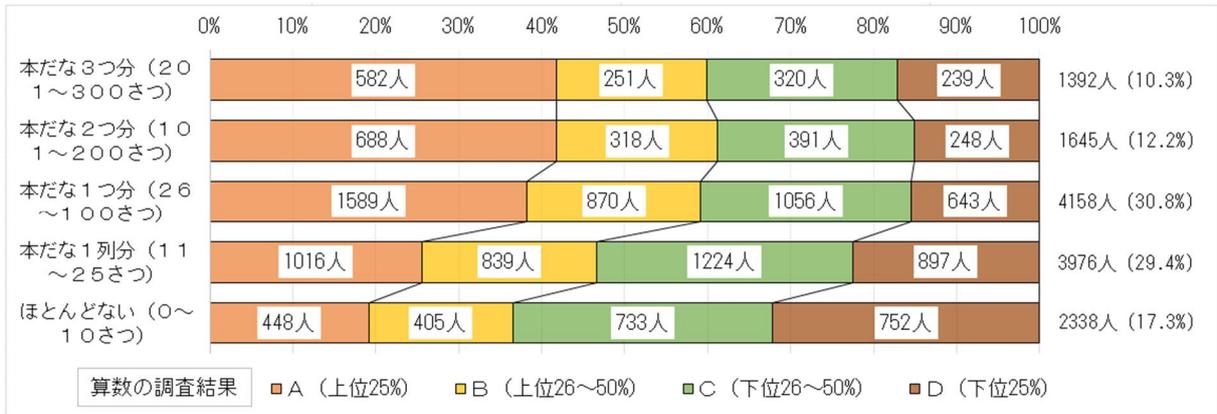


※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

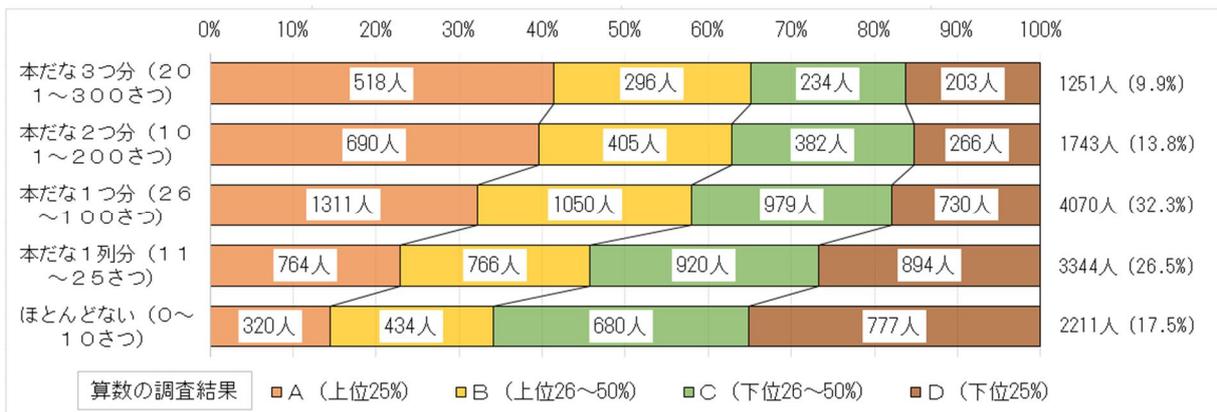
縦軸：質問『家には、自分や家の人を読む本がどれくらいありますか』

横軸：『算数・数学の調査結果』（小4～中2）

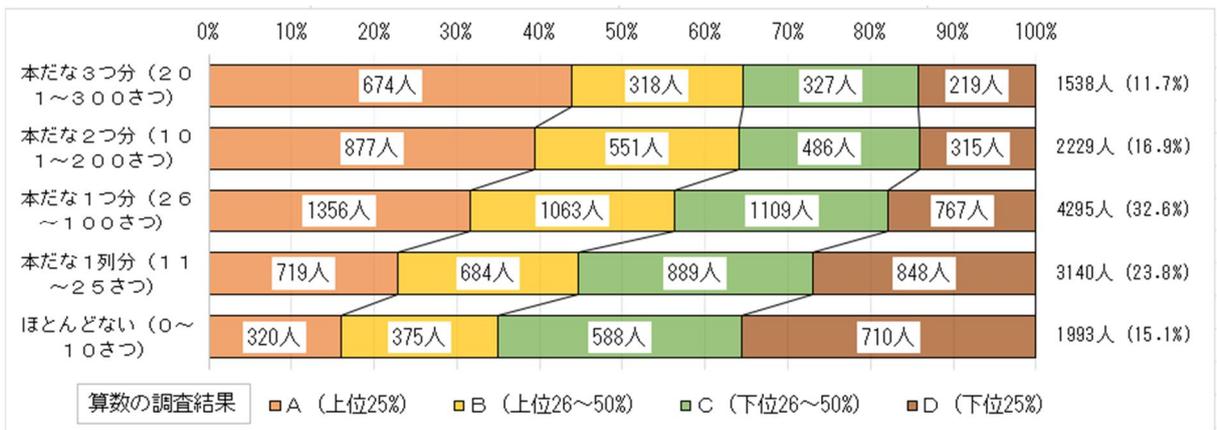
小学校4年生 算数



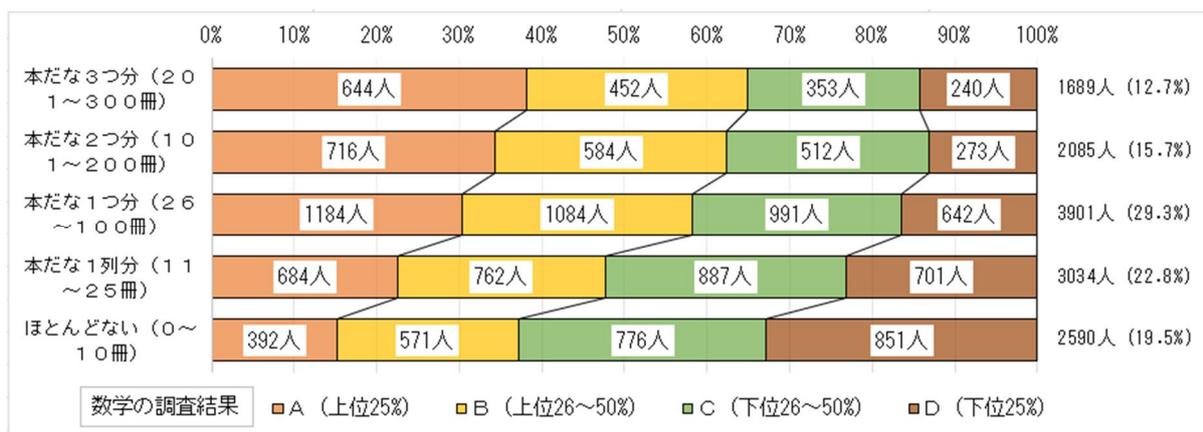
小学校5年生 算数



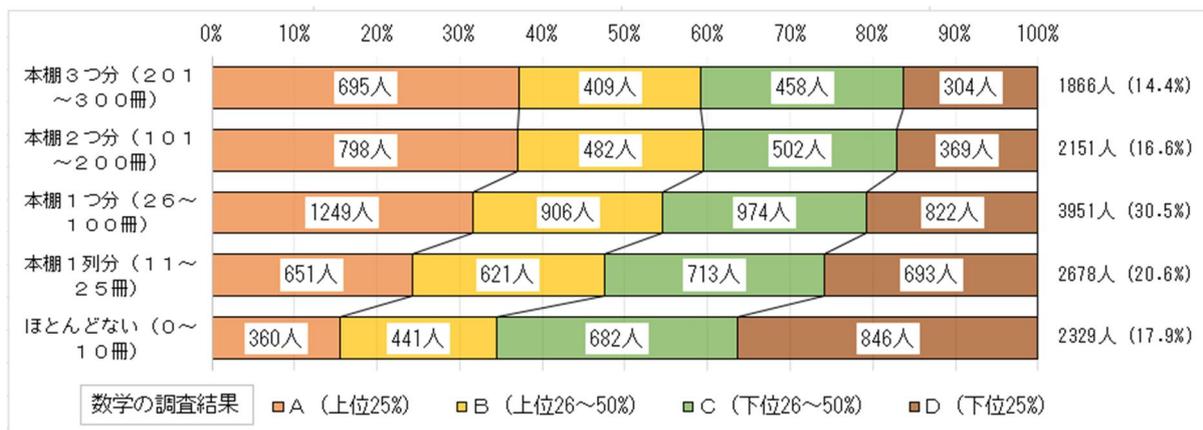
小学校6年生 算数



## 中学校 1 年生 数学



## 中学校 2 年生 数学



※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

## 7 エビデンスに基づく授業改善に向けた支援

### 1 子ども一人一人の「学力のレベルと学力の伸び」の可視化

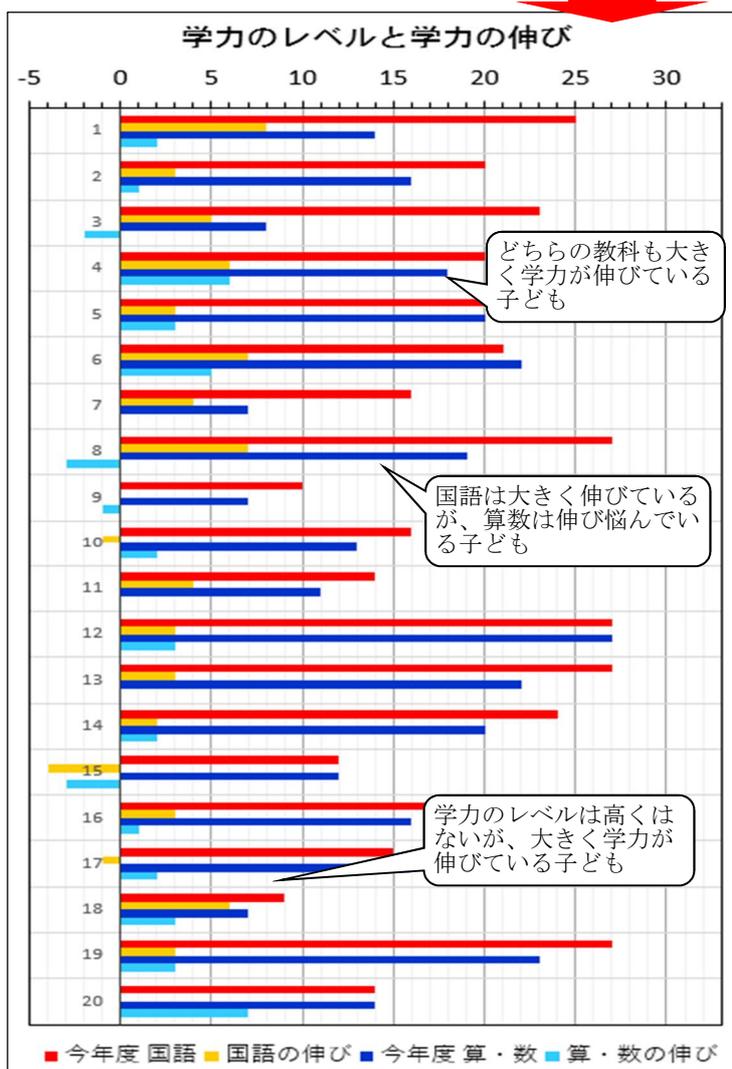
各学校に配付されている「帳票40」には、以下のとおり前年度調査の学力のレベルとの比較により、「昨年度からの学力の伸び」が数値として示されている。

40 学校用		国語		算数・数学	
		R4レベル	昨年度からの学力の伸び	R4レベル	昨年度からの学力の伸び
学籍平均	7-C			6-C	
学校平均	7-C	4	5-A	6-C	2
市町村平均	7-B	3	6-B	6-B	2
福島県平均					
9-C	8	6-B	5-B	2	4-A
7-B	3	6-B	6-C	1	5-A
8-B	5	6-A	3-B	-2	4-C
7-B	6	5-B	6-A	6	4-A
9-B	3	8-B	7-B	3	6-B
7-A	7	5-B	8-C	5	6-B
6-C	4	4-A	3-C	0	3-C
9-A	7	7-B	7-C	-3	8-C
4-C	0	4-C	3-C	-1	3-B
6-C	-1	6-B	5-C	2	4-B

義務教育課では、「学力の伸び」から、子どもたちのどのような姿が見えてくるのか、「帳票40」の数値だけでは見えにくいので、と考へ、「学力のレベルと学力の伸び」を可視化する「グラフ化ツール」を作成し、県内すべての小・中学校、義務教育学校、県立特別支援学校小学部・中学部及び、市町村教育委員会へ配布し、「グラフ化ツール」の使い方及び活用事例についてオンライン説明会を実施した。

右のグラフは、「グラフ化ツール」によって作成された小学校6学年のグラフの例であり、子ども一人一人の国語と算数の「学力のレベル」と「昨年度からの学力の伸び」を表している。

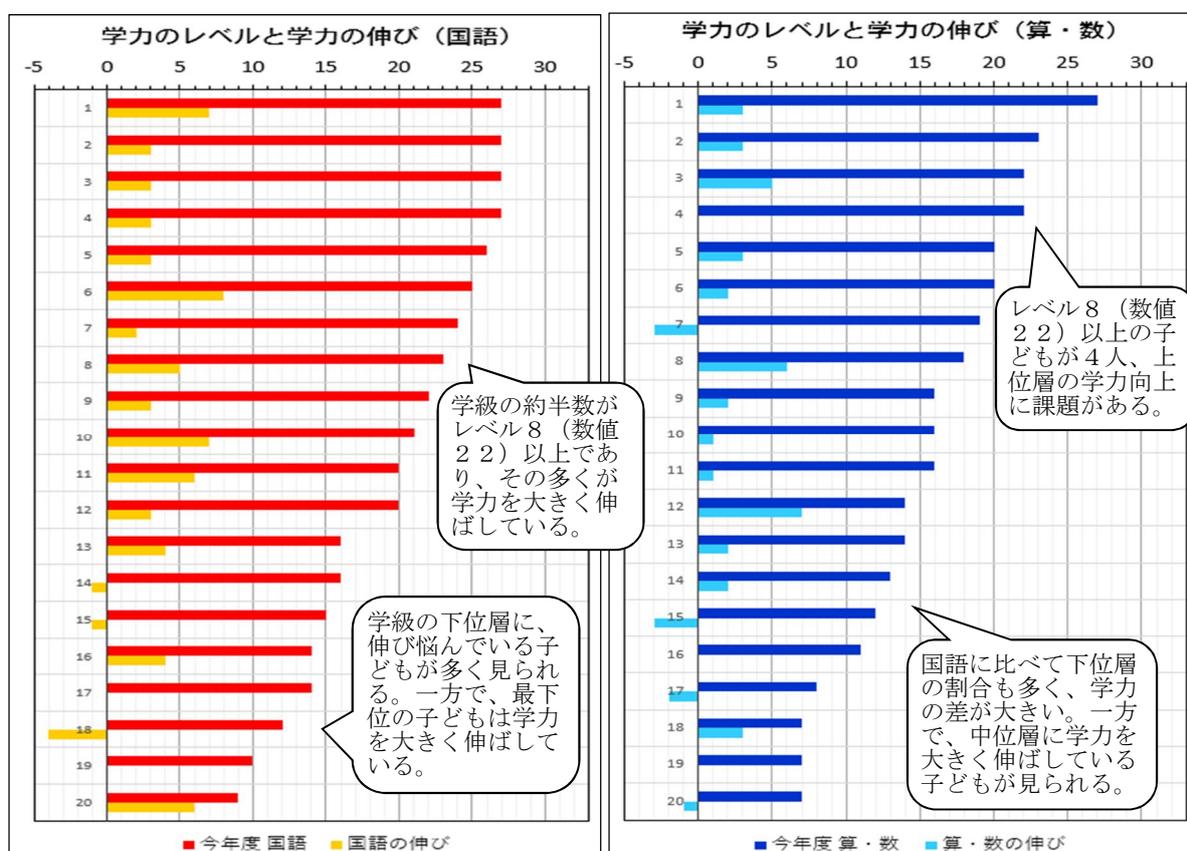
このグラフから、例えば、どちらの教科も大きく学力が伸びている子どもや、国語の学力は大きく伸びているが、算数は伸び悩んでいる子どもなど、子ども一人一人の「学力のレベル」と「昨年度からの学力の伸び」の状況が見えてくる。



これらのグラフを基に、子ども一人一人に寄り添い、称賛したり、励ましたりすることはもちろんだが、これらの結果を授業改善に生かすことが大切である。単に結果を見て、学力の状況を把握するだけでなく、例えば、学力が大きく伸びている子どもを、校内研究授業における抽出対象とし、事後研究会で学習への取組状況等を共有したり、伸び悩んでいる子どもに対する個別支援の方法を検討したりすることが考えられる。他にも、子ども一人一人にどのような変容があったのかを、生徒指導の面から話し合うことも考えられる。

## 2 エビデンスを教科指導に生かすために

子ども一人一人の学力の状況を把握すると共に、教科指導にも生かしたい。そこで、以下のように教科ごとにグラフを分けて表してみる（学力のレベルと学力の伸びの順）。



例えば、上の2つのグラフを見ると、国語においては、学級の約半数がレベル8（数値22）以上であり、その多くが学力を大きく伸ばしている。この学級での取組を互見授業等により共有することで、学校全体の授業改善が図られる。また、算数においては、レベル8（数値22）以上の子どもの数が少なく、上位層の学力向上が課題である。一方で、中位層に学力を大きく伸ばしている子どもがいることから、どのような指導が、学力の伸びによい影響を与えているかを検証し、自身の授業を振り返ることで、具体的な指導方法等の改善に繋がれると考える。

さらに、自校において、教科のどの領域、どの観点において強みや課題が見られるかについては、「帳票09」や「帳票28」から、学年全体や学級ごとの状況を把握することができる。さらには、必要に応じて「帳票01」から、子ども一人一人の採点結果を確認し、個別最適な学びに繋げることも大切である。

## 特別寄稿 分析協力者・宮城教育大学教職大学院 田端健人教授より

令和4年3月より、ふくしま学力調査等の結果分析を活用したエビデンスに基づく支援を行うため、宮城教育大学教職大学院の田端健人教授を分析協力者に招き、研究を進めている。前項で紹介した「グラフ化ツール」についても、田端教授の協力を得て作成したものである。今後も、田端教授と連携しながら、データ分析を活用したエビデンスに基づく支援を行っていく。

### 【分析協力者プロフィール】

宮城教育大学 教職大学院 教授 田端 健人 氏

<研究>※科学研究助成事業（科研費）

○研究題目「グローバル世界を視野とする学力・非認知能力の効果的学校モデル」

「学力/非認知能力を効果的に育成するスクールリーダーのデータサイエンス」

※ 本研究を進めるチームは、田端教授他7名

○研究の概要

- ・ 児童生徒の学力と非認知能力を向上させる「効果的学校」の姿を明らかにすること。
- ・ 校長のどのようなリーダーシップが、教職員のどのようなコラボレーションが、教師のどのような学級づくりや授業や支援が、児童生徒の学力と非認知能力を効果的に向上させるかを明らかにすること。

※ 全国学力・学習状況調査等を用いて、上記の研究を行っている。

<経歴等>

2019年4月～ 宮城教育大学 大学院教育学研究科 専門職学位課程 高度教職実践専攻  
(教職大学院) 教授 (現職)

2021年4月～ 文部科学省 学力調査アドバイザー (現職)

<主な著書>

○『IRT 分析ソフト EasyEstimation による全国学力・学習状況調査の検証と経年比較』  
(パイディア出版 2022年6月13日発行)

○『子どもの言葉データサイエンス入門－jReadability の活用と検証－』  
(パイディア出版 2021年)

「学力が伸びた生徒の割合」 中学1年生国語で62.4%って本当？

— 「測定された学力」と「実態としての学力」 —

宮城教育大学教職大学院 教授 田端健人

### 1. 「実態としての学力」は育ち続けている

この分析報告書の中には、「令和4年度調査から学力が伸びた児童生徒の割合」が掲載されています。例えば、中学1年生国語で62.4%とされています。では、37.6%の生徒は、国語の学力に変化がなかったり、低下したりしたのでしょうか？確かに、ふくしま学力調査は児童生徒の前年度からの「伸び」「変化なし」「低下」を測定できます。しかし、およそ4割もの生徒が、小6の時と国語の力が変わらないもしくは低下したというのは、おかしな話ではないでしょうか。

ここで私たちは「テストで測定された学力」と「実態としての学力」とを区別しなくてはなりません。小6の春から中1の春までの1年間、子どもは、学校内外で、たくさんの言葉を読み書き、聞き話す経験を積み重ねています。「実態としての国語力」が同じだったり、いわんや

低下したりするはずがありません。テストがその実態をうまく測定できなかっただけです。どれほどうまく作られたテストでも、測定できるのは、実態としての学力の一部でしかないので

す。  
ふくしま学力調査の個票を児童生徒に返す時には、特に前年度から学力レベルに変化がなかったり、下がったりした児童生徒に返す時には、「測定された学力」が「実態としての学力」と同じでないことに注意してください。実態としての学力をキャッチできるのは、先生方の実践感覚です。「あなたの学力が伸びていることは、先生にはよくわかっているよ、例えばね・・・」というメッセージを添えてもらえると、子どもの自信になるのではないのでしょうか。「今回のテストではそれが点数に表れなかったけど、・・・を続ければ、来年はきっと点数にも表れるから」と伝えてみてはどうでしょうか。この言葉には「ピグマリオン効果」があるかもしれません。将来の学力向上を先生が予知すると、生徒はそれを実現しやすくなるという効果です。

たとえ測定された学力が伸びていなくても、子どもの学力の実態の伸びを先生が実感していれば、それが非認知スコアとか学習方略とか生活習慣とかの伸びに表れているかもしれません。学力レベルで伸びがみられなかった児童生徒については、データの他の箇所での伸びを探して見つけ出してほしいと思います。

## 2. 「測定された学力」の奥深さ

測定された学力は、実態としての学力のごく一部にすぎません。しかし、一部でしかなくにもかかわらず、この数値は非常に謎めいています。

例えば、どうすれば学校や自治体といった集団の学力平均値を上げることができるかを考えてみましょう。これは難問です。それを解こうと分析や調査を重ねてみると、集団の学力平均値は、ドリルや直前のテスト対策で向上するような単純なものではないことがわかってきます。

学力向上を実現した学校と自治体の調査から、私たちは学力向上のポイントを、「組織力」「多角的な取組」「リーダーシップ」の3点にまとめました。集団の学力は組織の力があってこそ動かすことができるという見解です。「組織」は、「町教育委員会」「校長会」「学校」に分けることができます。これら3組織が目標と情報を共有し、相互理解を深めながら協働し、それぞれ効果的に機能するのが「組織の力」です。調査した学校では、「家庭学習の定着」「読書の奨励」「授業改善」「落ち着いて学習できる環境づくり」といった「多角的な取組」を試みました。「町教育委員会」「学校長」「学力向上推進委員会」の「リーダーシップ」も重要です。町教育委員会は、各学校の児童生徒の様子を視察・聞き取り・把握し、学力調査のデータ分析を率先して行いました。学校のみドルリーダーの意識向上にも取り組みました。学校長は、安心して働くことができる職場づくりに努め、教職員のそれぞれの長所を生かせるよう配慮し、生徒指導も学力もチームで動く姿勢をとり、学力保障を共通の目標に掲げました。学力向上推進委員会では、お互いの学校の課題や成果を共有し、頻繁に情報交換しました。

ここまでくると、「学力向上」は、「点数を上げろ」という号令ではなく、児童生徒の知徳体すべての成長を支え促す組織的取組であり、教職員が安心して共に働くことができる組織への改善です。集団学力スコア向上の水面下には、この町の教育関係者全員を巻き込んだ、大がかりな組織的変革があったのです。この町の場合、測定された学力は、氷山の一角だったのです。

これはおよそ10年前の取組でした。その頃とは教育長も変わりました。次の教育長も熱意溢れる方で、町全体で取り組んできた学力向上を受け継ぎつつ、アップデートを重ねています。今年度の学力調査でもこの町の平均は全国平均を超えました。今年度は特に、家庭環境や教育資源に恵まれない地区の小学6年生の国語と算数が、全国平均を大きく超えたことに、関係者一同大喜びしました。